

人タルト否トノ事實ハ之ヲ審究スルヲ要セス
二十七年七月七日大審院判 水路敷原狀回復ノ件

質貸借契約ノ性質

○地所ノ質貸借契約ハ法律上物權タル性質ヲ有セスト雖モ一種ノ權利トシテ地所ノ所有主ニ追隨スルハ我國古來ノ慣習ナリ
三十年五月七日大審院判 質貸借契約請求ノ件

無期限質貸借契約ニ於テ反對ノ意思表示存セサル場合

○當事者カ無期限ノ質貸借契約ヲ爲スニ當リ反對ノ意思ヲ表示セサルトキハ明示ノ約束ノ外一般ノ慣例ニ依ルヘシトノコトヲ默示ニ約束シタルモノト見做ス
三十二年五月二十六日大審院判 質貸借契約請求ノ件

借地料増加ノ請求權

○宅地ノ無期限質貸借契約ヲ締結シタル後租稅ノ負擔比隣借地料ノ増加等ノ事由發生シタル場合ニ於テ其借地料ノ増加ヲ求メ得ルコトハ一般ノ慣習法ナリ

第二款 質貸借ノ効力

家賃取得ノ權利ト所有權移轉トノ關係

○家賃取得ノ權利ハ特別ノ合意ナキトキハ其家産ノ所有權移轉ノ日ヨリ當然買主ニ屬スヘキモノトス
二十九年五月十五日大審院判 家賃金請求ノ件

質貸借契約ノ目的タル家産カ徵發令ニ因

○質貸借ノ目的タル家産カ徵發令ニ依リ使用ノ爲メ徵發セラレタル場合ニ於

徵發令ニ於テ其徵發ノ權利金受取ノ權利者

テハ質借人ノ爲メニ質貸借契約ヲ解除スルノ權利發生スルニ止マリ當然其契約ノ消滅ヲ來スヘキモノニアラス
三十三年八月二十七日大審院判 徵發令上ノ賠償金ハ徵發ノ爲メ生スル損害ヲ賠償スル目的ヲ以テ支給セラレ、モノナレハ質借人モ所有者ト同シク徵發ノ爲メニ損害ヲ被ムリタルトキハ其賠償金ノ分與ヲ受クル權利アルモノトス(同上判決)

第四款 質貸借ノ終了

民法第六百十七條規定ノ注意

○土地ノ明渡ニ一ケ年ノ猶豫期間ヲ要スル民法第六百十七條ノ規定ハ當事者間ニ質貸借關係存在シテ其期間ヲ定メサリシトキ當事者ノ一方ヨリ解約ノ申入ヲナシタル場合ニ限リ適用スヘキモノトス
三十三年八月二十七日大審院判 質貸借ノ終了

【參照】 民法 第六百十七條

質借權ノ轉貸

○質貸人ハ質貸人ノ承諾ヲ經サレハ其質借權ヲ第三者ニ讓渡シ又ハ轉貸スルヲ得ス
三十三年八月二十七日大審院判 建物取拂地所明渡ノ件

【參照】 民法 第六百十二條

第八節 雇傭

無期ノ雇傭契約ノ効力

○無期限ニテ雇傭契約ヲ締結シタル以上ハ假令船舶カ航海不能トナリ雇人タ

第三編 債權 雇傭

ル船長其職務ヲ行フコト能ハサルモ契約ニ基ク權利義務ハ直チニ消滅スル
モノニアラス 二十八五月十六日大審院
判決二十七年第五百十四號 約定金貸金立替金請ノ求件

第九節 請負

○本節ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第十節 委任

委任狀ノ性質
及ヒ其効力

○委任狀ハ他人ニ或ル權限ヲ與ヘテ或ル行爲ヲ委任スルモノニシテ直チニ之
ヲ以テ賣買若クハ抵當貸借ノ證ト認ムルヲ得ス

委任狀其モノヲ以テ直チニ代理以外ノ權利關係ヲ成立セサルコト明白ナリ
但委任狀ニ依テ所有權移轉ノ爲メニ株券等ノ名義ノ書換ヲ行フノ能力ヲ附
與スルニ過キサルノミ

故ニ無記名委任狀ヲ添ヘタル株券ノ所持人ヲ認メテ直チニ其所有者ナリト
斷定スルヲ得ス何トナレハ其株券及ヒ其委任狀ノ記名ハ所持人ノ名義ニ非
レハナリ然リト雖トモ所持人ハ該株券ヲ抵當ト爲スノ權力若クハ自カラ所
有主タルコトヲ得ルノ權能ヲ有セサルニ非ス

白紙委任狀
抵當物ニ添付

○抵當物ニ白紙ノ委任狀ヲ添ヘタルトキハ債務者返金ノ義務ヲ怠リタル場合

引渡シタル
場合ノ効果

ニハ債權者自カラ被任者ノ名義ヲ以テ抵當物ヲ處分シ得ルノ便ヲ與ヘタル
モノト認定スルコトヲ得ヘキニ因リ其他ニ抵當ノ承諾書ヲ添ヘサルモ白紙
委任狀ノミヲ以テ抵當ノコトニモ承諾ヲ與ヘタルモノト認ムルコトヲ得ヘ
シ 二十六年三月二十九日大審院
判決二十五年第五百三十四號 擔保確認請求ノ件

白紙委任狀ノ
性質及ヒ其効果

○白紙委任狀ハ當初ヨリ委任權限ヲ明記セサルニヨリ賣買抵當等總テノ處分
權ヲ委任シタルモノモアリ又其一部分ヲ委任シタルモノモアリ要スルニ事
實判斷ノ範圍ニ屬スルモノナレハ立證ヲ要セサル顯著ノ一般習慣ト爲シテ
一概ニ論スヘカラス 二十六年六月六日大審院判
決二十五年第六百五十號 差押解除抵當品取戻ノ件

官吏官署ノ資
格ヲ以テ爲ス
債務ノ形式及
其證明方法

○官吏ノ資格ヲ以テ官署ノ爲メニ債務ヲ約スルニ際シテハ證券印紙ノ貼用ヲ
要セス官名ヲ用フルノ外官印若クハ廳印ヲ押捺スルヲ常トス即茲ニ官名ノ
肩書アルノミニテ私印ヲ押捺シ證券印紙ヲ貼用シタル證書アルモ之ヲ官
縣ノ債務ナリト判定スルヲ得ス仍ホ其債務ヲ懸債ナリト主張セントスルモ
ノハ相當長官ノ委任若クハ其他適法ノ方法ニ依テ之レカ立證ヲ爲スノ責任
ヲ有スルモノトス 二十六年七月四日大審
院判決同年第九十號 貸金催促ノ件

差配委任ノ性
質及ヒ其權限

○差配委任ハ或ル行政事務ノ一部ニ止マラス差配人が其借地料ヲ取立ツル如

キハ當然ノ職務ニシテ差配委任中ニ包含スルモノト云ハサルベカラズ儻シ
訴人ニ於テ差配人ノ權限ハ或ル行政ノ一部ニ止マルハ地ノ慣習アリト云ハ
、民訴第二百十九條ノ規定ニ據リテ之ヲ證明スルノ責アリ而シテ其慣習ノ
有無ヲ審査スルト否トハ裁判官ノ職權内ニ屬スルモノトス且ツ法律明治八
年第四百八十八號布告第二條ニ於テ地主ノ貸地證明ニ付キ他人ノ代理ヲ禁シ
タルコトナケレハ其代理委任ハ差配管理内ニ包含スト認定スルモ決シテ違
法ニアラス 二十六年十一月二十七日大審
院判決同年第三百七十四號 優先權排除ノ件、

委任代理ノ權

○委任狀ノ文詞ニ拙者固有特有ニ論ナク總テ保存スヘキ權利及ヒ義務ノ執行
ニ關シ公私百般ノ事ヲ辦理スルコトトアルトキハ總理代人ナルモ委任者ノ
義務ニ付テハ既ニ負擔スルモノ、履行ヲ爲スヘキ權限ヲ有スルノミニテ新
ナル義務ヲ生セシムル契約ヲ爲ス權限ヲ有セス故ニ總理代人カ新ナル契約
ヲ爲スニハ其本人ノ承諾ヲ要ス書入登記ヲ爲ス際ニ用ヒタル委任狀ニ本人
ノ實印ニアラサルモノヲ捺捺シアルニ於テハ本人ノ認諾ナキモノナルヲ以
テ總理代人ノ所爲ハ委任權限外ナリトス 二十七年五月十六日大
審院判決同年第五號 地所書入貸借證書債
務名義取消請求等ノ件

同斷

○總理代人ハ本人ニ代リ其名義ヲ以テ一般ノ事務ヲ管理スルニ止マリ固ヨリ
處分ヲ委任スルモノニアラサルヲ以テ一切ノ權義ヲ無効ナラシムルト云フ
如キ契約ハ特ニ其委任ヲ受クルニアラサルヨリハ之ヲ爲スノ權限ヲ有セス
二十七年十二月五日大審
院判決同年二百四十六號 濃惠會社精算書請求ノ件

仲裁人ノ權限

○仲裁人ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ニアラサレハ金圓授受ノ權限ヲ有セス 十
九年十月二十四日大審院
判決同年第五百三十三號 保證金請求ノ件

辯護士ト依頼
者トノ關係

○辯護士ト依頼者トノ關係ハ委任ニ因ル代理關係タルニ外ナラサルヲ以テ依
頼者ハ何等ノ理由ヲ明示スルヲ要セス辯護士ヲ解任スルコトヲ得ヘシ 三十
一月二十四日大審院判
決同年第三百二號 辯護料支拂請求ノ件

委任事務ノ半
途ニ於テ解任
シタル場合ノ
效果

○依頼者カ委任事務ノ半途ニシテ辯護士ヲ解任シタル場合ニ於テ反對ノ契約
ナキ限りハ辯護士ハ依頼者ノ爲メニ既ニ費シタル勞力ノ割合ニ應スル報酬
ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マリ委任事務完了ノ場合ニ對シテ豫定シタル報
酬全部ヲ請求スルコトヲ得ス

多數委任者ノ
權利

○多數委任者ニ對シ委任事務執行中收得シタル金錢ノ引渡ヲ請求スル場合ニ
於テ別ニ反對ノ意思表示アラサル限り多數委任者ノ權利ハ之ヲ平等ノ割合

委任者ノ義務

ナリト看做スヘキモノトス三十二年六月二十六日判決工費支拂殘金請求ノ件
○委任者カ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタルモノヲ委任者ニ引渡ス義務ノ目的物ハ其性質代替物ノ種類ニ屬スル場合ト雖モ當事者間ニ在リテハ既ニ特定シタルモノト同視スヘキヲ以テ通例トス三十二年四月八日第六號三十二年三月五日第一民事部判決

第十一節 寄託

受託物ヲ滅失シタル場合ノ責任

○倉庫會社カ火災ニ因リ受託物品ヲ滅失シタルトキハ其火災ハ自己ノ過失ニアラサルコトヲ立證シ初メテ賠償ノ義務ヲ免ル、コトヲ得二十九年五月十九日大審院判決二十八號四百二號

無償寄託ノ場合ニ於ケル注意ノ程度

○無償ニテ寄託ヲ受ケタルモノハ其寄託物ノ保管ニ關シ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲナスノ義務アルコトハ法理ノ當然ナリ三十二年六月十四日三十二年第二六五號 損害要償ノ件

給付ノ契約ヲ寄託ノ目的トキ

○民法施行前ニ在リテハ金錢其他ノ物ヲ給付スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ其債務者ト債權者トカ之ヲ以テ寄託ノ目的トナスコトヲ契約スルトキハ寄託契約ハ成立シタルモノナリ三十四年六月三日第三三二號同年十一月二十一日第一民事部判決 預金請求ノ件

第十二節 組合

組合營業ノ實權ヲ有スルモ必シモ營業者ニ非ス

○單ニ組合營業ノ實權ヲ有スルノ故ヲ以テ營業者ト認メ速斷シタル裁判ハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ三十五年三月三日大審院判決二十四號第六十五號 貸金催促ノ件

組合員ノ義務

○組合員カ其組合ノ財産ヲ抵當トシ貸金ヲ爲スハ妨ケナシト雖モ尙モ組合ニ同盟スル以上ハ必ス其規約ヲ遵守スルノ義務アリ故ニ其規約ニ於テ組合ノ營業物件ヲ一定ノ時期マテ賣買スルヲ得サルトキハ其間ハ假令貸金ノ辨濟ヲ受クル時機到來スルモ抵當權ヲ執行スルカ爲メ物件ヲ競賣セシムルコトヲ得ス二十七年二月十六日大審院判決二十六年第五百四號 強制執行ニ對スル異議ノ件

同業規約ノ更正カ全額ノ變更ナラサルトキニ於テ舊規約ニ依リ選舉セル組合長ノ資格

○同業者組合ノ規約中役員選舉ノ方法ヲ改ムルモ其全額ノ組織ニ變更ヲ來サハル上ハ舊規約ニ基キ真正ニ選舉セラレタル組長ノ資格ハ其任期中有效ナリ故ニ新規約ニ因ル組長ノ選舉ハ無効ナリ二十九年三月六日大審院判決二十八年第二百六十二號 漁業組合長事務引繼ノ件

無盡講會ノ會長又ハ役員ノ權能

○無盡講會等カ契約ヲ以テ其講ノ會長又ハ世話人ノ如キ役員ヲ定メ之ニ其一已ノ債權トシテ無盡講掛金ヲ裁判上取立ツルノ權能ヲ付與シタル場合ニ於テハ會長又ハ世話人ハ自己ノ債權トシテ自己ノ名義ヲ以テ議員ニ對シ掛金拂込ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノトス三十三年六月六日第一民事部判決 榮明講掛金拂込請求ノ件

組合員ノ權利義務

○組合員カ各自ニ立替金又ハ預リ金ヲ爲スニ付キ利子ニ關スル申合又ハ契約ノ證左ナキトキハ總テ債務ニ對シ利子ヲ附スルコト能ハストノ判斷ハ條理上相當ナリ
二十八年十月十八日大審院判決同年第四十八號 協信組精算請求事件

第十三節 終身定期金

○本節ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第十四節 和解

○本節ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第三章 事務管理

事務管理者ノ權限

○事務管理人ハ管理行爲ノ外必要ノ場合ニ於テ本人ノ意思ニ反セサルトキハ處分行爲モ亦之ヲ爲スコトヲ得
三十二年十二月二十日判決第七八號 契約履行請求ノ件

第四章 不當利得

府縣知事等國庫ノ棄損シタルモノヲ徵收シ其金額ヲ國庫ニ納入セサル

○府縣知事ニ於テ國庫ノ棄損シタルモノヲ徵收シ其金額ヲ國庫ニ納入セサル

ルモノヲ徵收シタル場合

トキハ不當ノ徵收不當ノ利得ト云フヘシ
二十五年四月五日大審院判決二十四年三百六十一號 過剰金取戻ノ件

○自己ノ犯罪ヲ理由トスル訴訟ハ裁判上保護ヲ與ヘス(同斷)

賭博原因ニ基ク給付ノ債務請求

○賭博ノ爲メ給付ヲ爲シタルニ因リ發生シタル債權ノ如キハ不法ノ原因ニ基ク權利ナルヲ以テ裁判上請求スルコトヲ得ス
三十一年十月八日大審院判決同年第六十四號 預ケ金請求ノ件

利得請求權者ノ證明責任

○不當利得ノ返還ヲ請求スル者其相手方カ法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ得タル事實ヲ立證セサルヘカラサルノミナラス尙之レカ爲メ自己ノ被リタル損失ノ事實ヲモ立證スルノ責アリトス
三十二年六月十四日判決同年第四六號 市町村共有金返還請求ノ件

利得請求權ノ限度

○不當利得ノ返還ハ請求ノ當時現存スル利益ニ依ルヘキモノニ非スシテ其得タル時ノ利益ノ存スル限度ニ依ルヘキモノトス
三十三年一月十一日判決三十二年第二四三號 不當利得金取戻請求ノ件

賠償請求權ノ發生

○損害賠償請求件ノ訴權ハ現ニ損害ヲ受ケタル事實アリテ初メテ發生スルモノナルカ故ニ單ニ損害ヲ受ケタルル豫備トシテ其支拂ヲ爲サシメントスルカ如キハ固ヨリ許容スヘカラサル不當ノ請求ナリトス
三十三年五月四日判決三十二年(オ)第一八一號 地所名前換登記請求并損害賠償ノ件

民法第七百七
條ノ法意

民法第七百八
條ノ法意

現ニ利益ヲ受
ケタル限度ニ
於ケル金額ノ
返還及ヒ立證
責任

法律ノ禁制ニ
違反シタル行
爲ニ因リ爲シ
タル給付ノ取
戻

民百二十八

○民法第七百七條ハ錯誤ニ因テ辨濟ヲ爲シタル債務ニツキ同一ノ請求原因ヲ以テ第三者ニ之ヲ請求スルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於ケル規定ナリトス三十四年(オ)第三十三號三十四年三月二十八日民事第一審判決

○不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノハ其給付シタルモノト返還ヲ請求スルコトヲ得ストハ不當利得ノ場合ニノミ適用スヘキ法則ナリ從テ之ヲ以テ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ場合ニ適用スルコトヲ得ス三十四年(レ)第二十七號三十四年四月五日刑事部宣告

【參照】 民法 第七百八條

○地所賣買契約カ無能力者トノ取引ナルカ爲メ無効トナリタル場合ニ無能力者ノ受取リタル代金ニ付テハ法理上現ニ利益ノ存在スル限度ニ於テノミ返還ノ責ヲ負フヘキモノトス隨テ代金ノ返還ヲ請求スル者ハ代金ノ授受及ヒ契約ノ無効ニ歸シタル事實ノミナラス其代金ニ因リ相手方カ現ニ利益ヲ受ケ居ル事實ヲモ立證スルノ責任アリ三十年九月三十日大審院判決同年第三四五號不當利得取戻請求ノ件

○法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ハ無効ナリト雖モ法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ニ因リテ爲シタル給付ハ必スシモ取戻シ得ヘカラサルモノニアラス其給付ノ取戻シ得ヘカラサルハ其行爲ノ性質上當然醜惡ナル場合ナラサルヘカラス三十三年五月二十四日判決三十二年第二八三號株式讓渡代金取戻ノ件

○不法ノ原因ニ基ク權利ハ債權者カ訴ヲ起シテ債權ノ履行ヲ請求スル場合タルト債權者カ訴ヲ起シ其債權者ノ請求權ヲ無効タラシメントスル場合タルト問ハス均シク裁判所ニ向テ救濟ヲ仰クコト能ハサルモノトス三十三年十月三十一日第二民事部判決證書取消請求ノ件

第五章 不法行爲

妨害行爲差止
訴訟ノ行使

共同不法行爲
者ノ責任

海面使用權ノ
損害

○妨害行爲差止ノ訴權ハ現ニ其妨害ノ存スル場合ニ限ラス其將來ニ關スル場合即被告ニ於テ權利侵害ヲ脅迫スルトキニ於テモ之ヲ行フコトヲ得三十年三月十九日大審院判決二十九號損害賠償等ノ件

○數人共謀シテ一ノ不法行爲ヲ爲シタルトキハ之レヨリ生スル責任ハ連帶義務ナルニ依リ始メニ其中一名ニ對シ訴ヲ提起シ更ニ他ノ數名ニ對シ訴フルモ其訴訟ハ共ニ有効ナリ

○海面ハ行政廳ノ特許ヲ受ケ専用スル場合ノ外各人ニ於テ他ノ妨害トナラサル程度ヲ以テ自由ニ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ而シテ此權利人ハ公法上ノ

第三編 債權 不法行爲

民百二十九

關係ヲ有スルモノニモセヨ私法上亦之ヲ保護セザルヘカラス故ニ其自由ヲ侵害セラレトキハ被害者ハ加害者ニ對シ損害賠償又ハ侵害差止ノ要求ヲ爲シ得ヘキモノトス三十二年六月一日大審院判決第三百五十八號損害賠償請求等ノ件

○賣買名義ヲ假裝シ其實貸金ノ抵當ニ取置キタル地所ヲ債權者カ擅ニ他ニ賣却シタルトキハ其所有者タル債務者ニ於テ惡意ノ買主ニ對シ之ヲ追求シ或ハ不法行爲ニ基キ債權者ニ損害賠償ヲ求ムルモ其隨意ニ屬ス三十二年十月十二日大審院判決同前第八十三號損害賠償ノ件

○債務者カ將ニ身代限リトナラントスルニ際シ其債權者ニ對シ無資力ナルコトヲ示シ債權ノ減損ヲ求ムル目的ヲ以テ名ヲ賣買ニ假裝シ其財產ヲ他人ノ所有名義ト爲シタル行爲ハ不法ナリ三十二年二月十四日大審院判決三十二年第六十三號取込金請求ノ件

○不法ノ原因ヲ憑據トスル請求ハ法律ノ保護スヘキモノニアラス
○債務者カ債權者ヲ詐害スル目的ヲ以テ所有地ノ保管ヲ他人ニ託シ名ヲ賣買ニ假リ之ヲ隱匿スルカ如キハ不法行爲ナルヲ以テ其地所ヲ取戻ス爲メ法律ノ保護ヲ受クルコトヲ得ス三十二年四月二十六日大審院判決三十二年第二百五十三號預ケ地所登記書換請求ノ件
○證書偽造ノ行使ノ如キ犯罪行爲ヲ以テ他人ニ損害ヲ蒙ラシメタルモノハ之

假裝所有名義ニ因リ抵當土地ヲ賣却シタル者ニ對スル權利

無資力ヲ示シ賣買ニシテ他人ノ所有名義ト爲シタル行爲

不法原因ヲ憑據トスル請求物ノ保管ヲ託シ名ヲ賣買ニシタル行爲

犯罪ニ因リ他人ニ損害ヲ加

ヘタル者ノ責任

債權轉付ノ手續アリ爲メニ損害ヲ受ケタル者ノ權利

危險ノ設備充分ナラサル爲メ加ヘタル損害責任

過失ニ依リ不當ノ申立ヲ爲シ加ヘシメタル場合

直接ノ履行ヲ求ムルニ於テ利益アル場合ハ確認訴訟ヲ爲シ得ヘシ

他人ノ證書ヲ保管シタル者

ヲ賠償スルノ責任ヲ有ス三十二年五月三十日大審院判決同前第六十五號損害賠償請求ノ件

○債權者カ債權轉付ヲ得タルハ法律上ノ原因アリテ利益ヲ取得シタルモノトス故ニ若シ債權轉付ノ手續ニ違法ノ廉アリシ爲メ損害ヲ被フリタルモノアレハ不法行爲ト云フヲ得ヘキモ不當利得ト云フヲ得ス三十二年十月十九日大審院判決同前第五十六號不當利得取戻請求ノ件

○電線架設ノ如キ危險ノ工事ヲ施設スル者ハ其危險豫防ノ設備充分ナラサルカ爲メニ損害ヲ蒙リタル者ニ對シ賠償ノ責任セサルヲ得ス三十二年十二月七日大審院判決同前第九一號損害賠償ノ件

○過失ニ因リ不當ノ申立ヲ爲シタル爲メ裁判所ヲシテ事實ノ認定上錯誤ニ陥ラシメ以テ破産ノ決定ヲ爲サシメタル結果他人ニ損害ヲ被ラシメタルトキハ賠償ノ責任スヘキモノトス三十二年十二月二十一日大審院判決三十二年第二〇〇號損害金要償ノ件

○直接履行又ハ損害要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ト雖モ苟モ確認ノ訴ヲ提起スルニ於テ利益アルトキハ之ヲ許スヘキモノトス三十三年二月二十二日大審院判決三十二年第三七號不動產賃借料請求ノ件

○他人ノ債權證書ヲ保管シタル者カ何等ノ原因ナクシテ不法ニ且恣マ、ニ之

原因ナクシテ
不法ニ債務者
ニ證書ヲ返還
シタル者ノ責
任

民法第七百九
條ノ法則ノ適
用

被使役者ノ行
爲ニ對スル使
役者ノ責任

○ 債務者ニ返還シタルモノトテ唯此ノ返還ノ一事ヲ以テ法律上其債權ヲ消滅シタルモノト爲シ直チニ其保管者ヲシテ債權額賠償ノ責務ヲ負ハシムルコトヲ得ス 三十四年九月三日民事第二部判決 損害賠償ノ件

○ 故意又ハ過失ニ依リ營業上必要ナル物品ヲ差押ヘ爲メニ休業スルノ止ムヲ得サルニ至ラシメタルモノハ營業者ニ於テ該物品ハ他ヨリ買受ケ又ハ借リ受ケテ營業ヲ繼續シ得ヘキ性質ノモノナリトノ理由ヲ以テ休業ニ對スル損害賠償ノ責任ヲ免レ得ヘキモノニアラス 三十三年九月十四日同部判決

○ 新聞紙ヲ發行スル株式会社ノ代表者タル專務取締役ハ編輯人及ヒ印刷人發行人ヲ使用スルモノトス從テ新聞紙發行事業ニ付キ右等ノ者カ第三者ニ加ヘタル損害ニ對シテハ民法第七百十五條ニ依リ使用者ハ其賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

【參照】 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スルモノハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキハ此限ニアラス (民法第七百十五條)

名譽侵害ニ對
スル損害額ノ
算定

智能程度ト民
事犯罪責任

○ 人ノ名譽ヲ害シ因テ生シタル財産以外ノ損害ニ付キテハ其性質上損害額ヲ證明セサルモ裁判所ハ諸般ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘキモノトス

○ 犯罪行爲ニ依リ他人ノ權利ヲ侵害シタル者カ刑事上ノ責任ヲ負フニ必要ナル識別心ヲ有スル以上ハ其智能ハ同一行爲ヨリ生スル民事上ノ責任ヲ辨識スルコトヲ得ル程度ニ達シタルモノト認ムヘキモノトス 三十四年九月十七日七號三三三號三十四年十二月二十七日宣告 失致死附帶私訴ノ件

第四編 親族

第一章 總則

刑法ノ親族例
ハ民法ニ適用
スルヲ得ス

寡婦子ヲ遺シ
テ實家ニ復籍
シタル場合ノ
親子ノ關係

○ 刑法第一百四條同第一百五條ハ單ニ親族ノ範圍ヲ定メタルモノナレハ相續權ノ如キ民法上ニ於ケル身分ノ資格ヲ證スル場合ニ適用スヘキモノニアラス 二十九九月十五日大審院判決同年第九十八號 相續權確認請求ノ件

○ 夫ノ死亡後寡婦カ子ヲ遺シ實家ニ復籍スルモ亡夫ノ家ニ對シ當然親族關係ヲ斷絶スヘキ判例若クハ習慣ノ存スルコトナシ故ニ寡婦ノ實弟カ最近親族

トシテ該遺子ノ家政ニ關係スルハ相當ナリ 三十二年五月一日大審院判決同年第五十八號 田地賣買無效確認要求等ノ件

卑屬親ヨリ尊屬親ニ對シ若クハ婦ヨリ夫ニ對シ訴訟當事者

○戸主廢罷又ハ夫婦離婚等ノ争ニ付キ卑屬親ヨリ尊屬親ニ對シ若クハ婦ヨリ夫ニ對シ訴訟ヲ提起スルニ當リ其父母若クハ其他ノ親戚カ共同原告トシテ訴訟ニ加入スルコトハ從來一般ニ行ハレタル慣例ニシテ今日ニ在テモ不適法トナスノ謂ナシ 三十二年五月十九日大審院判決三十年第六十三號 戸主更新ノ件

第二章 戸主及ヒ家族

第一節 總則

第二節 戸主及ヒ家族ノ權利義務

家族ノ特有財產ニ對スル戸主ノ權利

○家族ノ特有財產ハ戸主之カ處分權ヲ有ス 二十四年九月二十五日大審院判決同年二二號 地所買求ノ件

○戸主タル者ハ其家族ニ屬スルモノヲ保育スヘキ義務アルハ我國ノ習慣ナリ故ニ戸主ノ孫タル小兒ヲ預リ居ル者ヨリ其引取ヲ請求スルトキハ戸主タル者ヲ之ヲ拒ムヲ得ス 二十七年十月八日大審院判決同年二四二號 小兒引取方請求ノ件

○金員ノ預リ主カ我家ノ財產ヲ長男ニ讓渡シ隱居シタルモ預リ主タルノ義務

金圓ノ預リ主カ其家ノ財產

シ長男ニ讓渡シタル場合 家族ハ各特有財產ヲ有ス

ヲ免カルヘキモノニアラス 二十八年一月十九日大審院判決二十七年四三六號 預ケ金請求ノ件

○家族ト雖トモ幼者ノ財產ヲ所有スルコトハ法律ノ許ス處ナリ則チ戸主カ其相續人タルヘキ者ニ家督ヲ讓リテ隱居ヲ爲スニ當リ不動産ノ全部又ハ一部ニ付キ名義ヲ改メシテ其所有ヲ留保シタルトキハ家族タル隱居ハ其記名財產ノ所有者ト云ハサル可カラス家督相續人ハ其家ノ財產ヲ相續スルノ權利ヲ有スルコト論ヲ俟タスト雖トモ隱居ノ所有スル財產ハ其家ノ財產即チ戸主ノ財產ト云フヘカラス 二十八年五月二十二日大審院判決二十七年四七二號 地所所有名義引直請求ノ件

前戸主ノ義務ノ承繼

○戸主カ代替物ノ借入ヲ爲スニ當リ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其家ノ戸主ニ限リ辨濟ノ義務ヲ負擔スヘキ特別ノ理由アラサル以上ハ借入ヲナシタル戸主カ其後戸主ノ位地ヲ退去スルモ辨濟ノ義務ヲ免ルヘキモノニアラス又抵當權ノ目的カ戸主ヲ退キタル家ノ現戸主ニ屬シ舊戸主ニ屬セサルノ事由ヲ以テ辨濟ノ義務カ會テ借入ヲナシタル舊戸主ノ負擔ニアラスト云フヲ得ス 三十二年五月二十四日大審院判決三十年四二七號 貸金請求ノ件

民法第七百三十三條及第八百六十一條ニ所謂家ニ入ルトハ身分ノ家ニ入ルルノ所謂家ニ入ルルノ意義

○民法第七百三十三條及第八百六十一條ニ所謂家ニ入ルトハ身分ノ家ニ入ルルヲ指シタルモノニシテ軀軀ノ家屋ニ入ルモノ即チ親子ノ同棲ヲ云フニアラ

ス二十三年二月八日判決 離縁復籍ノ件

〔参照〕 民法第七百三十三條第一項 子ハ父ノ家ニ入ル○民法第八百六十一條養子ハ縁組ニ依リテ養親ノ家ニ入ル

戸主權ノ効力

○一旦戸主トナリタル以上ハ如何ナル事實證據アリト雖トモ之ヲ廢退セシムルコトヲ得ス 三十二年(オ)第二一〇號 戸主廢退及相續不動産所有名義書換登記手續履行請求ノ件

家族ハ戸主ノ意思ニ反スルヲ得ス

○家族ニシテ民法施行後ニ戸主ノ意ニ反シテ居所ヲ定メタルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得 三十二年(オ)第二一〇號 離籍取消請求ノ件

戸主ノ家族ニ對スル權利

○戸主ハ一旦家族ニ對シ他ニ寄留スルコトヲ認許セシ後ト雖トモ一家ノ整理上之ヲ歸家セシムルノ必要ヲ生シタルトキハ相當ノ期間ヲ定メテ其居所ヲ轉スヘキ催告ヲ爲シ若シ之ニ應セザルトキハ戸主ハ其家族ニ對シ扶養スルコトヲ停止シ又ハ之ヲ離籍スルコトヲ得ルモ強テ歸家セシムルコトヲ得ス 三十二年(オ)第二一〇號 家族歸家請求ノ件

○推定家督相續人ハ戸主ノ指定シタル居所ニアラサルヲ理由トシテ離籍スルコトヲ得ス 三十二年(オ)第二一〇號 推定家督相續人ハ戸主ノ指定シタル居所ニアラサルヲ理由トシテ離籍スルコトヲ得ス 三十二年(オ)第二一〇號 推定家督相續人ハ戸主ノ指定シタル居所ニアラサルヲ理由トシテ離籍スルコトヲ得ス

推定家督人ニ對シ指定居所ニ在ラサルヲ原因トスル離籍

戸主中ノ債務ハ其家ヲ去リタルトキニ於テモ尙ホ責任アリ

○戸主中ノ債務ハ其家ヲ去リ他家ノ戸主ト爲リタル後ニ於テモ負擔者ニ於テ之ヲ辨濟スヘキモノトス 二十八年十月十九日大審院判決同年二二二號 約束手形金支拂ノ件

第七百四十九條ニ定メタル戸主ノ權利ハ之ヲ制限スルヲ得ス

○民法第七百四十九條ニ定メタル戸主ノ權利ハ契約又ハ親族會ノ決議ヲ以テ制限スルヲ得サルハ勿論ナレトモ戸主カ之ヲ行フニハ相當ノ理由アルコトヲ要スルモノニシテ絶對無限ニ行使スヘキモノニ非ス 三十四年(オ)第六一四號三十四年六月二十日第一民事部判決 離籍請求ノ件

同居者ト居住者トノ關係

○同居者ハ戸籍ニ關スル現行ノ制規上主タル居住者ニ附從シテ居住スルモノニシテ同等ノ地位ヲ有スルモノニアラス 三十二年(オ)第五一七號三十二年十一月二十六日第二民事部判決 有牒動産強制執行ニ對スル異議ノ件

其家屋内ニアル物品ノ所有ト同居者ノ所有トニ非サルコトモ判然セサルコトモ

○同居ノ場合ニ於テ一家ニ二人ノ戸主アルモ其家内ニ在ル物品ニシテ同居者ノ所有ニ屬スルコト判然セサル者ニ付テハ主タル居住者ノ所有ト推定スヘキモノトス 三十三年(オ)第五一七號同年十一月二十六日第二民事部判決 有牒動産強制執行ニ對スル異議ノ件

七四九條ノ戸主權ハ絶對無限ノモノニアラス

○民法第七百四十九條ニ規定シタル戸主權ハ一家整理ノ必要上附與シタルモノニシテ絶對無限ノモノニ非ス 三十四年(オ)第六八號同年十一月二十一日第一民事部判決 離籍届取消請求ノ件

第三節 戸主權ノ喪失

第四編 親族 戸主權ノ喪失

民法施行前ニ於テハ戸主ハシテハ得ヘ

○ 民法人事編ノ實施セラレタル今日ニ在テハ慣例ニ依リ既ニ戸主トナリタル者ト雖モ十分ナル理由存生スルトキハ之ヲ廢スルヲ得二十七年十一月十四日大審院判決同年三六六號 戸主廢止等ノ件

戸主中ノ義務ハ身分ヲ脫退スルモ尙ホ責任アリ

○ 一旦戸主トシテ負擔シタル義務ハ爾後戸主ノ身分ヲ脫退スルモ當然其義務ノ免脱ヲ得ヘカラス二十八十月二十六日大審院判決同年三〇一號 引受金辨濟請求ノ件

同斷

○ 戸主中ノ債務ニ付テハ隱居後ト雖トモ尙ホ責任アリ二十九年四月十四日大審院判決同年三八號 貸金請求ノ件

戸主ノ退隱ヨリ生スル効果

○ 戸主退隱スルトキハ一切ノ權利義務ハ家名ト共ニ跡相續人ニ移轉スルヲ以テ普通ノ慣例トナス三十年十一月四日大審院判決二十九年五月四號 辨償金請求ノ件

新戸主舊戸主ニ代リタル場合ニ於テ戸籍取扱官吏カ戸籍簿中前代戸主ノ名稱身分年齡ヲ抹消シ其傍ニ更ニ後代ノ戸主ノ名稱身分年齡等ヲ挿入スルハ各地方一般ノ慣習ニアラス故ニ之ヲ是認セル判決ハ不法ナリ三十二年八月大審院判決 不當相續取消請求ノ件

戸主ハ退隱ノ場合ニ自己ノ所有トシテ得ルハ民間ノ慣行ニシテ裁判所ニ於テモ之ヲ是認ス卅一年十二月十九日大審院判決同年三一三號

○ 戸主カ隱居ヲ爲ス場合ニ於テ特ニ不動産ノ一部ヲ留保シテ依然自己ノ所有ト爲シ得ルハ民間ノ慣行ニシテ裁判所ニ於テモ之ヲ是認ス卅一年十二月十九日大審院判決同年三一三號

所不正賣買取消請求ノ件

隱居後ニ爲シタル法律行為ノ効力

○ 隱居者カ隱居後ニ爲シタル法律行為ハ其家督相續人ニ對シテ効力ヲ及ホサハルコトハ一般ニ認メラレタル慣習法ナリ三十二年四月十五日大審院判決同年三一號 賣掛代金請求ノ件

民法施行前ハ一條ノ慣習法ナシ

○ 民法第七百六十一條ノ規定ハ慣習法ニナキ所ナルヲ以テ民法施行前ニ生シタル事項ニ適用スルヲ得ス

【參照】 民法第七百六十一條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル戸主權ノ喪失ハ前戸主又ハ家督相續ニヨリ前戸主ノ債權者及ヒ債務者ニ其通知ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ債權者及ヒ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

隱居ヲ爲スニ當リ財產ノ幾部ヲ自己ニ留保セントスルニ場

○ 戸主カ隱居ヲ爲スニ當リ其財產ノ幾部ヲ相續人ニ移サスシテ之ヲ自己ニ留保セントスルニハ特ニ其意思表示アルコトヲ要ス三十二年十二月十一日大審院判決同年第一五二號 不當讓與登記取消請求ノ件

第七百六十條規定ノ適用

○ 民法第七百六十條ノ規定ハ同法第七百五十九條ニ所謂隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタル後其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免カレタルトキニ於テ隱居ノ取消ヲ爲ス場合ニ適用スヘキモノトス三十二年十一月十三日大審院判決同年第一二〇號 地所抵當登記取消請求ノ件

【參照】民法 第七百五十九條 隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタルトキハ隱居者又ハ家督相續人ハ其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタル時ヨリ一年内ニ隱居ノ取消ヲ裁判ニ請求スルコトヲ得但追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス○隱居者又ハ家督相續人カ詐欺ヲ發見セス又ハ強迫ヲ免レサル間ハ其親族又ハ檢事ヨリ隱居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但其請求ノ後隱居者又ハ家督相續人カ追認ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ消滅ス○前二項ノ取消權ハ隱居届出ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

○民法第七百六十條 隱居ノ取消前ニ家督相續人ノ債權者ト爲タルモノハ其取消ニ因リテ戸主タルモノニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得但家督相續人ニ對スル請求ヲ妨ケス○債權者カ債權取得ノ當時隱居取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタルトキハ家督相續人ニ註シテノミ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得家督相續人ヨリ負擔セル債務及ヒ其一身ニ專屬スル債務ニ付亦同シ

第三章 婚姻

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

第二款 婚姻ノ無効及取消

第二節 婚姻ノ効力

第三節 夫婦財產制

第四節 離婚

第一款 協議上ノ離婚

第二款 裁判上ノ離婚

婚姻解消後ノ
離縁

○婚姻ハ婦カ婚家ノ家族トナルノ原因ナルヲ以テ夫ノ死亡ニ依リ此原因消滅スルトキハ寡婦ハ特別ノ事由アル場合ノ外離縁ヲ求ムルコトヲ得二十五年九月二十三日大審院判決

陸軍武官結婚
條例ノ精神

○陸軍々人ニシテ結婚セントスル者ハ陸軍武官結婚條例ノ規定ニ依ラサル可カラスト雖モ該條例ノ精神ハ軍人ノ配偶ヲ輕忽ナラシメサルニ過キス婚姻ノ有効無効ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス二十七年十月二十日大審院判決 不法婚姻取消等ノ件

養子女離縁ヨ
リ生スル效果

○養子女一旦離縁トナリシ以上假令養家ニ實子ヲ遺シタル場合ト雖トモ養家ノ家事ニ付親族トシテ關係スルノ權利ナキコトハ古來ノ習慣ナリ故ニ離縁トナリシ婦女ヲ妻トナシタル夫ハ妻カ舊養家ノ家事ニ付容喩ノ權利ナキコ

婿養子縁組解除ト離婚ノ請求ハ二個獨立ナリ

相當ノ式ニ從ヒ夫婦タリシモノノ地位

婚姻成立要件

民法施行前ノ婚姻ニ關スル法律ノ適用

第七百八十條ニ依リ取消ノ訴ヲ提起シタル後其判決前

トモ亦言フ俟タス二十七年十二月三日大後見解除ノ件

○婿養子縁組解除ト離婚ノ請求ハ二個獨立ノ請求ナルヲ以テ之ニ相當スル訴訟印紙ヲ貼用セサル可カラス二十八日十二月十三日大離婚請求等ノ件

○相當ノ式ヲ行ヒ夫婦トナリ且其實存スル場合ハ假令其身分ヲ戶籍ニ登記セサルモ法律上之ヲ夫婦ト見做スコトヲ得新民法第七百七十五條ノ規定ト相反ス二十九日九月十五日大相續權確認請求ノ件

○婚姻ハ結婚者本人ノ承諾ナクシテ成立スヘキモノニアラス故ニ未成年者ト雖トモ結婚シタル以上ハ承諾ヲ爲ス能力ヲ有セサルヘカラス從テ離婚ニ付テモ亦其能力ヲ有シタルモノト看做シタル裁判ハ相當ナリ三十一年二月十五日大無効相續確認請求ノ件

○民法實施以前ノ婚姻ニハ民法施行法第一條ニ依リ民法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス從テ戶籍吏ニ届出ヲ爲サ、ルモ其婚姻ハ有効ナリ三十四年九月三〇日九號同告宣

○民法第七百八十條ニ依リ檢事カ婚姻取消ノ訴ヲ提起シタル後ト雖トモ其判決前ニ於テ離婚アリタルハ不法婚姻ハ解消セラレタルヲ以テ檢事ノ取消

ニ離婚アリタル場合ノ効果

黙示上ノ離婚ナルハ否ヤハ裁判所ノ判定也

婚姻又ハ養女縁組等戶籍ニ登記ナキ場合ノ認定

權ハ自カラ消滅スルモノトス三十三年六月三日第一三九〇號同平

○一婦カ一時夫ノ家ヲ立去リタルハ黙示ノ離婚ナルヤ否ヤヲ判斷スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス三十三年二月一日判離婚届出請求ノ件

○婚姻又ハ養女ノ縁組等ハ戶籍ニ登記ナキモ裁判官事實上其ノ成立ヲ認定スルコトヲ得本例ハ新民法施行以前ニ下セシ判決ナリシ故ニ其規定スル所ト相反セリ二十九日六月二十三日大養子相續取消要求等ノ件

【參照】民法 第七百七十六條 戶籍吏ハ婚姻カ第七百四十一條第一項第七百四十四條第一項第七百五十四條第一項第七百六十五條乃至七百七十三條及前條第二項ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス(以下略ス)

夫婦同居ノ義務
○婦ハ其夫ト共棲スヘキ義務アルモノナレハ其夫家ヲ立出テタルハ自己ノ任意ニアラスト主張スル婦ハ之レカ立證ヲ爲スノ責任アリ二十九日二月二十三日大讓與地所取戻請求等ノ件

第四章 親子

第一節 質子

第一款 嫡出子

質子ト質父ノ關係ニ付テハ質子ノ身分ニ關スルカ如キ重大ノ事故アル時ニ限り骨肉至親ノ關係ニヨリ他家ノ養子ニ爲シタル質子(幼年ニ)ノ利益ヲ保護スル爲メ訴權ヲ行ハシメタル先例ナキニアラサルモ尋常財産移付ノ如キ場合ニマデ之ヲ適用スヘキモノニアラス 二十八七月三日大審院判 決二十七年第四百四十七號 地所賣買登記取消ノ件

○質父カ幼年者ノ利益保護ノ爲メ爲シタル財産上ノ處分行爲ハ其實父カ後見人タルト否トニ拘ラス幼年者ノタメニ効力ヲ有ス 二十九年五月二十七日大審院判 決二十八第三百七十二號 地所取戻請求ノ件

○人ノ身分ヲ證スル公證ノ帳簿ナル戸籍ニ依リ親子ノ關係ヲ認メタル原院判 決ハ適當ナリ 二十八七月一日大審院判 決同年第百七十三號 土地家屋讓與廢罷請求等ノ件

○認知ヲ求ムルノ權ハ子其直系卑屬又ハ其法定代理人ニ限り行使スルヲ得ルモノトス 三十二年一月十二日大審院判 決三十一年第三百二十二號 胎兒確認請求ノ件

○民法施行前ト雖トモ嫡出子否認ノ訴ヲ禁シタル法律及慣例ナシ 三十三年三月八日 判決三十二年(九) 第二九號 嫡出子否認ノ件

嫡出子否認ノ訴ヲ禁シタル法律慣例ナシ

認知ヲ求ムル權利ノ行使者

戸籍ニ依リ親子ノ關係ヲ認ムルハ正當ナリ

同斷

質子ト質父ノ關係

認知請求權ノ起 嫡出子否認ノ權ノ行使

○嫡出子ノ認知ヲ求ムル確認證ハ身軀引取若クハ扶養供與ノ請求ト同時ニ在ラサルモ單獨ニ提起スルコトヲ得 三十三年四月十日判決三十二年(九)第一六一號 質子認知請求ノ件

○嫡出子否認ノ訴ハ民法施行以前ニ在リテハ別ニ出訴ニ關スル期限ノ規定ナク民法ニ於テ始メテ之ヲ定メラレタルモノナルカ故ニ民法施行以前ニ夫カ子ノ出產ヲ知リタルモノニツキテハ民法施行法第三十四條ニ依リ其第三十二條及第三十一條但書ノ規定ヲ準用シ民法施行ノ日ヲ以テ起算點トナスヘキモノトス 三十三年(九)第四百八十八號三 十四年四月八日民事部判決

第二款 庶子及私生子

庶子ノ地位

○私生子モ相續權ヲ有スル場合ナキニアラスト雖モ既ニ他姓ヲ名乗リ戸籍上某ノ庶子ト編入セラレタル以上ハ某家現戸主ニ代リテ其權利ヲ取得スルヲ得ス 二十七年一月十九日大審院判 決二十六年第五百三號 不當相續取消等ノ件

○私生子カ其父トスルモノニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得サルハ明治六年布告第二十一號ニ依リ明カナレトモ嫡出子トシテ其引取及ヒ戸籍編入ノ請求ヲ其母親族ヨリナシ來リタルコトハ裁判上ノ慣例ナリ 三十二年六月二十二日判決同年第九二號 私生子引取及ヒ戸籍編入手續請求ノ件

私生子ノ認知 訴權

○明治六年第二十一號布告ハ私生子ノ認知ニ關スル規定ニシテ嫡出子ノ認知ヲ求ムル場合ニ適用スヘキモノニアラス
三十二年四月十日判決三十二年(オ)第一六一號 實子認知請求ノ件

【參照】 明治六年第二十一號布告妻妾ニアラサル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ一切私生ヲ以テ論シ婦女ノ引ケ受タルヘキ事但男子ヨリ已レノ子ト見留メ候上ハ婦女住所ノ戸長ニ請フテ免許ヲ得候者ハ其子其ノ男子ヲ父トスルヲ可得事

八百三十五條
法定代理人認
知請求權ノ性
質

○民法第八百三十五條ハ法定代理人カ自己ノ資格又ハ自己ノ權利ニ因リテ認知ヲ求ムルニ非スシテ無能力タル子又ハ其直系卑屬ヲ代表シテ認知ヲ求ムルノ意義ニ解釋セサルヘカラス
三十四年(オ)第四百三十二號三十四年十二月十七日第一民事部判決 私生子認知請求ノ件

【參照】 子其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得(民法第八百三十五條)

第二節 養子

第一款 縁組ノ要件 第二款 縁組ノ無効及取消 第三款 縁組ノ効力 第四款 離縁

養子ノ特有財
產ハ法律上之
ヲ禁セズ

○養子自身ノ財産ト養家ニ屬スル財産トヲ區分スルハ法律及慣習ノ禁セサル所ナリ
二十六年三月四日大審院 貸金催促ノ件
判決二十五年第三百八十號

幼年ノ養子財
產ヲ有スル場
合其管理者

○養子幼年ニシテ財産ヲ有スルトキハ養父養子ニ對シ其ノ親權ヲ行ヒ其財産ヲ自己ノ財産ニ於ケル如ク處理シテ他人ノ干渉ヲ受ケサルコト實父ノ實子ニ於ケル同一ナルヲ通例トス
二十八年七月三日大審院判 地所賣買登記取消ノ件
決二十七年第四百四十七號

○養父カ養子ノ所有地ヲ他ヘ賣渡スモ實父ニ於テ幼者(實子即チ他家ノ養子)利益保護ノ爲メ其ノ不當ヲ鳴ラシ之カ取消ヲ求ムル權利ナキモノトス

養子ノ再養子
及ヒ其契約ノ
効力并ニ養子
ノ身分取消

○養子ハ一旦其ノ家ヘ復籍シタル上ニ非レハ更ニ他家ノ養子トナルヲ得ス
八年九月十三日大審院判 相續權恢復財產引渡ノ件
判決同年第六十九號

○養子カ實家ヘ復籍セスシテ直ニ他家ノ養子ト爲ル契約ヲ爲スモ其契約ハ養子縁組ノ効力ヲ生セス

○養子タル身分ヲ得テ始メテ取得スヘキ相續權ノ如キハ養子縁組ノ効力ヲ生セサルトキハ之ヲ取得スルヲ得ス

戸籍上縁女ト
アルモ實際養
女ナル場合ニ
於テ其相續權
ノ順位

○戸籍上縁女ト記載アルモ實際其家ノ養女ナル時ハ戸主死亡シ他ニ其死跡ヲ相續スヘキ近親ナキトキハ養女ニ於テ之ヲ相續スルヲ當然ノ順序ナリトス
二十九年三月三日大審院判 相續權確認請求ノ件
決二十八年第三百五十二號

養子ト養嗣子
トノ相續順位

○養子ハ養嗣子ニアラサル以上ハ唯先位ニアルカ爲メ必スシモ家督相續權ヲ

養子離縁ノ原由

徴兵忌避ノ目的ヲ以テ養子ト爲リタル者ナラニ離縁セントスル場合

女戸主カ養子ヲ爲シタル場合ニ於テ其相續權ノ讓渡

養親子ノ關係

養親子間ニ於テハ相互ニ離縁ヲ請求シ得ヘシ

第八百十三條ニ所謂惡意ノ遺棄トノ義務

有スルモノニアラス 二十九年九月十五日大審院判決同年第九十八號 相續權確認請求ノ件

○養子ノ品行ニ付キ非議スヘキ廉アリ又ハ孝養ニ付キ多少缺クル所アル事實ヲ以テ直ニ離縁原因ト爲スコトヲ得ス 三十年四月二十七日大審院判決同年第九十三號 養子離縁復籍請求ノ件

○徴兵ヲ忌避セシメンカ爲メ養子ヲ爲シタル者ヲ罰スル法律ナキニ依リ其實ヲ主張シ以テ離縁ノ訴ヲナスモ犯罪行為ヲ原因トシ法律上ノ救済ヲ求ムルモノト云フヲ得ス 三十年五月十一日大審院判決二十九年第四百十六號 廢戸主戸籍引戻請求等ノ件

○女戸主カ養子ヲ爲シタルトキト雖モ直チニ其養子ニ相續ヲ讓ラサルヘカラサルノ慣例ナシ 三十年九月二十八日大審院判決同年第八十九號 相續要求等ノ件

○養親子ノ關係ハ縁組ノ當事者即チ養親ト養子トノ間ノ關係ナルヲ以テ其當事者間ニ在リテハ相互ニ離縁ノ請求ヲ爲シ得ヘキモ第三者ヨリ縁組ノ當事者ニ對シ其ノ間ノ養親子ノ離縁ヲ請求スルヲ得サルヲ以テ通則トス 三十年五月十九日大審院判決三十年第六十四號 養子離別請求等ノ件

○養親子ノ間ニ於テハ正當ノ原因存スレハ相互ニ離縁ヲ請求シ得ヘキモ第三者ヨリ其請求ヲ爲スヲ得サルモノトス 三十二年十一月十四日大審院判決同年第三十二號 婿養子離別請求ノ件

○民法第八百十三條ニ所謂惡意ノ遺棄ハ扶養義務ノ如何ニ關セス夫婦ノ一方

カ惡意ヲ以テ他ノ一方ヲ遺棄スルヲ謂フ 三十三年(オ)三百五號同年十一月六日第一民事判決 離婚請求ノ件

第五章 親權

第一節 總則

父ノ親權ノ行使手續

○父カ親權ヲ以テ其子ノ財産ヲ處理スル場合ハ普通後見人カ幼者ノ財産ヲ處分スルトキノ如ク親屬ノ連署ヲ要スルモノニアラス 二十九年十二月十四日大審院判決同年第四百十號 所有權確認請求ノ件

實母ニ於テ他人ヲ後見人ニ選定シタル場合ノ推定

○親權ヲ有スル實母カ自ラ其幼兒ノ後見ヲ爲サシテ他人ヲ其後見人ニ選定スルモノヲ以テ其ノ實母ハ全ク親權ヲ拋棄シタルモノト云フヲ得ス 三十二年二月十三日大審院判決三十二年三月三十一號 地所取戻請求等ノ件

實母ノ特權

○實母ハ幼年ナル子ノ身軀及ヒ財産ノ保護ヲナスヘキ權義ヲ有スルヲ以テ是等ノ事ニ關シ幼者ノ爲メ自ラ訴訟ヲ爲スコトヲ得 二十八年十二月六日大審院判決同年第三百三十四號 廢嫡願出取消請求等ノ件

第二節 親權ノ效力

○親權ノ規定ハ公ノ秩序ニ關スルモノナレハ契約ヲ以テ豫メ之レヲ拋棄若ク

親權ニ關スル規定ノ性質及ヒ其ノ制限

ハ制限スルコトヲ得ス故ニ親權ヲ有スル者ハ斯ノ如キ契約ヲ爲スモ之ヲ違守セシテ自ラ親權ヲ行使スルコトヲ得ルモノトス
三十二年十一月二十四日大審院判決同年第二百四十六號 不當後見届取消請求ノ件

第八百八十六條第三號ノ規定ノ範圍

○民法第八百八十六條第三號中ニハ訴訟行爲ヲ包含ス
三十二年十月二十日判地所取戻決三十二年第四七號

【參照】民法 第八百八十六條第三號 親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代ハリテ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲シ又ハ子ノ之ヲナスコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス三、不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル行爲ヲナスコト

第八百八十八條第一項ノ適用

○民法第八百八十八條第一項ノ趣旨ハ未成年ノ子ト親權者ト利益相反スル場合ニ於テ特別代理人ノ選任ヲ親族會ニ請求スヘキ義務ヲ親權者ニ負ハシメタルニ過キスシテ同法第九百四十四條及ヒ第九百四十九條ニ依リ附與セラレタル親族等ノ權能ハ之カ爲メニ制限セラレタルモノニアラス
三十二年一月二十七日判決三十二年第五號 相續取消並正當相續確認ノ件

【參照】民法 第八百八十八條第一項 親權ヲ行フ父又ハ母ト其未成年ノ子ト利益

相反スル行爲ニ付テハ父又ハ其子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス○民法第九百四十四條 本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場合ニ於テハ會議ヲ要スル事件ノ本人ハ主親族後見人後見監督人保佐人檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ招集ス○民法第九百四十九條 無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ其者ノ無能力ノ止ムマテ繼續ス此親族會ハ最初ノ招集ノ場合ヲ除クノ外本人其ノ法定代理人後見監督人保佐人又ハ會員之ヲ招集ス

親權者タル母ノ訴訟行爲ヲナサント欲スル場合ノ要件

○親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代リ訴訟行爲ヲナスニハ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要セス
三十二年(九)第九十四號同月二十日第二民事部判決 不動産所有權登記取消名義附替地所引渡請求ノ件

親權者タル母カ親族會ノ同意ヲ經スシテナシタル處分

○親權ヲ行フ母ノ未成年ノ子ニ代リ不動産ヲ賣却スルニ當リ親族會ノ同意ヲ得サルトキハ其行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモ當然無効ノモノニアラス
三十二年(九)第九十九號三十二年十二月十五日第一民事部判決 損害賠償及ヒ貸地登記取消請求ノ件

親權者タル父ノ代表權

○親權ヲ行フ父ハ子ノ財産上ノ權利ニ關シテ假令他人ノ財産ヲ讓受ケ之ヲ賣却スルカ如キ法律行爲ト雖トモ其代表ヲ爲シ得ヘキモノトス
三十二年(九)第四百九十二號三十四年二月四日民事部判決

親權者ノ許可ハ別段ノ方式ナシ

○未成年ノ子カ職業ヲ營ムニ當リ親權者ノ許可ヲ得ルニ付テハ別段ノ方式ナシ從テ親權者カ其監督ヲナシ居ル事實ヲ以テ承諾アリタルモノト爲スコトヲ得三十四年第一一五號三十四年三月二十二日刑部公告

母カ子ノ財産ノ管理ヲ辭シタル場合ニ於テ親族會ヲ召集スヘキ者

○母カ子ノ財産ノ管理ヲ辭シタル場合ニ於テ其母カ遲滯ナク親族會ノ召集ヲ裁判所ニ請求セサルトキハ他ノ親族ヨリ親族會召集ノ手續ヲナシ得ヘキモトス三十四年(オ)第二十二號三十四年七月二日第一民事部判決 親族會決議無効事件

第八百九十九條ノ精神

○親權ヲ行フ母カ一旦子ノ財産ノ管理ヲ辭シタル以上ハ後日其意思ヲ變シテ管理ヲ爲スカ如キハ民法第八百九十九條ノ精神ニ於テ許サ、ル所ナリトス(右同斷)

親族會同意ノ効力

○凡ソ訴訟ヲナスニ付キ親族會ノ同意ヲ要スヘキ親權者ハ第一審ニ起訴スル場合ニ其同意ヲ得ルヲ以テ足り各審級ニ付キ各別ニ同意ヲ得ルヲ要セサルモノトス三十四年(オ)第六十五號三十四年七月五日第二民事部判決 地所賣買取消請求ノ件

親權者ノ代表

○親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ニ關スル行爲ニ付テハ汎ク其子ヲ代表スト雖モ財産ニ關セサル行爲ニ付テハ法律ニ於テ特ニ規定シタル場合ニ限リ其子ヲ代表ス三十四年(オ)第八十號三十四年九月二十六日第一民事部判決 家督相續回復ノ件

母アリテ父ナキ幼者ハ其ノ母ノ親權ニ服シテ他人ノ後見ニ服セサルヲ以テ他人ノ親權ニ服シタル後見人ニ選定スルコトヲ承諾シ又其ノ意思ヲ表示スルコト能ハサルモ後見人ヲ選定スルノ必要アル場合ハ格別トス三十四年九月十七日大審院判決同年

○母アリテ父ナキ幼者ハ其ノ母ノ親權ニ服シテ他人ノ後見ニ服セサルヲ以テ原則トス但其母カ他人ヲ後見ニ選定スルコトヲ承諾シ又其ノ意思ヲ表示スルコト能ハサルモ後見人ヲ選定スルノ必要アル場合ハ格別トス三十四年九月十七日大審院判決同年 後見取消請求ノ件

○母ノミ存スル幼者ノ後見人トナリタルモノハ其母カ後見人ノ選定ヲ承諾シタル事實ヲ立證スルノ責任アリ

幼者ノ財産管理

○家族タル幼者カ財産ヲ有ス場合ニ於テ特別ニ後見人ヲ設定セサル限りハ其ノ家ノ戶主タルモノカ之ヲ管理スルハ係争地賣買當時明治二十七年ニ於ケル一般ノ慣例ナリ三十四年(オ)第三百六號地所取戻請求ノ件

父ノ權利義務

○子カ未成年者ナルトキハ父ハ自然ノ後見人トシテ其監護ヲナスノ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノナルニ依リ適當ト認ムル場合ニ於テハ親權ニ基キ他人ヲ其ノ後見人ニ選定スルコトヲ得從テ其ノ後見人ハ何時ニテモ之ヲ罷免シ自ラ監護ヲナスコトヲ得ルハ條理上當然ナリ三十四年三月三日大審院判決三十四年三月二十二日 不法後見届取消請求ノ件

母ノ權利

○母ハ自ラ其子ノ後見人トナリ又ハ他人ヲ其後見人ニ選定スル權利ヲ有ス十三

一年三月十七日大審院判 不當後見取消請求等ノ件
三十四年第四百九十七號

○母ハ他人ヲ後見人ニ選定シタル後ト雖モ後見人ノ權利ニ相觸レサル範圍ニ於テ仍ホ親權ヲ行フコトヲ得

第三節 親權ノ喪失

親權者ノ非行

○母タル者幼者ノ財産管理中虛偽ノ負債ヲ作り幼者ヲシテ身代限ヲナサシメタル等ノ舉動アルニ因リ更ニ後見人ヲ選定セシヲ至當ト認メテ裁判シタル事明カナレハ假令實母ナルモ猥リニ親權ヲ主張シ後見人ノ選定ヲ非議スルコトヲ得ス
二十六年十月十六日大審院判 後見改選取消ノ件
三十四年第三百七十七號

第六章 後見

第一節 後見ノ開始

第二節 後見ノ機關

第一款 後見人 第二款 後見監督人

第三節 後見ノ事務

第四節 後見ノ終了

後見人ノ義務

○後見人ノ幼者ヲ保護監督スルヤ必スシモ幼者ノ近傍ニアルヲ要セス裁判ニ於テ後見人ヲ有名無實ノ後見人トナスニハ必ス確乎タル證據理由ヲ示サル可カラス但幼者ノ家族カ後見人ノ認承ヲ埃タスシテ負擔ヲ設ケタル事跡アルカタメ其後見人ヲ有名無實ト云フヲ得ス
二十五年六月二日大審院判 同案五十四號 金錢貸借契約證書取戻ノ件

同居

○後見人ハ必ス被後見人ト同居セサルヘカラサルモノニアラサレハ單ニ遠隔ノ地ニ住居スルト云フノ一事ヲ以テ後見人ノ資格ヲ無効ナラシムヘキモノニアラス
二十五年九月十二日大審院判 同案第七十七號 不動産競賣開始決定取消ノ件

後見人ノ存スルモ幼者ノ行為ハ獨立ノ能ハス力者ノ行為ニ非ス

○後見人アル幼者ノ行為ヲ以テ獨立ノ能力アル者ノ行為ト同視スヘカラサルハ法理ノ然ラシムル所ナリ故ニ訴訟費用ノ如キモ幼者ノ財産處分權ヲ有スルモノノ許諾ヲ經ルニ非ルヨリハ幼者ノ財産ヲ處理スルコト能ハサルモノトス乃チ幼者ノ承諾ノミニ據テ之ヲ處分スルハ不當ナリ
二十五年九月十五日大審院判 同案第九十八號 財産管理中精算金及證書類請求ノ件

○後見人罷黜訴訟事件ニ付幼者自ラ起訴者ノ一人タル事跡ノ見ルヘキモノナキニモ拘ラス裁判所ニ於テ其幼者モ亦起訴者ノ一人タルコト明カナリト判

第四編

親族

親權ノ喪失

後見

後見ノ開始

後見ノ期間

後見ノ事務

後見ノ終了

民百五十五

後見人ノ行為ニ親族ノ連署ナキ場合

○定シ幼者ニ訴訟費用ヲ負擔セシメタルハ違法ノ裁判ナリ
○後見人ノ爲シタル抵當付貸借ニシテ親族ノ連署ナキモノハ其抵當權設定ノ無効ナルコト勿論ナルモ其貸借ニシテ幼者ノ利益タルモノノ如キハ爲メニ其貸借契約マテ無効トナスヘキモノニアラス
二十五年十月十日大審院判決同年三百七十二號 不動産競賣取消等ノ件

幼者ノ最近親族者ノ權利

○幼者ノ最近親族ハ幼者ノ財産權上ニ關係ヲ有セサル者ト雖モ後見人ノ幼者ニ對スル詐害行為ニ付テハ資格上之カ救濟ヲ求ムル訴權ヲ有スルモノトス
二十六年一月二十七日大審院判決二十五年第三百九十六號 金圓貸借證書廢棄ノ件

公正證書ヲ以テ證明シタル後見人ノ資格

○公正ノ證書ヲ以テ證明シタル後見人ハ法律上有効ニ認ムヘキモノナリ
二十六年三月七日大審院判決二十五年第三百三號 地所讓渡約定履行ノ件

未成年者ノ利益ノ爲ニシタル行為ナリトノ判定

○原院ノ判旨ハ未丁年者ノ管理人ニ不動産ヲ處分スル權アリト云フニ非スシテ繼承シタル債務ヲ其抵當ヲ以テ辨濟シタルモノ即チ未丁年者ノ利益ノ爲ニナシタルモノナレハ之ヲ不法ト云フ得ス
二十七年五月十一日大審院判決同年第九十七號 和解調書等ノ件

後見ノ終了時期

○未成年者ノ後見ハ未成年者カ成年ニ達スルト同時ニ終了シ後見人ハ其資格ナク隨テ被後見者ヲ代表スル所ノ訴訟能力ヲ有セサルコト論ヲ埃タス
二十七年九月二十日大審院判決同年第六十六號 貸金請求ノ件

父母ハ後見人選任ノ權アリ

○父母ハ其子ノ後見人ヲ選定スルノ權アルヲ以テ母カ其女ノ後見人ヲ選定スルニ當リ親族ノ協議ヲ經サリシトテ直チニ之ヲ無効トスルヲ得ス而シテ後見人ハ他人ヲシテ平常ノ雜務ヲ代理セシムルコトヲ得
二十七年十二月十九日大審院判決同年第四百六號 後見解除請求ノ件

後見制度ノ精神

○後見制度ハ素ヨリ幼者ノ利益ヲ幼者スル爲メ設ケタルモノナリト雖トモ其利益ハ必スシモ後見ニ依ルニアラサレハ之ヲ保護スルノ途ナキニアラス即チ後見ニ關スル法令ノアルアリ之ニ任務ヲ繼續スヘキモノナリトノ規定ナキ以上ハ後見滿期後仍ホ後見人ノ任務ヲ繼續セラル可カラサルノ理ナキヲ以テ後任後見人ノ選定如何ニ拘ラス後見職滿期ト共ニ解除スヘキモノトス
二十八年一月九日大審院判決二十七年第二百八十八號 後見解除ノ件

後見人ノ義務

○後見人カ幼者ノ家政整理上親族ノ協議ニ依リ其ノ不動産ヲ賣却シ若クハ抵當ニナス如キ已ムヲ得サル場合ニ於テ正當ナル行為ニ出テタルコトヲ示スニハ後見人ニ於テ之カ確證ヲ舉クヘキ責任アリ
二十八年六月十四日大審院判決同年第十三號 不當後見解除請求ノ件

後見ノ終了時
期及其効果

○未丁年者ノ後見ハ其丁年ニ達スルト同時ニ當然終了ス從テ丁年者自ラ請求
ノ諸般ノ權利行為ヲ爲シ得ヘキハ普通ノ法則トス左レハ已ニ丁年ニ達セシ
後仍ホ之ヲ後見ニ附セントセハ必ス瘋癲白痴若クハ浪費者ノ如キ特別保護
ヲ要スル正當ノ理由ナカルヘカラス 二十八六月二十五日大審院
判決三十七年第四百四十三號 貸金請求ノ件

後見人ノ財産
管理權

○後見制度ニ關スル法律未タ實施セラレサルニ依リ後見人カ被後見人ノ財産
中ノ或ル一部ヲ管理セル者ト認ムルモ不法ニアラス 二十八九月十四日判決
號同年九月十四日判決 金圓取戻
ノ件

數多ノ後見人
ヲ設クルコト
ヲ得ス

○後見人ノ外ニ其監督者ヲ定ムルニアラスシテ同一ノ職務權限ヲ有スル數多
ノ後見人ヲ設クルコトハ慣習上之ヲ認メス 二十八十二月三日大審
院判決第三百三十六號 預金請求ノ件

後見人ノ職務
權限及其效果

○後見人ハ幼者ノ爲メニ貸借ヲナスノ權ヲ有ス 二十八十二月四日大審院
判決同年第四百九號 貸金請求ノ件
○後見人カ幼者ノタメニナシタル負債カ實際幼者ニ必要ナシトスルモ幼者ハ
其債務ヲ免ル、コトヲ得ス

○後見人ノナシタル貸借カ幼者ノタメ必要ナルヤ否ヤハ幼者ト後見人トノ間
ニ於テ其責任ノ如何ヲ判定スル憑據タルコトヲ得

後見人ノ設定
及解除ノ行為

○後見人ノ設定ハ親族ノ協議ヲ以テスルコト一般ナレトモ後見人解除ノ請求

ハ必スシモ其協議ニ關與セシ親族一同ヨリ起訴セサルヘカラサル慣例及ヒ
條理ナシ 二十八十二月十五日大審
院判決同年第三百八十六號 後見解除請求ノ件

後見監督人ノ
選定

○後見監督人ノ設置ハ現行法ノ規定セサル處ナレトモ親族協議ノ上ハ之ヲ設
置スルヲ得ヘシ故ニ其協議アリタル場合ニ尙之レカ設置ヲ否認スル判決ハ
不法ナリ 二十九三月十九日大審院判
決二十八第四百六十八號 後見監督人設置故障排除請求ノ件

後見人ノ權利
義務

○後見人ハ常ニ被後見人ノ利益ヲ保護スヘキ權利義務ヲ有スルモノナレハ被
後見人ニシテ不利益ヲ蒙ルヘキ場合ニ於テハ其ノ後見人ヨリ訴訟ヲ提起ス
ルヲ當然トス 二十九三月二十六日大審院
判決二十八第五百十四號 相續回復分家取消請求ノ件

○後見人カ被後見人ノ不利益ヲ顧ミス其任務ヲ盡サ、ルトキ親族ハ其親族權
ニ依リ後見ノ解除ヲ求メ得ヘキモ後見人ヲ差擱キ被後見人ノタメ訴訟ヲナ
スコトヲ得ス

後見罷黜ノ訴
資格者タル

○後見罷黜ノタメ即チ一ノ資格ヲ失ハシメンカ爲メ爲ス所ノ訴訟ハ其一己人
タル資格ニ對シ爲スヘキモノナレハ幼者ノ代表者タル資格ニ於テ訴ヘラル
ルノ要ナシ 二十九六月六日大審院
判決同年第三百三十二號 後見罷黜ノ件

後見人就職ノ
時期

○後見人ノ就職ニ付テハ特ニ法規ノ存スルモノナシ故ニ事實届出以前ニ就職

後見人ノ貸借上ノ權利

○後見人カ被後見人ノ名義ニテ金圓ノ借入ヲナス行爲ハ他ニ特別ノ理由ナキ限リハ當然無効ノモノニアラス三十年十月七日大審院判決同年第二百三號委託金請求ノ件

○後見人カ他人ノタメニ被後見人ノ財産ヲ擔保ニ供スル行爲ハ無効ナリ

幼者ノ後見人存スル場合其親族等ノ權能

○幼者ノ親族ハ其幼者ニ自然ノ後見人アル場合之ヲ擱キ幼者ノ爲メ自ラ訴訟ヲ提起スル權能ナシ三十年十二月十六日大審院判決同年第八十五號廢嫡取消等ノ件

多數ノ後見人ハ之ヲ認メス

○多數ノ後見人ハ一般ノ慣習及ヒ判例ニ於テ之ヲ認メス故ニ二名ノ後見人ニ對シ終局判決ヲ言渡シタルハ違法ナリ三十一年四月二十九日大審院判決三十年第四百五十號地所遺產相續請求等ノ件

明治十六年内務省號外達ノ趣旨

○明治十六年内務省號外達ハ父母以外ノ者ヲ以テ後見人ニ選定シタル場合ニ適用スヘキ規定ニシテ父又ハ母カ親權ニ依リ其子ノ財産ヲ處理スル場合ニ適用スヘキモノニ非ス三十二年四月十二日大審院判決三十一年第四百五十七號不動産賣買讓渡契約履行請求等ノ件

民法施行前ニ於ケル後見人ノナルタル債務追認ノ效力

○民法施行以前ニ在テハ後見人カ出訴期限經過ニ係ル幼者ノ債務ヲ認ムルモ無効ニアラス三十二年六月十三日同年第四三號質地代金請求ノ件

明治十六年内務省號外達ノ趣旨

○後見人カ幼者ノ不動産ヲ賣却スル場合ニ關スル明治十六年内務省番外達ハ必スシモ其證書ニ親族ノ連署ナキモ親族ノ承諾アルヲ以テ足レリトスルノ趣旨ナリトス三十二年十月廿五日判決三十一年第四〇五號土地賣買契約取消確認請求ノ件

明治十六年内務省號外達ノ趣旨

〔參照〕明治十六年七月十八日内務省號外達 後見人職務權限ノ義ニ付別紙ノ通太政官ハ相伺御指會相成候爲心得此旨相達候事

(別紙) 後見人ノ職務ノ義ニ付伺

後見人規則發布ノ義ハ目下急施ヲ要スル事項ニ付客年四月十三日上稟シタル旨趣モ有之就テハ伺出ノ府縣へ追テ一般ニ法律制定相成マテ地方從來ノ慣習ニ依リ可取扱旨指令及來候處爾後職務ノ權限伺出ル府縣多有之抑後見人ハ當初親族ニ於テ選任シタルモノナレトモ常ニ監察スヘキ方法モ無之ニ付規則御制定迄不動産賣買讓渡費入書入等ニ限リ其證書又ハ願書ニ親族連署ノ上ナラテハ戶長ニ於テ公訴ヲ與ヘサル機相定メ其旨及指令度右ハ未タ成規モ無之此段相伺候也

明治十六年五月三十日

内務卿 山田 顯 義

大政大臣 三條實美 殿

伺之趣聞届候事

明治十六年七月三日

第四編 親族 後見ノ終了

母ノ承諾ヲ得
トモ管轄
役場ニ届出テ
爾來後見人ノ
職務ヲ行フ者

後見資格消滅
ニ因テ受タル
後見人名義
判決

後見人ノ訴訟
行為ヲ爲スニ
要スル手續

○民法施行前ニ於テ母カ親權ヲ行フヘキ場合ニ其母ノ承諾ヲ得スシテ後見人
ヲ選定シ相當ノ手續ニ從ヒ管轄役場ニ届出テ爾來後見人トシテ其職務ヲ執
行シ來リタル以上ハ更ニ相當ノ手續ヲ經テ之ヲ取消ス迄ハ適法ノ後見人ト
見做スヘキモノトス 三十二年十二月一日
判決同年第一六四號 督促手續ニ基ク執行命令取消ノ件

○被後見人成年ニ達シ後見資格消滅ノ後後見人ノ名義ヲ以テ訴訟代理ヲ委任
シ之ニ因テ受ケタル判決ハ當事者カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレシ場合ニ
該當スル不法アルモノトス 三十二年十二月十三日
判決同年第四二九號 建物取拂貸地明渡請求ノ件

○後見人カ被後見人ニ代リテ訴訟行為ヲナスニハ民法第九百三十四條第二項
同第九百二十九條ノ規定ニ從ヒ親族會ノ同意ヲ得サルヘカラス從テ民法實
施前後見人カ被後見人ニ代リテ提起シタル訴訟ト雖モ民法實施後ハ親族會
ノ同意ヲ得サルヘカラス 三十二年十二月十五日
日判決同年第八九號 地所名義附替請求ノ件

(參照) 民法 第九百二十九條 後見人カ被後見人ニ代リテ營業若クハ第十二條ニ
掲ケタル行為ヲナシ又ハ未成年者ノ之ヲナスコトニ同意スルニハ親族會ノ同意
ヲ得ルコトヲ要ス但元本ノ領取ニ付テハ此限ニアラス○同第九百三十四條第一
項后見人ハ未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ但九百十七條乃至第九百二十一條及前

十條ノ規定ヲ準用ス

明治十六年内
務省達ノ趣旨

○明治十六年内務省番外達ノ趣旨ハ未成年者所有ノ不動産賣却ニ付テハ其親
族ノ承諾ヲ要スルモノトナシタルニ過キスシテ賣渡證書ニ後見人ノ代表及
ヒ親族ノ連署ヲ要スルモノトナシタルニアラス○民法施行前ニ在テハ後見
人ナキ未成年者ノ財産處分ニ付親族若クハ故舊カ他ノ親族ノ承諾ヲ得テ後
見人ノ爲スヘキ處分ヲ攝行スルモ無効ニアラス

○民法施行前ニ在テハ適式ノ後見人ナキ場合ニ於テ必要上後見ノ職務ヲ攝行
スルモノハ丁年者タルヲ必要トセス丁年ニ近キ年齢ニシテ意思能力アルモ
ノナレハ未成年者ト雖モ可ナリ 三十三年一月二十六日判
決三十二年第一八〇號 土地取戻並公證及登記取消請
求ノ件

明治十六年内
務省達ノ趣旨

規定ニ反シ後
見人ヲ設置セ
ル場合

明治十六年番
外達ノ適用

○未成年者ノ爲メニ後見人ヲ置クヘキ規定アル場合ニ於テ未成年者ノ爲メ後
見人ヲ置カサリシ事實ノミヲ以テ直チニ其未成年者ハ當然能力アリシモノ
ト推定スルヲ得 三十三年四月二十日判
決三十二年第一六三號 宅地建物賣買取取消戻ノ件

○後見人カ何等ノ事情又ハ原因ナキニ拘ハラヌ未成年者ノ財産ヲ無償ニテ他
人ニ讓與スルハ不適法ニシテ明治十六年内務省番外達ハ斯ノ如キ行為ヲモ

親族連署アレハ正常ト看做スヘシトノ規定ニアラス

○民事訴訟法第三百九十九條第二號ハ家族ノ關係ニ因リ生スル財産上ノ爭議ノ場合ヲ云フモノニシテ本分家ノ關係アルヤ否ヤヲ爭フ如キ場合ニ適用スヘキ條規ニアラス

民法施行前ハ後見人ニ於テ未成年者ノ財産ヲ買受タルヲ禁止シタル法令ナシ

○根本タル讓與ニシテ全然無効ニ屬シ所有權ノ移轉ヲ生セサルトキハ縱令其ノ物件カ表見ノ所有者ヨリ更ニ他人ヘ轉讓シタレハトテ之カタメ轉得者ニ所有權ノ効果ヲ生スルコトナシ

【參照】明治十六年內務省番外達 後見人職務權限ノ義ニ付民法實施前ニ於テ後見人カ未成年者ノ財産ヲ買受ケル法律行為ヲ禁シタル法令アラサルヲ以テ其買買ハ當然無効ナルニアラスシテ未成年者ヨリ之ヲ取消シ得ヘキ慣例ナリ

後見人親族會ノ同意ヲ得スルシテ爲シタル訴訟

○後見人カ親族會ノ同意ヲ得スシテ被後見人ノ爲メニ爲シタル訴訟行為ハ當然無効ノモノニ非ス成年ニ達シタル被後見人又ハ親族會カ之ヲ追認スルトキハ授權ノ欠缺ハ補正セラル、モノトス
三十四年、才、第百六十九號三十四年九月十二日第一民事部判決 貸金請求ノ件

第七章 親族會

親族會ノ組織及其ノ出席

○親族會ハ事情ノ許ス限リ親族一同協議シテ幼者ノ利益ヲ計ルヘキハ當然ノ事ナリト雖モ必シモ親族ノ總員集會協議スルヲ要スルモノニ非ス又親族間ニ多少ノ不折合ノ事情アリテモ其ノ多分カ協議スレハ其ノ議決ハ正當ノモノナリト謂ハサルヲ得ス
二十六年十月六日大審院判決二十六年第百十號 相續屆等ノ件

○甲者カ親族會議ニ列スルコトヲ得ル場合ニ在ルモ甲者自己ノ懈怠ニ因リ其會議ニ出席セザリシモノト裁判所カ認定シ其ノ會議ヲ正當ノ議ナリト判決シタルニ對シ甲者ハ之ヲ不法ノ裁判ナリト云フヲ得ス

○親族會ニ於テ選定サレタル後見人カ幼者ヲ保護スルニ當リ妨害ヲ受クルコトアレハ妨害者ニ對シ妨害ヲ除去スル爲メ起訴シ得ルハ論ヲ竣タス其資格ニ付爭ヒナケレハ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ之ヲ調査スヘキモノニ非レハ其資格ニ對シ不服ヲ唱フルコトヲ得ス

○親族會議ニ關與シタル者カ幼者ノ不動產賣買證書ニ連署スルニアラサレハ其賣買ハ無効ナリトスル法律ナク又其ノ慣例モナケレハ親族會議ニ關與セサル親族カ連署シタル契約證書ニ基ク賣買カ無効トナルノ謂ハレナシ
二十七年十月十六日大審院判決同 地所建物不當賣買登記取消ノ件 年第三百七十三號

親族會議ニ關與シタルモノノ連署ト關與セザル者ノ連署ノ效力

親族會議選定後
見人ハ實母ト雖モ相當
取消スヲ得ス

親族會議ノ非
行ヲ救済スル
方法

後見人ノ罷黜
並親族會員除
斥ノ訴ノ當事
者ノ代表

親族會議ニ實
母ノ列席セザ
ル場合

親族協議ニ列
席スル者ノ親
屬及其近親ノ
關係

最近親者多數
存在スル場合
ニ於ケル親族
協議

○親族會議ヲ決議ニ依リ選定セラレタル後見人ハ被後見人ノ實母ト雖モ相當
ノ理由ナク取消スヲ得ス 二十八年十一月六日大審院 判決同年第九十四號 解除要求ノ件

○親族會ハ成法上其組織ヲ認メタルモノナキモ現ニ其會員中ニ非行者アリテ
之ヲ除斥セサル可ラサル場合ニ於テハ裁判所ニ出訴シテ其保護ヲ求ムルヲ
得ヘキモノトス 三十年六月十九日大審院 判決同年第三百三十八號 後見罷黜親族會員除中請求ノ件

○後見人ノ罷黜並ニ親族會員除斥ノ訴ヲ被後見人家ノ家長及親族ヨリ提起シ
タル訴訟手續上相當ナリ

○幼者ノ母ハ其ノ幼者ノ利害ニ關スル親族會議ニハ當然參加スヘキモノナレ
ハ特殊ノ事情ナクシテ之ヲ參加セシメサルトキハ其親族會議ノ決議ハ無効
ナリ 三十年十月四日大審院 判決同年第四百二十二號 宅地建家讓與登記取消請求ノ件

○親族協議ニ列席スヘキ人ノ續キ柄ノ遠近ニ付テハ法律上一定ノ規定ナシ故
ニ近親ニ非サル者カ親族協議ニ列席シタル事ヲ以テ一概ニ之ヲ無効ナリト
云フヲ得ス 三十年十二月七日大審院 判決同年第三百二十二號 不當相續取消ノ件

○最近親數名存在スル場合其多數ニ充タサル親族ノ協議ハ親族會ノ決議トナ
スコトヲ得ス 三十一年三月三日大審院 判決同年第三百二十二號 不法後見届取消請求ノ件

○裁判所ノ招集ニ依リ一旦親族會ヲ開キタル以上其後ノ開會ニ付テハ更ニ裁
判所ノ招集ヲ要スヘキモノニアラス 三十二年六月二十九日 判決同年抗告第四號 後見監督人選定ノ決定
ニ對スル抗告ノ件

○親族會員ハ親族會ノ議事ニ付直接ニ自己ニ利益關係アルニアラサレハ表決
權ヲ喪フコトナシ 三十二年九月三十日 同年抗告第一〇號 親族會ノ決議ニ代ハルヘキ裁判ニ對スル抗
告ノ件

【參照】 民法「第九百四十七條 親族會ノ議事ハ會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス」會員
ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

○親族會員中無資格者アルヲ理由トシ其ノ選任ニ對シテ抗告ヲナシタル場合
ニ於テハ縱令親族會ノ解散シタル後ト雖モ之ヲ取調ヘ果シテ其事實アルニ
於テハ該選定ノ決定ヲ廢棄スヘキモノトス

○會員中資格ナキ者ヲ以テ組織シタル親族會ノ決議ハ違法ノモノタリ 三十二年十
月三十一日 判決同年抗
告第十六號 親族會員選任決定ニ對スル抗告ノ件

○親族會員ハ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁判所ノ適當ト思
料シタル者ヲ自由ニ選定ス 三十三年三月二十八日 判決
三十三年(オ)第五十八號 親族會員選定決定ノ件

裁判所ノ招集
ニ依リ親族會
ヲ開キタル場
合

會員中直接ノ
利害關係アル
者ハ表決ニ加
ハル能ハス

會員中無資格
者アルヲ理由
トシ其選任ニ
對シテ抗告シ
タル場合

親族會員ノ選
定

不法ノ決議ニ
對シ其不服ヲ
裁判所ニ請求
スル場合

世訴ノ當時其
授權ニ欠於ア
テリ第ニ審ニ於
テ親族會同意
ヲ追認シタル
場合

第九百四十八
條第二項ノ通
知ヲ缺キタル
場合

○親族會カ不法ノ決議ニ依リ家督相續人ヲ定メタルトキハ之ニ對シ自ラ相續
權アルコトヲ主張セサル親族ハ右親族會ノ決議ニ對シ其不服ヲ裁判所ニ訴
フヘキモノニシテ直チニ家督相續人ニ係リ其相續人ニ係リ其相續ノ取消ヲ
請求スヘキモノニ非ス 三十三(五月二十四日)判決
三十三(才)第一三三號 不當相續取消並ニ復籍請求ノ件

○後見人カ被後見人ノ爲メニ訴訟ヲナスニ付キ親族會ノ同意ヲ得タルカ如キ
ハ起訴ノ當初其授權ノ欠缺アリトスルモ該訴訟ノ繫屬中又ハ第二審ニ繫中
ニ於テ親族會カ同意ヲナシ之ヲ追認スルトキハ溯リテ其當初ヨリノ訴訟行
爲ヲ總テ有効ナラシムルモノトス 三十三(六月二十二日)判決三十三
年(才)第二七〇號第二七二號 永小作權設定登記請
求ノ件

○民法第九百四十八條第二項ノ通知ヲ缺キタル時ハ之ヲ原因トシテ同法第九
百五十一條ニ依リ不服ノ訴ヲ提起シ得ヘキモノ之ヲ提起スルニ付テハ必ス同
條ノ一ヶ月間内ニ於テセサルヘカラス 三十三(五月八日)判決
三十三(才)一五號 親族會決議取消請求ノ件

【參照】 民法 第九百四十八條第二項 親族會ノ招集ニ掲ケタル者ニ之ヲ通知スル
コトヲ要ス

○同法 第九百五十一條 親族會ノ決議ニ對シテハ一ヶ月内會員又ハ第九百四

十四條ニ掲ケタルモノヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得

親族會ノ無効

親族會カ二人
ノ後見人ヲ選
定シタル場合

民法施行以前
ニ於テ親族會
未成人者ニ代
リテ請求シタル
場合

○苟クモ親族會ノ無効ヲ認メテ裁判シタル以上ハ其効力全然無資格ナル者ヲ
選任シタル爲メナルト否トニ論ナク親族會ノ始メヨリ無効ナルハ同一ニ
シテ彼是區別アルヘキ者ニアラス 三十四(才)第六十五號三十
四年七月五日第二民事部判決 地所賣買取消事件

○親族會ニ於テ二人以上ノ後見人ヲ選定シタルハ不合法ナルモ其ノ内一名ノ
ミ後見ヲ擔任シ其餘ノ者カ辭任シタルトキハ後見ヲ擔任シタル一名ハ改メ
テ親族會ノ選任ヲ受ケサルモ其者ニ正當ノ後見人タル資格ヲ生スルモノト
ナサ、ルヘカラス 三十四(才)第九十三號三十四
年九月二十三日第二民事部判決 地所抵當登記取消請求ノ件

○請求ノ有無ハ起訴當時ノ法則ニ依リテ定ムヘキ者ナルカ故ニ民法施行以前
ニ於テ未成人者ノタメ起訴シタル親族ノ請求權ハ其ノ訴訟ノ進行中ニ施行
セラレタル民法ノ規定ニ依リテ消滅スヘキモノニ非ス 三十三(四月二十六日)判決
三十二年(才)第二五六號 不
當相續取消請求ノ件

第八章 扶養ノ義務

○已ニ私生子タルヲ認メシ事實ノ存スル以上ハ公式ノ手續ヲナサ、ルモ其

第四編 親族 扶養ノ義務

事實私生子
ルヲ認メタル

養料額ノ指定

養料額ノ指定

養料額ノ指定

扶養ノ目的

子ヲ養育スルノ義務ヲ免カレトコト能ハス
二十六六月二十九日大審院
判決二百五十一號 兒子養料請求
ノ件

○裁判官カ自由ナル心證ニ據リ事實ノ適度ヲ思料シテ養料ノ供給額ヲ指定シ
タルコト其判文上知了シ得ルニ於テハ此外ニ其理由ノ明示ヲ望ムヘキ理由
ナシ
二十八五月七日大審院判
決二十七第四百九十三號 養料請求ノ件

○妻妾ニアラサル婦女ノ分娩シタル子ヲ男子カ己レノ子ナリト認メタルトキ
ハ養育料ヲ支給スル義務アリ

○養育料ノ請求ヲ爲ス者ハ必スシモ先ツ別居生活ヲ裁判所ニ請求セサル可カ
ラサルモノニアラス又之ヲ受クヘキ至當ノ理由アルトキハ戸主ノ家ニ同居
セサルモ之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ
三十一六月十四日大審
院判決三十四百五號 養育料請求ノ件

○扶養ノ目的ハ生活ニ必要ナル需用ヲ自給スルコト能ハサル状態ニアルモノ
ヲシテ其生活ノ資料ヲ得セシムルニ在ルヲ以テ此意義ニ適セサル請求ハ扶
養ノ請求トシテ之ヲナスモ固ヨリ是認スヘキ限リニアラス
三十四年(才)第四百五
十五號三十四年十月三
日第一民
事部判決 養料請求ノ件

第五編 相續

第一章 家督相續

第一節 總則

第二節 家督相續人

第三節 家督相續ノ効力

○本家相續ノ場合ニ卑屬親中親等ノ最近者ヲ除斥シ正等ノ順序ヲ變更スルニ
ハ其理由ヲ説明セサルヘカラス
二十三十二月一日大審院判
決二十二第三百五十四號

○本邦ノ習慣ニ於テ直系ノ卑屬親ヲ相續セシムルハ戸主死亡シ相續者未定ノ
場合ニ於テコソ適用スヘキモノナレ先戸主死亡ノ際其實子ヲ措キテ傍系親
ナル妹ヲシテ相續セシメタル既ニ三十餘年ノ星霜ヲ經過シタル后ニ在テハ
此ノ習慣ヲ適用スルコトヲ得ス
二十七一月十九日大審
院判決二十六第五百三號 不當相續取消等ノ件

○戸主死亡セシトキ其嗣子相續ヲ爲サスシテ傍系親其跡ヲ相續シタル後ニ出
生シタル嗣子ノ實子ハ相續上何等ノ權利ヲモ繼承スルコト能ハス

○甲者籍ヲ其生家ニ有シ且其家ヲ相續スヘキ權利アリト決スル上ハ假令一時

第五編 相續 家督相續 總則 家督相續人 家督相續ノ効力

本家相續ノ場
合ニ卑屬親
最近者ヲ除
斥シ順序ヲ
變更スル場
合ニ於ケル
順序

傍系親者相續
シタル後嗣子
ノ出生シタル
場合

相續權アリト
決シタル以上

ハ假令一時離縁トナリシ父ノ實家ニ養育セラレルモ爲メニ相續權ヲ失却スヘキモノニ保テモ相續權ヲ失却セス

養嗣子ト養子及ヒ相續順位

退隱者ノ負債者ヲ承繼スヘキ者

長子相續ハ我國ノ慣例也然レトモ其者ノ或ル事由ニ依リ退隱シタル場合ノ效果

離縁トナリシ父ノ實家ニ養育セラレルモ爲メニ相續權ヲ失却スヘキモノニアラサレハ原裁判カ之等ノ陳述ニ對シ説明ヲ與ヘサルモ不當ニアラス二十七年十月二十七日大審院判決同第百九十七號 遺跡相續廢除請求等ノ件

○養嗣子ハ所謂法定ノ家督相續人ナリト雖モ養子ニ至リテハ其嗣子タルト否トハ事實ノ如何ニ由ルヘクシテ法律上必スシモ嗣子ト推定スヘキモノニアラス隨テ二名以上アル場合ニ單ニ先位ノ養子タリトテ必ス家督相續ノ權アリト論斷スルヲ得サルナリ二十七年十月二十六日大審院判決同第百九十七號 規相續權爭等ノ件

○貸借ノ當時甲者ニ於テ已ニ乙者ノ乙家ヲ退隱スヘキ事情ヲ知悉シ特ニ乙者其人ヲ信用シ其隱居財產ヨリ辨濟ヲ受クヘキ意思ヲ以テ貸與シタル者ニ此ノ債務ヲ負擔セシムヘキ條理ナシ二十八年二月二十一日大審院判決同第百三十六號 無抵當貸金請求ノ件

○相續權カ總領ノ男子ニ屬スルコトハ我國古來ノ不文法ナリト雖トモ總領ノ男子カ一旦戶主タリシモ一家整理不能ナルカ爲メ終身退隱セシ以上ハ長子タルノ故ヲ以テ他ニ相續スヘキモノアルニ拘ラス當然再相續ヲ爲シ戶主ノ地位ニ復歸スルカ如キハ未タ我國ノ慣習ニ於テ認ムル所ニアラサルナリ二十八年五月三十一日大審院判決同第百三十號 相續確認故障解除ノ件

先代ノ長女ト養子トノ相續順位ノ爭アル場合ニ於テ其主張ノ立証責任

本家分家ノ關係

養嗣子ハ先代ノ相續者トシテ承繼スルモノニテ養母トシテ承繼スルモノハ變例ノ處分トス

家督相續權ノ拋棄

庶出ノ男子ト相續順序

○一家ニ於テ先代ノ長女ト養子タル男子存在シ互ニ相續權ヲ爭フトキハ養子ニ於テ長女ヲ措キ先ツ自己ニ相續ヲ得タル確證ヲ舉クルノ責任アリ二十八年十月三十一日大審院判決同第百二十九號 不法相續廢棄請求ノ件

○本家ニシテ且ツ親屬タル關係ヲ有スルモノハ分家ノ秩序ニ關スル事柄ニ付キ容喙ノ權ヲ有スルカ故ニ分家ニ於テ跡相續ヲ爲スヘキ者ノ順位ニ付キ不當ノ處置アリト認ムル場合ハ其相當順位ニ在ル者ヲ保護スル爲メ分家ニ對シ訴訟ヲ起スコトヲ得二十九年十二月九日大審院判決同第百三十六號 相續差拒ノ件

○養嗣子アル場合ニ於テ家政ノ便宜上養母カ中繼相續ノ權アルヤ否ヤハ事實ニアラスシテ法律上ノ問題ナリ二十九年三月十七日大審院判決同第百五十八號 相續權回復請求ノ件

○養嗣子カ先代ノ相續ヲ爲スヘキハ普通ノ法則ナリ

○養母カ養嗣子ニ先タチ先代ノ相續ヲ爲スハ變例ノ處分ナリ

○家督相續權ハ之ヲ拋棄スルヲ許サ、ル法則ナキニ依リ其拋棄ヲ認メタル裁判ハ違法ニアラス(本例ハ新民法施行以前ニ下シタルガ故ニ之レカ規則ハ相反ス)二十九年第二十三號 送籍取消請求等ノ件

○庶出ノ男子ニ先チ嫡出ノ女子ヲシテ家督ヲ相續セシムルハ我國ノ慣例ナリ

二十九年十二月一日大審院
判決同年第三百三十八號 相續恢復等ノ件

實子アル戸主
ノ養子ハ或場
合ノ外之ヲ認
メス

○實子ハ男女ヲ問ハス法定ノ推定家督相續人トナシ從テ實子アル戸主ノ養子
ハ其養子タル場合又ハ正當ノ事由ニ因リ實子ヲ廢嫡シタル場合ノ外法定
ノ推定家督相續人ト爲サ、ルヲ以テ本邦ノ慣習トス 三十年四月十三日大審院判
決二十九年第三百八十七號 戸籍
面取消等ノ件

事實養子ナ
ルモ未タ婚姻
セサル場合其
相續權

○戸主カ其實女子ノ「言ヒ名ツケ」ト稱シ他ノ男子ヲ養子トナシ之ヲ養子ト呼
ヒ其ノ女子ヲ縁女ト稱スルモ未タ婚姻セサル間ハ養子ハ法定ノ推定家督相
續人ニアラスシテ實女子ハ法定ノ推定家督相續人タル地位ヲ失フモノト云
フヲ得ス

或慣習ニ反シ
テ爲シタル相
續ノ效力

○相續ニ關シ親戚等カ協議ヲ爲スノ慣習又ハ相續届出ニ連署スヘキ法則ハ相
續ニ付テノ要件ニアラス故ニ此ノ慣習又ハ法則ニ背戾スルモ既ニ爲シタル
相續權ヲ取消スニ足ルヘキ瑕疵トナラス 三十年四月十五日大審院判
決二十九年第三百四十八號 不當相續取消請
求ノ件

名義上ノ相續
人ヲ設ケルモ
法律ノ禁スル
處ニアラス

○名義上ノ相續人即仲次相續人ナルモノハ嫡子ノ存在スルニ拘ラス便宜上之
ヲ設クルヲ得ヘキコトハ我邦慣習ノ認ムル處ナリ 三十年五月五日大審
院判決同年第十六號 不動產所有

權回復請求ノ件

單身戸主死亡
シテ其相續人
ノ存在セサル
場合

○單身戸主死亡シ家督相續人ナキ場合ニ於テハ其親族ノ協議ニ依リ之ヲ選定
スルヲ以テ我國ノ慣習トス 三十年六月二十二日大審
院判決同年第三百三十九號 不當相續取消請求ノ件

婚家ヨリ分家
亡シタル者ノ死
亡シタル場合

○婚姻ニ依リ他家ニ入りタルモノカ其後婚家ヨリ分レテ一家ノ戸主トナリ死
亡シタルトキハ本家筋ノ親族及其實方親族ノ協議ニ依リ相續人ヲ選定スヘ
キモノトス

明治六年布告
第二百六十三
號ノ適用

○明治六年第二百六十三號布告中婦女子相續ノ後ニ於テ夫ヲ迎ヘ又ハ養子致
候ハ、云々ノ規定ハ給祿華士族ノ爲メ家祿制度ニ關スル家督相續ヲ規定シ
タルモノナリ故ニ家祿制度ノ全廢セラレタル今日ニアリテハ士族ニ對シ適
用スヘキモノニアラス 三十年九月二十八日大審
院判決同年第八十九號 相續要求等ノ件

【參照】 明治六年 第二百六十三號布告第二項 婦女子相續ノ後ニ於テ夫ヲ迎ヘ又
ハ養子致シ候ハ、直ニ其夫又ハ養子ヘ相續可相讓事

養子又ハ養女
ハ當然相續權
ヲ有セス

○養嗣子ニ非サル養子又ハ養女ハ當然相續權ヲ有スルモノニアラスト雖トモ
事實ノ如何ニ因リ其相續權ノ有無ヲ判斷スルハ事實裁判官ノ職權ニ屬ス 三十
年十月七日大審院判決二
十九年第五百二十五號 相續權承認請求ノ件

實娘ノ聲養子ノ相續權
當然法定ノ推定相續人タル地位ヲ取得セシムル場合

聲養子ハ當然法定推定家督相續人ナリ

家督相續ノ權ハ戸主ノ最近卑屬親タルコト

絶家再興ニ於ケル相續人タルヘキモノトスニ關スル手續

○實娘ノ聲養子タルモノハ當然相續權ヲ有ス

○他家ニ入りテ當然法定ノ推定家督相續人タラントスルニハ其家ノ戸主ノ養嗣子タルカ又ハ其ノ家ノ法定推定家督相續人タルヘキ女子ト結婚シ婚養子タル身分ヲ取得セサルヘカラス
三十二年二月十五日大審院 判決三十二年第四百三十九號 無効相續確認請求ノ件

○法定ノ推定家督相續人タル長女ノ聲養子トナリタル者カ養嗣子ノ身分ヲ取得スルハ本邦習慣ノ認ムル所ナリ
三十二年二月二十二日大審院 判決三十二年第四百三十六號 相續權回復請求ノ件

○家督相續權ハ戸主ノ最近卑屬親ナル其子ニ屬スヘク直ニ其孫ニ屬スヘキモノニアラス故ニ長女ノ聲養子カ離縁トナリ其家ヲ去リタルトキハ假令其婚姻中ニ生マレタル子女アリト雖モ家督相續權ハ其配偶者ニ復歸シテ其子女ニ移轉セス

○家督相續權アル長女ノ聲養子トナリタル者ハ戸籍ノ名稱ハ聲養子タルト養嗣子タルニ論ナク其ノ家ノ法定家督相續人タルヘキモノトス

○絶家再興ニ於ケル相續人ハ其絶家ノ親屬タルト他人タルトヲ問ハス其親屬協儀ノ上之ヲ選定シ行政官廳ノ許可ヲ得ヘキモノナルニ依リ此手續ヲ經テ相續シタルモノハ正當ノ相續人ナリトス
三十二年三月十五日大審院 判決三十二年第四百七十五號 不法入籍取消請求ノ件

養嗣子ニ非サル養子ノ相續權

所有名義者ヲ以テ所有者トシテ推定スルノ法ニ於テハ相續權ノ行使ハ非スヘキニ非ス

廢嫡ハ承諾ヲ要セス

前戸主ノ債務承繼ノ性質及其中斷時効ノ

求ノ件

○民法實施前ノ法則ニ於テハ養嗣子ニ非サル養子カ養親ノ家督相續ヲ爲スヘキヤ否ヤハ養親ノ意思如何ニ因リテ定マルヘキ事實上ノ問題ナリ
三十二年十月二十九日大審院 判決三十二年第四百九十四號 相續權確認請求ノ件

○記名公債證書若クハ不動産ノ如キハ其記名者若クハ公簿ノ所有名義者ヲ以テ所有者ト推定スルハ普通ノ法理ナルモ此推定ハ被相續人若クハ相續人ノ債權者又ハ該財産ニ付キ物件ヲ取得シタル者ニ對シ之ヲ爲サハルハ過キスシテ前戸主所有ノ財産ハ相續開始ノ際其相續人ノ相續スヘキモノナルヤ否ヤヲ爭フ當事者間ニアリテハ之ヲ適用スヘキモノニアラス
三十二年十二月十一日 判決同年第一五二號 不當讓與登記取消請求ノ件

○廢嫡ヲ爲スニハ被廢嫡者ノ承諾ヲ要スヘキモノニ非ス
三十三年一月二十五日 判決三十二年第二五二號 戸主名義取消相續確認ノ件

○民法施行前後ヲ問ハス前戸主ノ債務ニ付テ債權者ハ家督相續人及ヒ前戸主ニ對シ請求權アリト雖モ其債務ハ連帶ニ非ス
○前戸主ノ債務ニ付キ家督相續人ニ對シタル時効中斷ハ前戸主ニ對シテ其效力ヲ及ホサス
三十三年三月三日 判決三十二年(九)第三二六號

預ケ金請求ノ件

前戸主ノ權利
義務承継及ヒ
所有名義ヲ更
正セサル場合
ノ效果

○前戸主ニ於テ特ニ財産ヲ留保セラル以上ハ家督相續ニ依リテ前戸主ノ有セシ財産ハ總テ相續人ニ歸屬スヘキモノニシテ所有名義ヲ更正セサルモ之カ爲メ前戸主ノ留保セルモノト謂フヲ得ス三十三(三)月十九日判決
三十三(三)月二十六日判決地所溜池買戻及買受並登記手續請求ノ件

選定家督相續
人ノ選定ノ要

○法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テハ被相續人ノ父母又ハ親族會ハ民法第九百八十二條規定ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定スヘク若シ其家族中ノ者ニシテ相續人ト爲ルコトヲ欲セス豫メ相續人ニ選定セラ
ル、コトヲ辭スル者アルトキト雖モ苟モ右規定ノ順序ヲ變更シ又ハ全ク選
定ヲ爲ササラントスル片ハ必ス先ツ裁判所ノ許可ヲ得サルヘカラス三十三(三)月
二十八日
判決三十三
年(三)月
二十一日
第一〇一號親族會ノ決議ニ對スル不服ノ件

【參照】民法

第九百八十二條

法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ其家ニ

被相續人ノ父アルトキハ父交アラサルトキ又ハ父カ其意思ヲ表示スルコト能ハ
サルトキハ母父母共ニアラサルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ
親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

第一 配偶者 但家女ナルトキ

第二 兄弟

第三 姉妹

第四 第一號ニ該當セサル配偶者

第五 兄弟姉妹ノ直系卑屬

家督相續權ノ
拋棄

○民法施行前ニ在テハ法定ノ推定家督相續權ヲ拋棄シ得サルモノニ非ス三十三
年六月
二十三日判決三十三
年(三)月二十九號不當相續取消並相續權承諾請求ノ件

親族會ノ決議
ニ依リ選定ス
ル相續人

○戸主死亡シ家族中他ニ相續人ナキトキハ戸主ノ遺妻ニ於テ相續スルノ權利
アリ而シテ遺妻カ其相續ヲ拋棄シタルトキ始メテ親族會ノ決議ニ依リ相續
人ヲ選定スルコトヲ得ルハ本邦慣習ノ認ムル所ナリ三十一(一)月二十五日大審
院判決三十二年第九十九號養子入
籍請求等ノ件

第九百六十六
條ノ法意

○民法第九百六十六條ニ於テ法定代理人カ家督相續回復ノ請求權ヲ行フトア
ル以上ハ自己ノ權利ニ因リテ之ヲ行フニ非スシテ無能力者ヲ代表シテ之ヲ
行フノ意義ニ解釋スルヲ以テ普通ノ意義ニ適スルモノトス三十四(九)月八日第十號
三十四(九)月二十六日第
一民事
部判決家督相續回復請求ノ件

出願ニ依リ他
人ヲ相續人ト

○民法施行前ニ於テ推定家督相續人アルニ關セス親族協議上ノ出願ニ依リ當

第五編 相續 家督相續ノ效力

為ス許可ヲ與ヘタル場合ノ效果

推定家督相續人タル養子ノ廢除ノ請求

該官吏他人ヲ以テ相續セシムルコトヲ許可シタルトキハ家督相續回復ノ訴ヲ提起スルヲ得サルモノトス三十三年十月十三日第一民事部判決家督相續回復請求ノ件
○推定家督相續人タル養子ノ離縁ヲ爲スニハ豫メ相續人廢除ノ請求ヲナスコトヲ要セス三十三年十月十三日第一民事部判決

第一章 遺産相續

第一節 總則

第二節 遺産相續人

第三節 遺産相續ノ效力

第一款 總則

第二款 相續分

第三款 遺産ノ分割

戸主ノ行爲ヨリ生スル權義ノ繼承者

○戸主ノ行爲ニ生スル權義ハ如何ナル事柄ナリトモ當時ノ戸主ヨリ跡相續人ニ至リ永ク其關係ヲ離ルヘキモノニアラサルコトハ本邦ノ慣習ナリ然ルニ某氏カ戸主中爲シタル負債ヲ相續人ニ要求セント欲セハ其家ノ爲メニ消費

死亡者ノ遺産ヲ相續スヘキモノ

相續權者ナリト認定セラレタルモノノ權利益

同居家族ノ遺産及ヒ分家ノ遺産死亡シテ遺族ニ在リタル場合ニ在リタル遺産債權者

相續人ノ權利義務

前戸主ノ權義繼承ハ其ノ相續以前ニ係ルモノニ止ル

シタリトノ確實ナル立證ナクンハアルヘカラスト論下シテ權利者ノ要求ヲ斥ケタルハ慣習ニ反スル不法ノ裁判ナリ二十三年十二月二十七日判決同年四五號

○死亡者ノ遺産ハ其尊屬ナル戸主ニ屬スヘキモノニアラス死亡者ナル卑屬ナル長男ニ於テ相續スヘキモノトス二十六年三月七日大審院判決二十五年第三百三號地所讓渡約定履行ノ件

○原院カ某者ヲ以テ相續ノ權アルモノト認定シタル以上ハ其者ハ假令制規ノ手續(官廳ヘノ届出)ヲ經テ相續ヲ爲サ、ルモ其家ノ財産ニ付權義ノ關係ヲ有スルコト論ヲ俟タス二十七年十月二十六日大審院判決同年二百九十七號相續權爭等ノ件

○同居家族ノ遺産ハ戸主ノ支配權ニ屬スルモ分家ノ家今死亡シ獨リ其者ノ遺産存在セルトキハ遺妻ニ於テ右遺産ヲ相續シルハ當然ナリ二十八年十一月一日大審院判決同年二百四十七號建物登記取消請求ノ件

○相續人ハ特別ノ事情ナキ限りハ前戸主ノ有セル一切ノ權義ヲ繼承スヘキ者ナレハ死亡者カ其ノ財産ヲ他人ニ遺贈シ又ハ退隱者カ之レヲ持續シタル等ノ事跡存セサル限りハ前戸主ノ財産ハ當然相續人ニ歸スルヲ以テ一般ノ通義トス三十年五月三日大審院判決二十九年第五百一號地所取戻請求等ノ件

○相續人カ前戸主ノ行爲ニ付責任ヲ負フヘキ場合ハ其ノ相續以前ニ係ルモノ

ニ止リ其ノ以後ニ於ケル行爲ニ付テハ責任ナシトス先代カ隱居後ニ受ケタル裁判ノ効力ハ其ノ相續人ニ及ハサモルノトス
三十二年二月二十三日大審院 貸金請求 判決三十二年第四百十四號

第三章 相續ノ承認及拋棄

第一節 總則

第二節 承認

第一款 單純承認

第二款 限定承認

第三節 拋棄

○本章ニ關スル判例ハ第一章ニ入ル

第四章 財産ノ分離

家名相續人ニ
非スシテ本家
ノ財産分與ヲ
受ケタル者

○茲ニ家名相續人ニアラスシテ本家ノ財産ノ分與ヲ受ケタル者ハ分家以前ニ於テ其分與ヲ受ケタル地所ニ關シ本家ノ主人カ他人ト取結ヒタル契約ニ對

シテハ第三者ト云フヲ得ス既ニ第三者ニアラサル以上ハ明治八年第六百六號布告ニ據リ所有名義ノ附換ナキヲ口實トシテ其地所ニ附テノ義務ヲ免ル、コトヲ得ス
二十六年五月十三日大審院判 地所名前引直請求ノ件 決二十五年第六百三十二號

第五章 相續人ノ曠缺

當然相續スヘ
キ卑屬親ナキ
場合

○相續人ハ男子ヲ先ニシテ女子ヲ後ニスルハ古來ノ慣例ナレモ當然相續スヘキ卑屬親ナキ時ハ親族協議ノ上其家ニ適當スル女子ヲ選定スルモ亦慣例ノ許ス所ナリ
二十七年五月十四日大審 院判決同年第四百十二號 不法相續取消請求ノ件

一家廢絶スル
其以前其家ニ
生スル實子ニ
リテ之カ再興
ル場合

○相續人ナキ故ヲ以テ一旦一家廢絶スルモ其廢家以前ニ其家ニ生レシ實子アリテ之レカ再興ヲ爲サントスルニ於テハ其者ハ固ヨリ其家ヲ相續スヘキ權利ヲ有ス假令其家ノ重立タル親戚ト雖モ他ニ格段ノ理由アルニアラサレハ之ヲ拒否スルヲ得ス
二十七年十一月十四日大審 院判決同年第四百二十三號 不當絶家再興取消ノ件

相續人タル卑
屬親ノ存在セ
サル場合

○一家ノ戶主死亡シ相續人タルヘキ子孫ナキ時ハ假令家ヲ異ニスルモ其子カ父母ノ財産ヲ相續スヘキハ當然ナリ
二十八年九月三十日大審 院判決同年第四百十六號 調印及遺產請求ノ件

○分家ノ戶主死亡シ其家ニ相續人ナク獨リ遺妻ノ存スルトキハ遺妻ニ於テ其

第五編 相續ノ承認及拋棄 總則 承認 拋棄 財産ノ分離 民 百八十三

第六章 遺言

第一節 總則

第二節 遺言ノ方式

遺言ニ依リ相續人ヲ選定スル場合ノ效果

○遺言ニ依リ相續人ノ選定ヲ他人ニ委任スルハ一般ニ無効ナリト云フヲ得ス
三十年七月三日大審院判決 相續取消復籍請求ノ件

遺言效力ノ發生時期

○遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其効力ヲ生ス從テ遺言者ハ其生存中何時ニテモ隨意ニ之ヲ取消スコトヲ得
三十二年四月二十一日大審院判決 三十二年三月三十一日大審院判決 三十二年三月三十一日大審院判決 不當相續取消請求等ノ件

遺言書ハ必スシモ親族ノ立會連署ヲ要ナシ

○遺言ヲ爲スニ際シ親族アル者ハ多クハ皆之ヲ立會ハシムヘシト雖モ遺言書ニハ必シモ親族ノ立會連署ヲ要スルモノニ非ス
三十三年六月十五日判決 債權讓與契約履行并地所立木讓與契約履行請求ノ件

遺贈證書ノ作成方法

○遺贈證書ハ必ス本人ニ於テ之ヲ自署シ又ハ證人ノ連署ヲ要スルノ條理ナシ殊ニ徳川氏政府百ヶ條及寬保追加ノ如キハ現行法ノ効力ナキハ勿論裁判上慣例トシテモ亦當然認知セララルヘキモノニ非ス
二十八年六月二十日大審院判決 二十七年第四百六十八號 債權確認

遺言ニ依リ相續人ヲ選定スル場合ニ於テハ被相續人カ遺言ヲ以テ相續人ヲ指定シタルトキハ其遺言ニ由ルヘキハ當然ニシテ且習慣ニ反スルモノニアラス

○遺言ヲ以テ相續人ノ選定ヲ他人ニ委任スルハ有効ナリ而シテ其受任者カ選定ヲ爲スニ付テハ他ノ親族ノ承諾ヲ要スヘキモノニ非ス又其受任者ハ之ヲ親族中ニ求ムルノ要ナシ
三十年十二月九日大審院判決 遺言無効承認請求等ノ件

證書書換ノ件

第三節 遺言ノ効力

直系親族ノ存セザル場合ニ於テハ遺言ヲ以テ相續人ヲ指定シタル效果

○家督相續ノ順位ハ直系ノ卑屬親アル場合ハ格別其他ノ場合ニ於テハ被相續人カ遺言ヲ以テ相續人ヲ指定シタルトキハ其遺言ニ由ルヘキハ當然ニシテ且習慣ニ反スルモノニアラス
三十年十月十九日大審院判決 同年第五十六號 家督相續取消請求等ノ件

遺言ニ依リ相續人ヲ選定スル場合ニ於テハ被相續人カ遺言ヲ以テ相續人ヲ指定シタル效果

○遺言ハ單獨行爲ニシテ受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄又ハ承認ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ遺言者死亡後承認ノ意思ヲ起訴前ニ表ハスト又ハ起訴ト同時ニ表ハストニ因リテ遺言ノ効果ヲ異ニスルコトナシ
三十五年五月二號 遺產金贈與請求ノ件

遺言ノ性質及利受遺者ノ權利

○遺言ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄又ハ承認ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ遺言者死亡後承認ノ意思ヲ起訴前ニ表ハスト又ハ起訴ト同時ニ表ハストニ因リテ遺言ノ効果ヲ異ニスルコトナシ
三十五年五月二號 遺產金贈與請求ノ件

第四節 遺言ノ執行

第五節 遺言ノ取消

第五編 相續 遺言ノ方式 遺言ノ效力 遺言ノ執行 遺言ノ取消 頁百八十五

第七章 遺留分

○以上判例ノ見ルヘキモノナシ

民法 大尾

商法ノ部

民法
大尾

第七章 遺留分
○以上判例ノ見ルヘキモノナシ

商 法

第一編 總則

第一章 法例

○本章ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第二章 商人

商人ト營業トノ關係

○酒類製造業ヲ廢止シタル後ニ於テモ依然酒類販賣業ヲ持續スル事實アルニ於テハ其商人タル身分ヲ存續スルモノト云ハサルヘカラス 三十四年(ク)第四十二條三十四年十二月九日第二民事部決定 破産宣告ニ對スル抗告ノ件

第三章 商業登記

無登記會社ノ定款ノ效力

○登記ヲ受ケサル會社ノ定款タリトモ會社ト取引シタル者カ其定款ノ存在ヲ

第一編 總則 法例 商人 商業登記

知リタル場合ニハ之ヲ適用スルモ不當ニアラス 三十二年五月三十一日大審院判決同年第九十六號 部分林名前
書換取消請求等ノ件

株式會社ノ登記義務

○株式會社カ登記ノ届出ヲ爲スコトハ其義務ニ屬スルモ此義務ハ登記官吏カ會社ヨリ差出シタル登記ニ關スル陳述書ヲ受理シタル時ヲ以テ終了シ其後ノ行爲ニ關係ヲ有セサルモノトス 三十二年六月六日大審院判決同年抗告第十五號 即時抗告ノ件

○株式會社ノ登記ニ關スル陳述書ノ適否ヲ審査シ之ヲ登記スルハ登記官吏ノ責任ヲ以テ爲スヘキ登記官廳ノ行爲ニ屬シ會社ノ責任ニ屬セス

商法第五十三條ノ法意

○商法第五十三條ハ同第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキニ於テ其異動ノ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトヲ問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘキ法意ニシテ同法第十五條ノ所謂消滅登記トハ登記シタル事由ノ全ク無用ニ歸シ消滅シタル場合ニ適用スヘキ法意ナリ 三十三年四月十六日決定三十三年六月十六日決定第六五號 商法違反ノ件

【參照】 商法 第五十三條 第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
同法 第五十一條 會社ハ定款ヲ作リタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ

所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項
 - 二 本店及ヒ支店
 - 三 設立年月日
 - 四 存立時期又ハ解散事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
 - 五 社員ノ出資ノ種類及ヒ財産ヲ目的トスル出資ノ價格
 - 六 會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名
- 會社設立ノ後支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ前項ニ定メタル登記ヲ爲シ本店及ヒ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス
- 本店又ハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル
- 同法 第十五條 登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタルトキハ當事者ハ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 商號

商號ノ效力

○一箇人ノ商號ハ民事訴訟法第九十條ノ規定ニ依リ當事者ヲ表示スヘキ名稱

ト爲スヲ得サルモノトス 三十四年(大)第七十號同年六月二十八日第二民事部判決 米賣買契約違反請求等ノ件

民百九十

第五章 商業帳簿

金錢判取帳ノ證據力

○金錢判取帳ト金錢ノ授受ヲ證明スヘキ有力ノ證據ナレトモ他ノ證據ニ由リ其記載事實ヲ攻撃シ得サルモノニアラス 二十八年九月十四日大法院判決同年第二百二十二號 賣掛代金請求ノ件

○金錢判取帳ニ第三者カ義務者ノ爲メ支拂フ金錢ヲ記載スルモ其帳簿ノ性質ニ背カス

○商人カ商業上ノ取引ヲ記入セル簿冊ハ單純ナル手控ノ如キモノト異ナリ其商業所取引ニ付テハ一應ノ證據力ヲ存スルヲ以テ之カ論争ヲ爲スモノハ相當ノ立證ヲ爲サルヘカラス 二十八年十月二十二日大法院判決同年第二百九十二號 賣掛代金請求ノ件

○商業帳簿ノ證據力ニ對シ商法其他ノ法律ニ何等ノ規定ナキヲ以テ其信否ノ如何ハ事實裁判官ノ心證ニ據リ判斷スヘキモノトス 三十三年第四百二十三號三十四年一月三十一日民事一部判決

第六章 商業使用人

商家ニ於ケル支配人ノ權限

○商家ニ於ケル支配人ノ權限ハ商業主人カ常ニ營ム所ノ業務ノ廣狹ニ伴隨スヘキモノニシテ法律上一定不動ノ限界アルコトナシ 二十八年十月二十六日大法院判決同年第三百號 賣掛代金請求ノ件

雇人ノ過失及怠慢

○雇人ノ過失又ハ怠慢ノ結果ハ其使用者ニ於テ之ヲ負擔スルヲ法律上ノ原則トス 二十九年十二月十二日大法院判決同年第三百五十一號 保險辨償金請求ノ件

番頭ノ代理權

○番頭ト稱スル雇人ハ常ニ主人ノ爲メ商行爲ヲ爲スヲ通則トスルカ故ニ其行爲ハ主人ノ代理資格ヲ以テ爲シタルモノト認ムルヲ得ヘシ 三十二年二月十八日大法院判決三十二年第四百十號 藍葉引渡請求ノ件

舊商法第五十五條適用

○舊商法第五十五條ハ商業使用人カ金錢物品等ノ受渡ヲ爲シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ手形ヲ振出シタルカ如キ場合ニ適用スヘキ規定ハ同法第五十四條ナリ 三十三年三月二十七日判決 約束手形金請求ノ件

【參照】 舊商法 第五十五條 營業場ニ於テ第三者カ善意ヲ以テ商業使用人ニ對シテ金錢ノ受渡ヲ爲シタルトキハ何レノ場合ナ問ハス商業主人之ヲ承認スル義務アリ 商品證券及ヒ其他ノ有價物ニ付テモ亦同シ 受取ノ證アル勘定書及ヒ其他ノ受取證書ヲ持參スル者ハ拂金及ヒ其他書中記載

第一編 總則 商業帳簿 商業使用人

民百九十一

ノ物ヲ受取ル權アルモノト看做サル但情況ニヨリテ右ニ異ナル推定ヲ爲ス可
キトキハ此限ニ在ラス

舊商法第五十四條 商業主人カ商業使用人ヲシテ商慣習ニ定マレル職分ノ範圍
ヲ擴メテ其代理ヲ爲サシメントスルトキハ此カ爲メ特別ノ委任ヲ爲シ且相當ノ
方法ヲ以テ之ヲ第三者ニ告知スルコトヲ要ス殊ニ商業通知書又ハ手形及其他ノ
債務證書ニ於ケル使用人ノ署名カ主人ヲ編束ス可キトキハ右ノ規定ヲ遵守スル
コトヲ要ス

第七章 代理商

○本章ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第二編 會社

第一章 總則

無限責任社員
ノ義務ノ性質

○會社ノ無限責任社員ハ該社ノ債務ニ付假令形式上訴訟ニ於テ共同被告ノ地
位ニ立タスト雖モ實態上義務共通ノ關係アルモノナレハ該社員ノ一人カ會

會社法實施前
ニ於ケル會社
ノ性質

社ノ債權者ヨリ訴ヲ受クルニ當リ他ノ無限責任社員ニ對シ訴訟參加ノ告知
ヲ爲スヲ得ヘシ縱令其告知ヲ爲サスシテ訴訟終了シ未タ債權者ニ對シ其債
務ヲ辨濟セサル前ト雖モ尙ホ共同シテ其債務ノ負擔ヲ請求スル權利アリ八
年一月十八日大審院判
決二十七年第三十九號

○會社法施行以前ニ行政廳ノ聽許ニ依リ設立シタル會社ハ法人ニアラサルモ
一ノ團躰ナリ故ニ其團躰カ其資産ヲ限度トシテ債務ヲ起シ債權者カ之ヲ承
諾シタルトキハ其義務ハ團躰ノ資産ニ止リ社員一個人ノ財産ニ及ハス三十
年二月四
日大審院判決二十九
年第二百八十八號 貸金請求ノ件

○商法實施前ニ於ケル會社々團ハ特別ノ條例ニ依リ設立セラレタルモノ、外
法人ト看做サ、ルヲ以テ一般ノ法則ト爲ス三十
年二月十八日大審院判
決二十九年第五百十九號 約定金請求ノ
件

○法人ノ資格ヲ有セサル會社々團ト雖モ公然會社ト稱スルモノハ其定款又ハ
社則ニ基キ選定セラレタル役員ノ名義ヲ以テ法律行爲ヲ爲シ又之ト取引ス
ル者モ之ヲ以テ會社ノ法律行爲ト見做スハ商法實施前ニ於テ普通認知セラ
レタル慣例ナリ

商法實施前ニ
於ケル會社

會社ノ目的外ノ事業

民百九十四

會社ノ能力

○物産ノ委託販賣ヲ目的トスル會社ハ營業トシテ貸金ヲ爲スヲ得スト雖モ其營業外ニ金錢ノ貸借ヲ爲スモ妨ケナシ三十二年十一月二十五日大審院判決同年第三百六號預ケ金請求ノ件

探權法則ノ違

○商事會社ト雖モ民法上ノ行爲ニ付權利義務ノ主體ト爲ルコトヲ得三十二年十二月二十二日大審院判決第三百號特別擔保義務履行請求ノ件

會社法施行前ニ於ケル會社及ヒ其社員ノ義務

○銀行ノ頭取及ヒ株式總代兼ノ肩書ヲ附シテ取締役支配人之ニ連署シ銀行ノ印章押捺シタル證書ハ完全ナル契約書ナリト認メナカラ之ヲ無効ノ契約ト認定スルニハ確實ナル反證ヲ舉クルカ又ハ他ニ相當ノ理由ナカルヘカラス然ルニ該銀行ノ考課狀ニ該契約ヲ締結スヘキ議決ノ記載ナキヲ唯一ノ理由トシテ該契約ハ株主總會ノ議決ヲ經サルモノト爲シ該證ノ契約ヲ無効ナリト認定シテ判決ヲ下シタルハ探證ノ法則ニ違背シテ事實ヲ確定シタル違法ノ裁判ナリ二十六年四月二十七日大審院判決二十五年第六百四十五號報酬金請求ノ件

私立銀行殘務委員ナル者ノ權限

○商事會社法施行以前ニ於ケル會社ハ法人ノ資格ヲ有スルモノニアラス單ニ其社員ノ共同連結ニ外ナラサルヲ以テ社外人ニ對シ特別ノ契約等ナキハハ其責任モ亦社員連帶シテ負擔スヘキモノトス三十一年六月二日大審院判決三十年第二百四十四號石材抵當貸金請求ノ件

株式會社ノ訴長ノ印影シタル

○商法實施前ノ私立銀行殘務委員ニ其銀行代表ノ權利アルコトハ裁判上公認セラレタル慣例ナリ三十年十一月九日大審院判決同年第九十六號貸金請求ノ件

銀行考課狀ノ性質

○株式會社ノ訴訟ニ於テ社長カ訴訟委員ヲ爲スニ當リ其委任狀ニ社印ヲ用ニヘキ規定ナキニ依リ社長ノ實印押捺アル訴訟委任狀ヲ是認セル裁判ハ相當ナリ三十一年四月十五日大審院判決同年第二百九號妨害排除ノ件

銀行考課狀ノ性質

○銀行ノ考課狀ハ銀行カ其株主ニ對シテ爲シタル報告書ナレハ其記載事項ニ付キ株主以外ノモノニ對シテ直接ニ其責ヲ負フモノニアラス二十九年十二月一日大審院判決同年第七十五號惠濟倉金請算請求ノ件

商法施行以前ニ於ケル會社ノ地位及ヒ其會社ト取引シタル者ニ對シテ行使ル會社ノ權利

○凡ソ有限責任會社タルニハ政府ノ認可及ヒ登記ノ手續等ヲ要スヘキハ現行商法ノ規定スル所ナリ而シテ同法施行前ニ於テ其認可ヲ地方官ニ請フ者アルモ相對ノ取引ニ任ストノ指令ヲ付シ來リタルハ一般著明ノ慣例ナリ故ニ當時ニ在テハ會社ノ性質及ヒ其責任ノ範圍ハ凡テ會社設立者ト取引者ノ合意ニ一任シ其合意ナク會社ノ性質ヲモ知ラスシテ取引ヲ爲シタル者ニ對シ

テハ一般契約履行ノ法理ニ依ルヘキモノトス 二十八日三月二十八日大審院判決同年第三十號 預ケ金請求ノ件

民百九十六

會社法施行以前ノ無限責任株式會社員ノ債還義務

○商事會社施行以前ノ無限責任株式會社ニシテ第三者ニ對スル負債ヲ償還シ能ハサルトキハ出資者各自ハ共同一牀無限ノ責任ヲ免ルヽヲ得ス故ニ特約ヲ要セス其會社ノ負債ニ對シ各自連帶シ義務ヲ負フモノトス 三十年三月二十三日大審院判決二十九日第三百五號 預金取戻請求ノ件

商法實施以前ヨリ設立シタル株式會社ノ存續

○商法實施前ヨリ設立シタル株式會社ハ登記ヲ經サルモ商法實施ノ日ヨリ六ケ月内ハ依然トシテ會社ノ効ヲ存シ其株券ニ於ケルモ商法實施前ヨリ株式取引所又ハ取引所ニ於テ賣買シ來リタルモノ及ヒ既ニ債權ノ擔保ニ供シタルモノアルトキハ其賣買若クハ擔保ニ爲シタル或ル株券ノミナラス其會社ノ總テノ株券ニ付テモ商法第八十條ノ規定即チ登記前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無効タリトアル規定ヲ適用スヘキ限リニアラス 二十八日三月二十二日大審院總判決二十七年第四百四十號 會決議取消請求ノ件

會社約款ノ效力

○會社ノ約款ニ有限責任タルコトノ規定アルモ其効力ヲ社外人ニ及ホスコトヲ得ス假ヒ其規約ヲ所轄地方廳ニ届出ルモ世上一般ニ對シ公示シタルモノ

會社法實施以前ノ性質

ト爲スニ足ラス 二十六年三月十一日大審院判決二十五年第三百九十三號 米代金請求ノ件

○會社法實施以前ニ在テハ特別ノ條例ニ依テ設立セラレタル會社々團ノ外ハ法律上法人ノ資格ヲ有セサルヲ以テ一般ノ法則トス此法則ニ據テ法人視スヘキモノ、外某會社ト云フモ社員全牀ヲ指シテ假稱スルニ過キス其會社ハ即チ社員社員ハ即チ會社ニシテ會社ト社員トハ各獨立ノ權利主牀タル可キ者アルニ非レハ會社ノ解散セルト否トニ因テ社員ノ義務ニ消長アラサルナリ然ルニ原裁判所カ其會社ヲ以テ會社法實施後ノ商事會社ト同視シ會社ノ現存スルニ拘ハラズ各社員ニ對シテ請求シタルヲ以テ不當ト爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノトス 二十七年三月二十二日大審院判決二十六年第四百五十二號 貸金請求ノ件

同斷

○商法實施以前ニ在テハ特別ノ條例ニ依リテ設立セラレタル會社々團ノ外ハ法律上法人ノ資格ヲ有セス故ニ其當時ニ於ケル某會社トハ取リモ直サス社員全牀ヲ合シテ指稱スル所ノ假名ニ過キス會社即チ社員ニシ會社ト社員トハ各獨立ノ權利主牀タルヘキ者ニアラス從テ會社ノ解散スルト否トハ社員ノ義務ニ消長ヲ來スノ理ナシ但シ法人タラサル會社々團ノ名義ヲ以テ訴ヲ起シ又ハ訴ヲ受クルコトヲ得タル事例アリト雖モ這ハ畢竟訴訟手續上ノ簡

本支店位置ノ變更登記

民法施行前ニ於ケル商事會社ノ民事行為ノ能力

舊商法第七十二條ノ意義

便ヲ圖リテ之ヲ許スノミ 二十八第三月十四日大審院判決二十七第四百七號 預ケ金請求等ノ件

○商法第五十三條第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ地名改稱ノ場合ヲ包含セス單ニ事項其モノ則チ本支店ノ位置ニ變更ヲ生シタル場合ヲ指スモノトス 三十三年(ク)第七百七十六號三十三商法違反ノ件

○民法施行前ニ於テハ民法第四十三條ノ如キ規定ナカリシカ故ニ商事會社ハ其目的タル營業ノ範圍外ニ於ケル民法上ノ法律行為ト雖モ絕對ニ之ヲ爲スヲ得サルモノニ非ス 三十四年(オ)第三百二十四號三十四民事部判決 辦濟金請求ノ件

【參照】 法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定程又ハ寄附行為ニ因リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ(民法第四十三條)

○舊商法第七十二條ノ規定ハ訓示的ノモノナレハ會社カ社印ヲ押捺セスシテ交附シタル書類ハ總テ無効ノ制裁アルモノニアラス 三十三年(オ)第二百六十四號三十三民事部判決 預ケ金請求ノ件

第二章 合名會社

第一節 設立

商法第五十三條ノ意義

○商法第五十三條ニ所謂第五十一條第一項ヲ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキトハ單ニ事項其モノ、變更ノ場合ノミヲ指シタルモノト狹義ニ解釋スヘキモノトス 三十三年(イ)第七百七十九號三十四年二月四日民事部

第二節 會社ノ内部ノ關係

商法第二百二十條第二項ノ法

○商法第二百二十條第二項ハ總社員ノ承諾ヲ要スル場合ト任意ニ退社スル場合トヲ論セス豫告及ヒ時期ノ二條件ヲ具備セザレハ退社ヲ許サルル法意ナリ 二十八年十二月六日大審院判決同年第三百三十一號 不法解散登記取消ノ件

第三節 會社ノ外部ノ關係

無限責任會社ノ性質

○無限責任會社ノ性質ハ其責任會社ノ資本ニ止マラス出資者個人ノ財産ニ及ホシ各自財産ノ多寡ニ拘ハラズ共同一躰ニ無限ノ責任ヲ免レサルモノナレハ假令契約ナキモ株主ハ連帶シテ其責任ヲ盡サ、ルヲ得ス 二十五年十一月一日大審院判決同年第三百二號 預ケ金取戻ノ件

商法第七十二條ノ法意

○商法第七十二條ノ社名及社印ハ官廳ニ宛タル文書又ハ報告書株券手形及會社ノ法意

第二編 會社 合名會社 設立 會社ノ内部ノ關係 會社ノ外部ノ關係 民百九十九

社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フヘキ一切ノ書數ニ之ヲ用フトノ規定ハ素ト内
外商業上ノ習慣ニ基キ社號及社印ノ使用ニ關スル通則ヲ示シタルニ止マリ
書類ノ効力ニ關スル法律上ノ要件トシテ規定シタルモノニ非ス故ニ社印ナ
キ書頭ハ其書類ノ何タルヲ問ハス法律上無効ナリト云フヲ得ス二十八日六月一日
大審院判決同年第
百五十損害賠償請求ノ件

商法實施前ノ
設立會社ノ社
長ノ權限

○商法實施以前ニ於ケル特別條例外ノ會社ハ會社存續中ハ社長又精算中ハ精
算人ニ於テ訴答ヲ爲シ得ルモノトス二十八日九月二十五日大
審院判決同年第九十一號地所引渡請求等ノ件

商法實施前ニ
於ケル銀行頭
取ノ權限

○商法實施前ニ於ケル銀行ノ頭取副頭取ハ慣例上訴訟ニ付キ銀行ヲ代表スル
權利アルモノトス二十八日十月十五日大審
院判決同年第七十五號貸金請求ノ件

第四節 社員ノ退社

○本節ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第五節 解散

會社解散ノ效
果

○會社解散スルキハ將來ノ行爲ニ係ル賣買取引ハ之ヲ繼續スルノ必要ナキニ
依リ其約務ノ消滅ハ當然ノ結果ナルヲ以テ特ニ之カ説明ヲ附セサルモ違法
ノ裁判ニ非ス二十五年十月十三日大審院
判決二十四年第二十六號讓受契約履行等ノ件

私立銀行ノ性
質

○私立銀行ハ一ノ組合ニシテ組合解散後ハ組合員全躰ノ外訴訟ヲ爲スノ資格
ナシト論告スルモ殘務委員ナルモノハ殘務ニ關スル事柄ヲ處理スヘキ責任
ヲ有スルモノナレハ殘務ニ關係アル訴訟ニ付キ解散シタル銀行ヲ代表スヘ
キ權アル論ヲ俟タス二十八日三月二十三日大審院
判決二十七年第四百二十一號貸金請求ノ件

商法第八十一
條ノ意義

○商法第八十一條ニ會社カ合併ヲ爲シタルキハ云々トアルハ同法第七十八條
ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ云々トアル其決議ヲ爲シタル時ヲ指
ス法意ニ非スシテ決議ヲ爲シタル後實際合併ヲ爲シタル時ヲ意味スル規定
ハ解釋セサルヘカラス三十四年八月第六十四號三十
四年七月十日第二民事部決定商法違反ノ件

第六節 精算

所謂現存スル
財產

○商法第九十二條ニ所謂會社ニ現存スル財產トハ會社財產中ヨリ社員ヲシテ
出資ヲ爲サシムヘキ債權ヲ取除キタルモノヲ指稱スル文字ニシテ其動産タ
ルハ不動産タルト債權タルト將タ又其他ノ財產タルトヲ問ハス會社カ現ニ
有スル總テノ財產ヲ包含スルモノトス三十四年三月十九日民事
部判決同年八月第十號

第三章 合資會社

第二編 會社 社員ノ退社 解散 精算 合資會社

○本章ハ合名會社準用ノ規定多キヲ以テ特ニ本章ニ見ルヘキ判例ナシ

第四章 株式會社

第一節 設立

會社ト組合トノ差異

○株式會社ハ第三者ニ對シ其定款ニ羈束セラルヘキモ組合員カ相互ニ遵守スヘキコトヲ定メタルニ止マルヲ以テ組合員ハ第三者ニ對シ其規約ニ羈束セラレヘキモノニ非ス 三十二年十二月二日大審院 判決同年第三百八十七號 損害要償ノ件

四分ノ一拂込ヲ爲サスシテ登記シタル會社

○株式會社設立ノ登記ヲ爲スニ當リ各株式ニ付キ少クモ四分ノ一ノ金額ヲ拂込マサレハ其登記ハ適法ナラス然レモ之カ爲メ當然無効ニ歸スヘキモノニ非サレハ苟モ登記ノ取消サレサル間ハ會社ノ法人資格ハ他人ニ對抗スルコトヲ得 三十三年十二月一日第一民事部 判決同年第三百七十六號 株金拂込請求ノ件

二週間ノ期間ノ起算點

○商法第四百一一條及七第五十三條ノ二週間ノ期間ハ監査役ニ當選シタル者ノ承諾ヲ俟テ後始メテ起算スヘキモノニ非ラス決議ノ日ヨリ起算スヘキモノトス 三十四年七月八日第二民事部 判決同年第三百八十九號 變更登記懈怠ノ件

監査役ノ再選

○同一ノ者カ監査役ニ當選セラル、モ是レ全ク改選ノ結果ニシテ則チ監査役

ニ變更アリタルモノニ該當スルニ因リ更ニ之ヲ登記スヘキモノトス(右同斷)

第二節 株式

會社ノ定款ニ反セサル行為ノ效果

○會社定款ヲ以テ拂込未済ノ株ヲ公賣ニ付シ不足金ノ追徴ヲ爲スコトヲ許シ而シテ必ス一回ノ拂込未済毎ニ其處分ヲ結了スヘキコトヲ限ル明文ナキ以上ハ其會社ニ於テ二回以上ノ拂込未済ニ對スル處分ヲ併テ同時ニ爲スコトヲ得 二十四年九月十九日大審院 判決同年第三百九號 不當公賣取消等ノ件

記名株券ノ性質

○記名ノ株券ハ普通ノ動産ト同視スヘカラス其名義書換等ノ手續ヲ爲サ、ルキハ他人ニ對シ所有移轉ノ効力ヲ有セス未タ獲得セサル株券ノ賣代金ヲ以テ自己ノ負債ヲ償却シタルハ他人ノ立換ヲ受ケタルト一般ナリ 三十五年四月七日大審院 判決同年第三百五號 債權取立ノ件

株主及ヒ株券ノ買

○甲者カ會社株券ノ名前入タルノ故ヲ以テ既ニ配當金ヲ受領シタリシト雖モ之ヨリ先キ其株券ノ所有權ハ乙者ニ移リナカラ甲者ノ故障ニ依リ名前書換ヲ爲シ能ハサルカ爲メ甲者ノ受領シタル配當金ノ取戻ヲ請求シタルキハ甲者ハ之ヲ引渡ス義務アルモノトス 二十六年九月二十八日大審院 判決同年第三百十八號 不當取得金取戻請求ノ件

登記前ノ株式ノ讓渡

○總テ株券ノ賣買ハ一般ノ商慣習ニ於テ先ツ相場ヲ立テ、之ヲ爲スモノトス
利落賣買ハ或ル場合ノ變例ニ過キス故ニ利落賣買ノ證據ナキ以上ハ相場ヲ
立テ、賣買シタルモノナルニ依リ未タ支拂ハサル配當金ハ賣買前ノ時期ニ
係ルモノモ株券ト共ニ讓受人ノ取得スルヲ一般ノ商慣習トス(同斷)
○會社ノ登記以前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ商法第百八十條ニ依リ絶對的無効
タリ二十八日十八日大審
院判決同年第三百四十四號 契約取消ノ件
【參照】 舊商法 第百八十條 登記前ニ爲シタル株式引ノ讓渡ハ無効ナリ舊商法第百八十條

商法第二百二十一條ノ意義

○會社ノ登記以前ニ其株式ヲ讓渡シタルトキハ當事者互ニ其履行ヲ求ムルヲ
得ス又授受ヲ了リタルトキハ互ニ返還ヲ求ムルヲ得ヘシ
○會社ノ新株ト舊株ト性質ヲ異ニシ利益配當上優劣アル場合臨時總會ニ於テ
新株一株ト舊株二株半ヲ同等ト爲シ新株ノ特權ヲ將來ニ向テ廢止センコト
ヲ議決スルモ商法第二百二十一條ノ規定ニ違背シタルモノニアラス三十二年一月
三十一日大審
院判決三十二年
三月二十二號 不當決議無効確認請求ノ件
【參照】 舊商法 第二百二十一條 利息又ハ配當金ノ分配ハ各株ニ付キ拂込ミタル

金額ニ應シ總株主ノ間ニ平等ニ之ヲ爲ス

會社ノ資本増加

○株式會社カ資本ヲ増加スル場合ニ於テ其新株ノ應募者ハ總テ新株ノ引受ア
ルヘキコトヲ豫想シテ其募集ニ應スルモノナルヲ以テ會社ハ定款ニ別段ノ
定メアル場合ノ外總テ新株ノ引受アリタル後ニアラサレハ引受ヲ爲セシ者
ニ對シ拂込ヲ催告スルヲ得ス三十二年一月三十一日大審
院判決三十二年
三月二十二號 株金拂込請求ノ件
株式ノ申込ハ會社設立ノ場合ト資本増加ノ場合トニ係ハラス書面ヲ以テ爲
スヲ要ス

株主ノ權利

○株式會社ノ株主カ他ノ資格ヲ以テ其會社ニ對シ債權ヲ請求スルトキハ會社
ノ議決録ニ拘束セラル、コトナシ二十九年六月十一日大審
院判決同年第七十四號 工事請負代金請求ノ件

權利株ノ賣買
及ヒ其代金

○未タ登記セサル會社ノ株式ニ關スル權利ノ賣買ハ舊商法第百八十條ニ從ヒ
無効ナルヲ以テ之カ爲メ支拂タル代金ハ當然取戻シ得ヘキモノトス三十四年一
月十九日第一
民事部判決三十三
年(オ)第三百十一號

○未タ登記セサル會社ノ株式ニ關スル權利ノ賣買代金ノ對價ハ株式ニ關スル
權利ニシテ證據金領收書及ヒ委任狀ノ如キハ右賣買ノ目的タル權利ヲ證明
スルニ過キス(各同斷)

株式ナリ

同斷

舊商法ニ於ケル株式ノ買買ノ意義

○舊商法第八十條中「株式」ナル文詞ハ株式會社發起ノ時ヨリ其登記ヲ爲スニ至ル間ニ於ケル株式ニ關スル權利ヲ包含スルモノトス三十四年一月十九日第一民事部判決三十四年一月十九日第一民事部判決三十四年一月十九日第一民事部判決

○舊商法第八十條ニ所謂株式トハ申込ヲ爲シタル權利ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ相當ナリトス三十四年四月二十五日第一民事部判決三十四年四月二十五日第一民事部判決

○舊商法ニ於ケル株式ノ買買ハ株券其物ノ買買ニ非スシテ株主權タル債權ノ買買ニ外ナラサルモノトス三十四年五月二十二日第二民事部判決三十四年五月二十二日第二民事部判決

第三節 會社ノ機關

第一款 株主ノ總會

株主總會ノ決議ニ依リ負擔スル義務

○各株主カ株主總會ノ決議ニ依リ負擔スヘキ義務ハ其所有スル株式ノ金額ヲ限度トスルモノニシテ之ヲ超過シテ該決議ノ結果ヲ受クルモノニアラス隨テ株主總會カ株券ノ金額ヲ増加シ又ハ新株式ヲ發行シ現在ノ株主ヲシテ其所有スル株式ニ應シ之ヲ引受ケシムヘキコトヲ決議スルモ各株主ハ之ヲ承諾スルニ非サレハ其引受ヲ爲スノ義務ナシ三十二年一月三十一日大審院判決三十二年一月三十一日大審院判決 株金請求ノ件

○株式會社ノ資本ノ増減ハ其定款ノ變更ナリ而シテ定款ノ變更ニ必要ナル株主總會ノ決議ハ各株主ヲ羈束スト雖モ各株主カ其決議ニ服從ノ義務アルハ

株主總會ノ性質及ヒ株主ノ義務

其所有株式ヲ以テ限度トスヘキ株主總會ノ決議ノ爲メ右金額ヲ超過シ新ナル義務ヲ負擔スヘキモノニアラス三十二年十一月二十五日判決三十二年十一月二十五日判決 株式拂込金請求ノ件

○株式會社ニ於ケル株主總會ノ決議ハ會社タル法人ノ意思ニシテ法人自體ノ利害ニ關スル重要ノ事項ヲ定ムルモノタルニ外ナラス而シテ株主ハ其所有株式ノ金額ヲ限度トシテ總會ヲ組成スル株主ノ法定多數ノ意思ニ服從スヘキコトヲ豫諾シタルニ過キス

總會決議ノ性質及ヒ定款變更ノ方法

○株主總會ノ決議ニ付キ株主カ服從ノ義務ナキ以上ハ會社カ決議事項ヲ登記スルモ株主ニ對シテ其效ヲ有セス

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサレハ株金額増加ノ引受ヲ承諾セサル株主ニ對シ増加株金ノ拂込ヲ強要スルヲ得ス三十二年十二月十五日判決三十二年十二月十五日判決

増資金引受否認ノ件

株主總會ノ決議

○株主總會ニ於テ出席株主カ其權利數以外ノ投票ヲ爲シ又ハ正當ノ委任狀ヲ有セサルモノカ投票ヲ爲シタル場合ニ於テ此等ノ投票ヲ無効トシテ又ハ除却シタリトテ株主權ノ行使ヲ妨害スルモノニ非サレハ之カ爲メ總會ノ決議

投票ノ記載ノ不明瞭

ヲ無効トスヘキ理由ナシ
三十四年十月二十八日第二民事部判決三十四年(オ)第四百八號 決議無効宣告請求ノ件
○投票ハ其記載明確ナラス又ハ誤記アル場合ニ他ノ證據ニ依リ何人ノ投票ナルヤヲ明確ニ知リ得ルニ於テハ其投票ヲ無効トスヘキ條理ナシ(右同斷)

第二款 取締役

取締役ノ資格ヲ以テ發シタル書面ノ形式

○會社取締役ノ資格ヲ以テ發付セシ書面タルモ社印ナキカ爲メ會社ニ責メナシト爲サンニハ他ヲ羈束スルニ足ルヘキ約束ナカル可ラス然ラサレハ概シテ其社印ナキカ爲メ取締役ノ爲シタル行爲モ會社ニ責メナシト云フヲ得
二十六年四月二十二日大審院判決二十五年第六百五號 預ケ金請求ノ件

第二款 監査役

監査役ノ性質及其代表權

○株式會社ノ監査役ハ會社ノ機關ニシテ會社ノ雇人ニ非ス
三十三年三月二十日決定三十三年(ク)第六八號 證人忌避申請ノ決定ニ對スル抗告ノ件
○株式會社ノ監査役ハ取締役差支ヘノ場合ニハ其代理ヲ爲シ且取締役ニ對スル訴訟ニ附キ會社ヲ代表スルコトアルモ會社ニ關スル訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ニ非ス

第四節 會社ノ計算

株主ノ事業調査權

○商法第九十八條ノ株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムルコトニ付テハ法律上別ニ何等ノ制限アラサルヲ以テ獨リ現在ノ事ニ止マラス必要アルニ於テハ既往ニ遡リテ調査セシムヘキモノト解セサルヘカラス
三十三年(ク)第九十二號三十三年七月二日第二民事部決定 検査役選任決定抗告ノ件

〔參照〕 商法 百九十八條

義務ノ原因ニ因リテハ決算報告ヲ怠ル事アルモ損害ノ原因トナラス

○義務原因カ貸借ノ關係又ハ株金拂込ノ關係等ニ基クトキハ對手者カ決算報告ヲ怠リタルコトアルモ之カ爲メ損害要償ノ原因ヲ發生スルモノニ非ラス
三十年四月十九日大審院判決同年第四十九號 損害要償ノ件

第五節 社債

第六節 定款變更

第七節 解散

(解散ハ合名會社ノ解散ヲ準用)

○本節ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第八節 清算

○商法實施前ニ解散シタル會社ノ殘務委員ハ商法ニ於ケル法人會社ノ清算人

商法實施前ニ解散シタル會社

第二編 會社 會社ノ計算 社債 定款變更 解散 清算

解散シタル會社ノ存續

ト同一ノ任務アルモノニ付キ其社團代表ノ權利ハ之ヲ許認セサルヘカラス
二十九年五月二十一日大審院判決同年第十四號 辨償金請求ノ件

○解散シタル株式會社ト雖モ其精算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做サルヘカラス
三十四年第一〇百六十六號三十四年五月三十日第一民事判決

第五章 株式合資會社

第六章 外國會社

○本章ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第七章 罰則

過料處分ノ性質

○過料處分ハ民事上ノ責任ト異ナリ相續人ニ於テ先代ノ負ヘル責任ヲ繼承スヘキモノニアラス
三十一年十月十九日大審院判決同年第四十一號 會社法違反ノ件

第三編 商行爲

第一章 總則

荷爲換ノ性質

○通常荷爲換ナルモノハ其證文ノ明文ニ因リ債主タルモノ、隨意處分スルヲ得ヘキモノナレハ其處分上ニ付キ負債主ノ承諾ヲ經サルモ荷爲換代金ニ不足ヲ生スル時ハ負債主ニ於テ之ヲ償却スル義務アルモノトス
廿五年一月九日大審院判決二十四年第十六號 貸金催促ノ件

同斷

○荷爲換ナルモノ、性質ハ貸借ト留置權トノ法理ニ基キシモノニテ荷受主カ荷物ヲ拒絶シ爲換金ヲ支拂ハサル場合ニ於テハ貸主ハ荷物ヲ其儘荷主ニ組戻シテ單ニ爲換金ノ返還ヲ請求スルコトヲ得必スシモ保證物賣却ノ後ヲ俟タス
二十五年四月七日大審院判決二十四年第二十號 荷爲換金請求ノ件

出訴期限規則第一條ノ適用

○出訴期限規則第一條ハ商人互ニ販賣スル商品ノ賣掛代金ニ當行スヘキ期間ニシテ商業上ノ元資ニ供スル物件ノ如キハ直ニ商品ヲ以テ目スヘカラサレハ該法條ニ包含セサルモノトス
二十五年十一月五日大審院判決同年第三百二十六號 器械代金請求等ノ件

組合組織ノ商會ノ性質

○組合組織ノ商會ハ無形人ニ非サルカ故ニ其組合員全躰ハ即チ商會ナルヲ以テ其商會ノ債務及ヒ債權ニ付テハ組合員相互ノ間ニ於テ相殺スルヲ得ル

商取引ノ性質

モノトス 二十六年二月十四日大審院 判決二十五年第百十二號 辨償金請求ノ件

計算書ノ認否

○一ノ取引ニシテ其大躰ノ目的商事上ノ取引ヲ爲スニアルトキハ假令ヒ其取引ニ係ル物件ノ一部分ヲ他ノ目的ニ使用スルモ相手方ニ對シ商取引タル性質ヲ失ハス 二十八年十月十五日大審院 判決二十七年第四百七十二號 白米代金請求ノ件

商慣習ノ存在

○計算書中自己ニ不利益ナル部分ヲ認メ利益ナル部分ヲ認メサルモ之カ爲メニ自認不可分カ原則ニ反スルモノト云フヲ得ス 二十八年十月十八日大審院 判決同年第四十八號 協信組精算請金ノ件

取引所仲買人ノ法廷違反ノ行爲

○商慣習ハ當事者ヲシテ證明セシムルカ又ハ裁判所ノ職權ニヨリ調査ヲ爲シタル上ニアラサレハ漫然其存在ヲ認ムルヲ得ス 二十一年十月二十二日大審院 判決同年第二百九十二號 賣掛代金請求ノ件

○取引所仲買人カ明治廿六年勅令第七十四號第十四條ノ法則ニ違背シタルトキハ取引所ニ於テ完全ニ賣買取引成立シタルモノト爲スヲ得ス 二十八年十月三十日大審院 判決同年第二百七十七號 委託契約解除請求等ノ件

【參照】 明治二十六年勅令第七十四號第十四條 取引所ニ於テ賣買取引ノ契約ヲ爲シタルトキハ賣買双方ノ氏名賣買品ノ數量及ヒ其價格ヲ取引所ノ帳簿ニ記入スヘシ

商取引ノ認定

○委託ノ契約ハ義務不履行ニ付キ何時ニテモ取消スコトヲ得ヘシ

出訴期限規則ノ所謂賣掛代金ノ意義

○商取引ナルト否ハ其取引ノ目的如何ニ依リ定ムヘク賣買上得ヘキ利益ヲ標準ト爲スヘキモノニアラス 二十九年二月二十六日大審院 判決二十八年第五百十七號 決議取引請求ノ件

○出訴期限規則第一條ニ所謂商人互ノ賣掛金ハ商業ノ同一ナルト否トニ拘ハラズ總テ商人相互間ニ於ケル商取引ヨリ生スル賣掛金ヲ指稱ス 二十九年二月二十日大審院 判決二十八年第五百十八號 反物代金請求ノ件

商取引上ノ殘額金ノ性質

【參照】 出訴期限規則第一條 一 學藝ノ授業料、一 旅館料、一 運送料、一 飲食料、一 手附金、一 商人互ノ賣掛金、一 職人ノ手間代金、一 日雇人ノ給料、一 請負、一 芝居ノ木戶錢又ハ機數錢等、一 男女藝者ノ揚代金、右ハ六ヶ月、

現行ノ商慣習

○商業取引上ノ殘額ハ同意ニ因リテ不可分ト爲サル以上ハ其性質可分ナリ 二十九年三月七日大審院 判決二十八年第五百二十五號 貸金請求ノ件

店判ノ性質

○白紙委任狀ヲ添ヘテ株券ヲ買受タル者ハ其名義書換ノ手續ヲ爲サス白紙委任狀添付ノマ、之ヲ轉輾流通セシムルコトヲ得ルハ我邦現時ノ商慣習ナリ 三十年三月三日大審院 判決二十九年第六十八號 讓渡株券名義書換請求等ノ件

商取引中手形
發行ヲ包含ス

附隨スル事項ニ付キ義務ヲ負フ場合ニ之ヲ使用シタレハトテ通常一般ノ慣
行ニ違背シタルモノト云フヲ得ス 三十二年六月二十二日大
審院判決同年第十八號 預金取戻ノ件

○手形法ハ商法ノ一部ナリ故ニ之ニ基ク手形ノ發行及ヒ流通ニ係ル作業及ヒ
取引ハ商法上ノ行爲ニシテ商取引ニ屬スルモノトス 三十一年八月二十三日大審院
判決三十一年抗第二十九號 破産
宣告ニ對スル抗告ノ件

取引所仲買人
ノ取引所外ノ
行爲

○取引所仲買人カ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ
以テ爲シタル取引ハ無効ナリトス 三十二年六月二十九
日判決同年第四五號 定期未賣買契約解除證據金
品取戻請求ノ本訴并ニ反訴ノ件

【參照】 明治二十六年法律第五號

芝居茶屋業ノ
性質

○芝居茶屋ハ商行爲ナリ 三十二年十月二十日
判決同年第九六號 過怠破産ノ件

【參照】 商法 第二百六十四條 左ニ掲ケタル行爲ヲ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之
ヲ商行爲トス但專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行
爲ハ此限ニ在ラス(中略)七、客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引(下略)

米穀預リ證券
ナルモノノ性質

○米穀預リ證券ノ發行ニ關シ當時法律上特ニ制限シタル規定ナキニ附キ裁判
所カ其證書ノ文詞ヲ解釋シテ流通證券ナリト認定スルモ違法ニ非ス 三十三年三
月十三日判

決三十二年(カ)預米請求ノ件
第二二〇號

根抵當ノ效力

○銀行及ヒ商人間ニ信用ヲ開ク爲メ汎ク行ハル、根抵當ハ有効ナリ 三十四年十月
三十四日十月二十五
日第二民事部判決 抵當登記取消請求ノ件

第二章 賣買

米商會所ニ於
ケル賣買ノ取
引

○米商會所ニ於ケル賣買ノ取引ハ必ス仲買人ニ依ラサル可カラス故ニ其帳簿
記載ノ有無ニ由テ事實ヲ認ムルハ當然ナリ 二十六年三月九日大審院判
決二十五年第三百九十八號 賣立米證據金取
戻ノ件

起訴當時非商
人ト爲リタル
者ニ對スル請
求

○債權自牖ノ性質カ商人相互ノ賣掛代金ナルトキハ現今ノ債權者カ商人ニア
ラサルモ仍ホ其出訴期限ヲ適用スヘキモノトス 二十六年三月十七日大審院判
決二十五年第五百四十一號 清酒讓渡
金請求ノ件

供給契約

○供給契約ハ特約アルニ非サレハ物ヲ引渡スニ由テ所有權始メテ買主ニ移轉
スルモノナレトモ物ヲ運送人ニ委託シタルノミニテハ末タ以テ賣主ノ所有
權ヲ移轉スト云フヲ得ス 二十六年十二月二十五日大
審院判決同年第四百十七號 強制執行差押解除ノ件

賣買取引ニ於
ケル物品取引
ノ義務

○凡ソ賣買取引ヲ爲ストキハ其直取引ト定期取引トニ別ナク買受人ニ於テ其
第三編 商行爲 賣買
民 二百十五

買受物品ヲ引取ルハ亦通例ナリ然ルニ原院カ各自買受米ヲ必ス引受クヘキトノ契約即チ米價ヲ騰貴セシムルノ目的ニ由リ締約シタルモノハ公益ニ害アル無効ノ契約ナリトノ旨ヲ以テ下シタル裁判ハ通例ノ事態ニ反スルモノトス通例ノ事態ニ反スルニモ拘ハラズ別ニ説明スル所ナキニ於テハ不當タルヲ免レス假ニ之ヲ相當ナリトセン乎則チ巨額ノ米穀ヲ賣買直取引シタルトキハ其直取引ハ常ニ公益ニ害アルモノトシ之ヲ無効視セサルヲ得サルニ至ルヘシ二十七年六月二十一日大審院判決三十二年第六百〇九號違約金損害請求ノ件

株券賣買ノ性

○株券ノ賣買トハ株式ノ賣買即チ一種ノ權利ノ讓渡ニシテ株券ト稱スル特定物ノ賣買ニアラス二十八年十一月十二日大審院判決二十七年第四百六號株券讓受ニ係ル内金取戻請求ノ件

買買ノ解合ナルモノノ合意

○米穀賣買ノ解合ナルモノハ賣買契約ノ履行ニシテ之レカ解除ニアラス二十八年十月十四日大審院判決同年第三百九十九號保證金取戻ノ件

賣買ノ依託

○賣買ノ依託ヲ受ケタル米穀仲買人カ擅ニ解合ヲ爲シ其依託者ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ依託者ハ損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得ヘキモ賣買ヲ取消シ保證金ヲ取戻スヲ得ス

相手方商業帳簿ノ權

○當事者間ノ賣買取引等ヲ詳記シタル商業帳簿ト雖モ相手方所有ノ帳簿タル上ハ強テ閱覽ヲ求ムルノ權ナシ隨テ特ニ法律ニ於テ規定シタル場合ノ外獨立ノ訴ヲ以テ之カ閱覽ヲ求メ得ヘキモノニ非ス三十三年(大)第四百四號三十三年十月一日第二民事部判決帳簿閱覽請求ノ件

第三章 交互計算

第四章 匿名組合

○本章ハ判例ノ見ルヘキナシ

第五章 仲立營業

○米穀取引所ニ於テ仲買人ニ對シ即時證據金ノ納入ヲ命スルハ特別規定ニ基ク臨時ノ處分ナルニ依リ特ニ其通知ヲ爲スヲ必要トス故ニ其納入ヲ怠リタルヲ理由トシテ停止處分ヲ爲シタルカ爲メ之カ取消ヲ求ムル爭訟起リタルトキ其納入ノ通知ヲ爲シタル事實ハ取引所ニ於テ之ヲ立證スルノ責任アリ

仲買人ノ證據金納付方ノ遲延

第三編 商行為 交互計算 匿名組合 中立營業

仲買人ノ賠償責任

三十年七月五日大審院 營業停止處分取消ノ件
判決同年第九十七號

○官報ノ廣告ハ仲買人ヲ羈束セス故ニ仲買人カ公債證書ノ贖物ナルコトニ氣付カス之ヲ他ニ轉賣シ其結果買主ノ損害トナルモ仲買人ハ之カ爲メ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノニアラス
三十年十一月十三日大審院 整理公債證書取戻請求ノ件
判決同年第二百五十號

取引所仲買人ノ性質及ヒ其權利義務

○取引所仲買人カ他人ノ依頼ニ因リ爲ス取引ハ一種ノ委任行爲ナレハ一般委任ノ法則ニ從フヘシ而シテ委任ノ原則上受任者ハ委任ノ趣旨ニ反シテ行爲ヲ爲スヲ得ス
三十一年九月十六日大審院 損害金請求ノ件
判決同年第六十六號

○取引所仲買人カ委任者ノ爲メニ商品ノ定期賣買ヲ爲シタル未其取引ノ停止トナリタル場合ニ於テ總解合ニ因リ委任セラレタル賣買ノ解除ヲ爲シ委任者ニ對シ其責任ヲ免レントセハ之レカ承諾アルカ又ハ公認セラレタル慣習法若クハ規約ニ依ルコトヲ要ス

同斷

取引所仲買人カ委任者ノ承諾ヲ得ズ且之ニ何等ノ責任ヲ負フコトナクシテ定期取引ノ總解合ヲ爲シ得ヘキ一般ノ慣習ナシ
○仲買人カ客ノ委託ヲ受ケ數度ニ價格ノ相違アル株ノ賣買ヲ爲シタル場合ニ

仲買人ハ一般委任ノ法則ニ從フヘシ

於テ其平均代價ヲ通知スルハ異常ノ事柄ナルヲ以テ依頼者ノ承諾ナキ以上ハ無効ナリ
三十二年四月二十六日大審院 證據金取戻請求ノ件
判決同年第三百十六號

仲買人ハ株式賣買ノ委託ヲ受ケテ賣買ヲ爲スモノナレハ委託者ノ代理人タルニ過キス故ニ委託者ト仲買人トノ間ニハ賣買契約存立スルモノニ非ス
○取引所仲買人カ他人ノ注文ニヨリ取引所ニ於テ取引ヲ爲ス事ハ一種ノ委任行爲ニ外ナラサルヲ以テ一般委託ノ法則ニ從フモノトス
○取引所仲買人カ委任者ノ注文ニヨリ商品ノ定期賣買ヲ爲シタル未其取引ノ停止ト爲リタル場合ニ於テ賣買ノ解合ヲ爲スモ委任者ノ承諾ニ出テサル限りハ委任者ニ其結果ヲ對抗スルコトヲ得ス
三十二年六月十日 定期賣建株券取引要求ノ件
判決同年第二六號

仲買人ノ賣買場取引ニ於ケル

○仲買人カ委任ヲ受ケテ賣買ヲ爲ストキハ仲買人ト委任者トノ間ニハ委任關係ヲ生スルモノトス
三十三年一月廿三日判決 證據金并解合金引渡請求ノ件
三十二年第二五七號

仲買人カ取引所ニ於テ買附ヲ爲ス行爲ハ委任者ノ爲メナルヲ以テ委任者ニ對シ有効ニ轉費スルニハ亦取引所ニ於テ之ヲ爲サハカラス(右同斷)

○取引所仲買人カ取引所ニ於ケル賣買ノ委任ヲ受ケ賣建又ハ買附ヲ爲シタル以上ハ其轉賣買等取引ノ變更ニ關シテハ一ニ委任者ノ意思ニ從フヘク自己

仲買人ト注文者トノ關係

ノ意思ヲ以テ委任者ノ意思ヲ阻碍シ得ヘカラサルハ委任ニ關スル一般ノ法理ナリトス 三十三年六月二十六日 益金請求并ニ證據金取戻ノ件 判決同年(オ)第八四號
○仲買人ハ取引所ニ於テハ自己ノ名ヲ以テ取引スヘキモノナレモ仲買人ト注文者トノ間ニハ委任關係存スルヲ以テ取引所ニ於ケル取引直段ト注文者ニ報告シタル直段トハ同一ナラサルヘカラス 三十三年(オ)第四百十九號三十三年十一月二十二日第一號判決 委託證據金取戻請求ノ件

第六章 問屋營業

委託販賣ノ性質

○委託販賣買トハ當事者ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シ商品ヲ委託シ之カ販賣ヲ委任スルヲ云フ故ニ其販賣ノ時機及ヒ直段ニ付キ別ニ商慣習又ハ特約ノ存セサル限りハ受託者ニ於テ相當ト思料スル時機及ヒ直段ヲ以テ適當ニ之カ販賣ヲ爲シ得ルモノトス 三十三年四月二十八日判決 三十三年(オ)第九四號 立替金請求ノ件

第七章 運送取扱營業

荷受人ノ權利

○運送取扱人ニ對シ荷爲替附ノ荷物引渡ヲ求ムル者ハ爲換金ノ支拂ヲ爲サスシテ荷物ノミノ引取ヲ許サ、ルハ條理及ヒ商慣習ノ認ムル所ナリトス
運送取扱人ハ荷爲替附ノ荷物宛名人ニ引渡スモ其爲換債權ヲ失却セス單ニ留置權ヲ失フモノトス 二十八年十二月十九日大審院判決 同年第二百八十五號 荷爲換金請求ノ件

第八章 運送營業

第一節 物品運送

第二節 旅客運送

運送者ノ損害賠償義務

○甲者乙者ト運送契約ヲ爲シ乙者ニ於テ運送中其貨物ノ喪失シタルニ依リ甲者其價額ノ賠償ヲ求ムルハ乙者ニ過失アルコトヲ證明スルノ責任ナシ而シテ乙者ハ運送ノ責任ヲ負擔シタルモノナレハ貨物ノ喪失カ甲者ノ過失貨物ノ性質又ハ不可抗力ニ基因シタルニ非ル以上ハ假令ヒ喪失カ第三者ノ所爲ニ依リ乙者ノ自己ノ過失ナキモ甲者ニ對シ賠償ノ責ヲ免ル、コト能ハス 二十六年三月三日大審院判決 二十五年第三百八十一號 損害賠償ノ件

運送者ノ賠償義務

○運送中貨物ノ喪失ニ付テハ運送營業者ニ於テ自己ノ過失ニ原因セサル事ヲ立證スルニアラサレハ貨物引渡ノ義務ヲ免カレス 二十九年二月二十七日大審院判決 二十八年第二百四十七號 燒失

遞次運送ノ場
合ニ於ケル義
務ノ關係

○運送人ニ於テ同業者カ引受ケタル貨物ヲ引受テ遞次運送ヲ爲ストキハ各運
送人ハ荷主ニ對シテ連帶シ運送ニ付テノ責任ヲ負擔スルヲ以テ一般ノ慣行
ナリトス 三十二年二月八日大審院判
決三十二年第四百十號 積荷損害要償ノ件

運送營業ニ關
スル債務ナリ
ト雖モ直チニ
運送ノ規定ヲ
適用セズ

○運送營業ニ關スル債務ト雖モ其債務證書ヲ作製シテ第三者ニ交付シ又ハ金
額ヲ借入ル、カ如キ行爲ハ單純ナル運送業務使用人ノ受任權内ニ屬スヘキ
モノニ非ス 三十三年五月二十七日大
審院判決同年第六十七號 敷駄金請求ノ件

營業ノ讓渡

○運送其他ノ營業ヲ讓渡スニ當リテハ店舖貨物債權債務得意先及ヒ商業帳簿
等ハ總テ之ヲ讓渡スヲ通常トス故ニ其反證アラサル限りハ總テ讓渡アリタ
ルモノト推定セサルヘカラス 三十三年(才)第四百二十一號三十
三年十一月七日第二民事部判決 貨物運輸決算報告請求ノ
件

荷爲換ノ性質

○荷爲換ナルモノハ荷主カ運送物品ヲ擔保トシテ借入レタル金員ヲ其物品引
換ニ債權者又ハ債權者ノ指名シタル者ニ支拂フヘキ旨ヲ荷受人ニ對シテ指
圖ヲ爲シ若シ其辨濟ヲ爲サル場合ニ於テハ擔保物ヲ賣却シ其賣得金ヲ以
テ辨濟ニ充當スル權利ヲ債權者ニ與ヘタル行爲ナリトス 三十二年一月十二日大審院
判決三十二年第四百七十號

荷爲換ニ依リ
テ生スル法律
關係ノ性質

荷爲換債權者
ノ權利

貸金請求ノ件

○荷爲換ニ依リテ生スル法律關係ハ其債權者ト荷主タル債務者トノ間ニ於ケ
ル物品擔保附ノ金錢貸借ナリトス(同上判決)

○荷爲換ノ債權者ハ荷受人カ辨濟ヲ爲サルトキハ其擔保物タル運送物品ノ
處分ヲ爲サスシテ直チニ荷主タル債務者ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得
ルモノトス(同上判決)

第九章 寄託

第一節 總則

第二節 倉庫營業

預證券等ノ裏
書

○債務者カ商法上ノ預證券等ニ裏書ヲ爲シ之ヲ讓渡シタルトキハ假令其讓渡
ハ虛偽ナルニモセヨ其裏書ヲ取消スニ非サレハ債權者ニ於テ之ヲ處分スル
ヲ得サルニ付キ其裏書ハ所謂詐害行爲ニシテ民法第四百二十四條ニ依リ之
カ取消ヲ求メ得ヘキモノトス 三十四年(才)第九十四號三十四
年十月二十二日第二民事部判決 詐害行爲廢罷請求ノ件

第十章 保險

第一節 損害保險

第一款 總則

保險契約ニ於ケル不實ノ告示

○保險契約ヲ爲スニ際シ不實ノ告示ヲ爲シタル場合ニ於テ其事實ノ輕重ヲ較量シ保險契約ノ効力如何ヲ判定スヘキハ當事者間ニ其特約ナキハ場合ニ限ルモノトス 三十二年九月十四日 判決同年第五七號 保險金請求ノ件

第二款 火災保險

被保險者ノ防禦義務

○被保險者ハ若シ火災防禦ノ手段ヲ盡サ、ルトキハ保險金ヲ受領スル權ヲ失フモノタルコトハ保險規則ノ條文ニ於テ明カナリ則チ本訴ノ曲直ヲ定ムルニハ先ツ上告人ニ於テ火災ノ當時被保險物ニ防禦ノ手段ヲ盡サ、リハ果シテ怠慢ニ出テタルヤ否ヤヲ確定セサル可カラズ否ラサレハ該則ノ制裁ヲ受クヘキモノナルヤ否ヤ判然セサル筋合ナルニ原院ハ直チニ該則ノ制裁ヲ受クヘキモノトシタルノ不法ノ裁判ナリ 二十八年五月二十八日大審院判決同年第五十號 保險辨償金請求ノ件

第三款 運送保險

○本款ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第二節 生命保險

生命保險ノ性質

○生命保險契約ハ財産上ノ關係ナシト雖モ親族故舊ノ因由情誼ヨリ甲者乙者ノ爲メニ保險金ノ義務ヲ負擔スルハ法律ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ保險金負擔者ハ被保人ト其人ヲ異ニスレハトテ公安ヲ害スルモノトシテ無効ト論斷スルコトヲ得ス 二十六年三月十六日大審院判決二十五年第五百九號 保險金請求ノ件

商法第四百二十七條ノ所謂生死ナル意義

○商法第四百二十七條ニ所謂生死トハ死亡ト生存トノ二者ヲ云フモノニシテ出生ヲ包含スルモノニ非ス又妊婦ハ其胎兒又ハ自己ノ身軀ニ就キ金錢上ノ利益有スルモノト言フコトヲ得サレハ出生ヲ條件トシテ多數ノ契約者ヨリ報酬ヲ醸出セシメ會社ヨリハ之ニ對シテ保護料ヲ支拂ヒ其差額ヲ利得セントスル會社事業ハ生命保險ニモ非ス損害保險ニモ非サルナリ 三十三年七月九日決定三十三年六月八日決定 營業禁止命令決定抗告ノ件

【參照】 商法 第四百二十七條

生命保險契約ハ當事者ノ一方カ相手方又ハ第二者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

第四編 手形

第一章 總則

送金手形ニ依
ル相殺

○送金手形カ所持人證券ナル場合ニ在テハ縱令ヒ之ヲ讓渡シタル者ト支拂人
トカ相互ニ債權者タリ債務者タリシコトアルモ法律上相殺ヲ以テ第三者タ
ル所持人ニ對抗シ得ルトスルニ於テハ取引上ノ信用ヲ害シ融通ヲ妨クルコ
ト必然ナリ則チ法律ニ於テ明カニ之ヲ許サ、ル限リハ第三者タル所持人ニ對
抗スルヲ得ルカ如キ相殺ハ生セサルモノトセサルヲ得ス 二十七年四月十二日大審院
判決二十六年第五百十二號

爲替金請求ノ件

送金手形カ所
持人證券ナル
場合

○送金手形カ所持人證券ナル片ハ其手形ヲ支拂フヘキ者ニ告知ヲ爲シ又ハ其
承諾ヲ得ルカ如キ手續ヲ要セサルハ論ヲ俟タス況ヤ「コレ」ボンドンズ」ノ
契約アルニ於テ「コレ」抑「コレ」ボンドンズ」ノ契約ハ其當事者タル銀行ノ一
方ヨリ他ノ一方ニ對シ手形ヲ受取ルヘキ手形所持人ノ何人タルヲ問ハス其
命令ニ從ヒ支拂ヲナスヘントノ契約ニ非ラス

手形ハ要式證
券ナリ

時効ニ因リテ
手形上ノ權利
ヲ失ヒタル者
ノ請求權

手形取得原因
ノ消滅ヨリ生
スル效果

振出人數名ノ
手形
舊商法ノ所設
振出ノ場所

○手形ハ要式證券ナルヲ以テ無期限ノ延期手形ト云フ如キ不完全ノモノニハ
手形ノ名稱ヲ附與スルコトヲ得ス手形トシテハ手形面ニ記入アル支拂期日
ノ延期ヲ許スコトヲ得ス當事者間ノ同意ヲ以テ約束手形面ノ支拂期日ヲ延
期センコトノ事實ヲ認メタル上ハ普通法ニ依テ其合意ヨリ生スル所ノ責任
如何ヲ判定セサルヘカラス 二十八年二月十二日大審院判
決二十七年第五百一號 約定金請求ノ件

○時効ニ因リ約束手形上ノ請求權ヲ失ヒタル者ハ其爲替權利ヲ失ヒタルニ拘
ハラズ振出人カ爲替資金ニ因リ不當ニ已ヲ利シタル限度ニ於テ不當利得ノ
取戻ヲ請求シ得ヘキモ振出人ハ常ニ其手形面ノ金圓ヲ利得シタルモノト推
定スヘキニ非ス 三十三年五月三十一日判決
三十二年九月二十四號 不當利得金返還請求ノ件

○手形ヲ取得セシ原因カ消滅シタル場合ニ於テハ其取得者ハ手形取戻請求ニ
應セサルヘカラス 三十三年(オ)第百二十九號三十三
年十一月二十八日第一民事部判決 當座小切手金償還請求ノ件

○手形ニ振出人數名アルモ其効力ノ妨ケトナラス 三十三年(オ)第五百三十一號三十
四年一月十七日第一民事部判決

○舊商法第八百十一條ノ所謂振出ノ場所トハ市町村等一定ノ區域ノ謂ニシテ
市町村内ノ區町字等ノ謂ニ非ス故ニ單ニ東京市内ノ區名ヲ記載シタル手形
ハ手形ノ場所ヲ記載セサル手形ニシテ無効ナリ(右同斷)

支拂擔當者ノ
指定

○支拂擔當者ナルモノハ支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テノミ定ムヘキモノトス 三十三年(オ)第五百六十號三十四年二月二十三日第一民事部判決

舊商法ニ所謂
振出ノ場所

○舊商法第八百十一條第一ニ所謂振出ノ場所トハ市町村等一定ノ區域ヲ指稱スルモノナルカ故ニ其手形カ何レノ市町村等ニ於テ振出サレタルモノナルヤ一定シ居レハ足ルモノニシテ大字等ノ如キハ敢テ之ヲ記載スルノ要ナシ 三十三年(オ)第五百七十二號三十四年三月十二日民事部判決

舊商法ニ於ケ
ル裏書ノ日附

○舊商法第七百二十四條ハ裏書ノ日附ハ裏書讓渡合意ノ日ヨリ別ノ日附ト爲スコトヲ得サル旨ヲ規定シタルモノニシテ必スシモ手形交附ノ日ヨリ前ノ日附ト爲スコトヲ得スト爲シタルモノニ非ス 三十三年(オ)第五百三十五號五百四十六號三十四年三月十九日民事一部判決

銀行出張所ノ
性質

○某銀行ノ出張所トハ其銀行カ業務ヲ行フ場所ノ延長ニシテ其事務所ヲ示スモノニ外ナラス 三十四年(オ)第二百九十九號三十四年十月二十四日第一民事部判決 約束手形金請求ノ件

銀行出張所カ
被裏書人タリ
シトキ

○約束手形ニ被裏書人トシテ某銀行何々出張所殿ト記載シアレハ某銀行カ被裏書人ナルコトヲ示スモノニシテ何々出張所ナル記載ハ無用ノ文字ナルコト文面上自ラ明カナリトス(右同斷)

所謂振出地ノ
意義

○法律ニ於テ振出地下稱スル地域ハ市町村若クハ北海道沖繩ノ區ノ如キ行政區劃中獨立シタル最少地域ノ謂ナリトス 三十四年(オ)第四百七十二號三十四年十月二十四日第一民事部判決 約束手形金請求ノ件

舊法ノ規定ニ
依ル約束手形
ノ時効起算方

○舊商法ノ施行中満期日ノ到來シタル約束手形ニ關スル時効期間ノ計算ニ付テハ民法第四百十條ノ規定ヲ適用スヘキモノナレハ満期日ヲ算入スヘキモノニ非ス

第二章 爲替手形

第一節 振出

○手形ニ其振出ノ場所ヲ記載セサルトキハ手形トシテ効力ナシ手形振出ノ場所ハ其村町番地等詳細ニ明示スルヲ要セス其何レノ場所ニ於テ振出シタルヤヲ知り得レハ充分ナリトス 二十九年十二月三日大審院判決同年第二百二十六號 約束手形金請求ノ件

○舊商法第八十八條第五號ノ所謂振出人ノ署名ニハ振出人ノ氏名又ハ商號

第四編 手形 爲替手形 振出

舊商法ノ所謂
振出人ノ署名
ノ意義

振出場所ヲ記
載セサル手形
ノ効力及ヒ其
場所ノ記載方

ヲ書入スルヲ謂ヒシモノト解釋スルヲ相當トス 三十三(五)月八日判決 三十三(五)月十三日判決 約束手形金請求ノ件

白地式裏書手形ノ概観

等二節 裏書

○舊商法第七百二十五條ニ依シテ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミニシテ裏書讓渡ヲ爲シタル手形ハ爾後交付ノミヲ以テ轉付スルコトヲ得ヘキモノタリ故ニ此手形ニ付キ再三裏書人ノ署名捺印ノミヲ以テ爲シタル裏書讓渡ヲ有効ト認メタル判決ハ相當ナリ 三十二年(二)月二日判決 同年第七十一號 約束手形金請求ノ件

【參照】 舊商法 第七百二十五條 無記名式ニテ振出シ又ハ白地ニテ裏書讓渡ヲ爲シタル爲替手形ハ交付ノミヲ以テ之ヲ轉付スルコトヲ得

○手形ノ所持人ニ於テ擅ニ裏書讓渡ヲ抹消シタル上之ヲ償還義務者ニ返還スルモ法律上償還ノ義務ヲ盡シタル効力ヲ生セス隨テ償還義務者其ノ手形ヲ握手スルモ爲替法上所持人ノ地位ヲ有セサルモノトス 三十二年(二)月二十五日判決 三十二年(二)月二十五日判決 約束手形金請求ノ件

○舊商法ニ於テ手形ノ裏書讓渡人ハ支拂期日後ニ其裏書讓渡ヲ爲シタル各人ニ對シ償還請求權ヲ有ス 三十三(五)月十九日判決 三十三(五)月二十八日判決 損害賠償請求ノ件

舊商法ニ於ケル裏書讓渡人ノ權利

所持人カ擅ニ裏書讓渡ヲ抹消シタル行爲ニ對シテ償還義務者ニ返還スルモ法律上償還ノ義務ヲ盡シタル効力ヲ生セス隨テ償還義務者其ノ手形ヲ握手スルモ爲替法上所持人ノ地位ヲ有セサルモノトス

民法第四百二十三條 舊商法第七百六十五條同 民法第四百七十七條及民法第四百七十八條ノ適用

○民法第四百二十三條舊商法第七百六十五條同第四百條及ヒ民法第四百七十七條ハ約束手形ノ讓渡人カ讓渡人ヲ強迫シ裏書讓渡ヲ爲サシメタル原因トシテ而カモ其手形ノ振出人ヨリ讓渡人ト讓受人トニ對シ讓受渡ノ取消ヲ求ムル場合ニ適合スヘキ法條ニ非ラス 三十二年(七)月七日判決 三十二年(六)月二十六日判決 約束手形裏書讓渡取消請求ノ件

【參照】 民法 第四百二十三條 債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得但債務者ノ一身ニ專屬スル權利ハ此限リニ非ス
債權者ハ其債權ノ期限カ到來セサル間ハ裁判上ノ代位ニ依ルニ非サレハ前項ノ權利ヲ行フコトヲ得ス但保存行爲ハ此限ニ非ラス
舊商法 七百六十五條 支拂ニ對シ前條以外ノ方法ヲ以テスル故障又ハ債務者ノ知ラサル人ニ爲ス支拂ニ付テハ第四百條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得
舊商法 第四百條 指圖證書ノ發行人ハ呈示人ノ眞偽ヲ調査スル權利アルモ其義務トシ然ルトモ惡意又ハ甚シキ怠慢ニ付テハ此カ爲メ損害ヲ受ケタル者ニ對シテ其責ヲ負フ

民法 第四百七十條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ノ所持人及ヒ其署名捺印ノ眞偽ヲ調査スル權利ヲ有スルモ其義務ヲ負フコトナシ但債務者ニ惡意又ハ重大ナ

舊商法ニ於ケル裏書ノ種類

○舊商法ニ依レハ手形ノ裏書ニハ二種アリテ其第一種ハ年月日場所裏書讓渡人ノ署名捺印及ヒ裏書讓受人ノ氏名アルコトヲ要シ第二種ハ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ爲スヘキモノナルカ故ニ單ニ裏書讓渡人ノ署名捺印ノ外ニ裏書讓受人ノ氏名ヲ記載シタル手形ハ第一種ノ裏書トシテ無効ナルノミナラス第二種ノ裏書トシテモ其効ヲ有セス三十三年八月七日判決三十三(オ)第一九五號 約束手形金請求ノ件

會社支店宛ノ裏書

○商事會社ハ其本店若クハ支店ニ於ケル商行爲ノ人格ナルヲ以テ手形ノ裏書ヲ會社支店宛ト爲シタル場合ニ於テ其裏書讓受人ハ法人タル會社ナリトス三十三年(オ)第六百三十四號三十四年四月十八日第一民事部判決

同斷

○手形ノ裏書ニ某株式會社支店ヲ裏書讓受人ト爲シタル場合ニハ某株式會社ヲ以テ裏書讓受人ト爲シタルモノト看做スヘキモノトス三十三年(オ)第五百四十號三十四年五月十四日民事一部判決

舊商法第七百二十五條ノ法意

○舊商法第七百二十五條ノ法意ハ一度讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタル手形ハ特ニ通例ノ裏書若クハ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テスル

會社ノ支店宛ノ裏書人又ハ被裏書人ナリトシキ

裏書ノ方法ニ依ラスシテ交付ノミヲ以テ讓渡スルコトヲ得ヘシトノ趣旨ニシテ讓渡ノ方法ヲ交付ノ一事ニ限定シタルモノニ非ス三十四年(オ)第五百八十號三十四年六月二十七日判決 約束手形金支拂請求ノ件

本店支店間ノ手形授受ノ効果

○手形ニ裏書人又ハ被裏書人トシテ商事會社ノ支店ヲ記載シタルモノハ該支店ニ於テ商行爲ヲ爲ス所ノ法人ヲ指示シタルニ外ナラサルモノトス三十四年四月十九號三十四年七月四日第一民事部判決 約束手形請求ノ件

所謂附箋ト補箋

○本店ト支店トノ間ニ於ケル手形ノ裏書ハ同一人間ニ爲シタル裏書ニシテ手形上何等ノ効力ナク其裏書ハ始メヨリ記載ナキモノト同一ナリ(右同斷)

記名若クハ白地裏書ハ手形ノ種類ニ關セサルヤ

○手形ノ裏書ヲ爲スニ付キ之ニ附箋シテ裏書人ハ署名シタルハ商法第四百五十七條ニ所謂補箋ニ外ナラサレハ裏書ノ方式ニ背反スル所ナシ三十四年(オ)第三百五十七號三十四年九月十七日第一民事部判決 約束手形金請求ノ件

○商法第四百五十七條ニ規定セル二種ノ裏書ハ孰レモ指圖式手形ニ付之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論記名式ノ手形ニ付キテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ商法ノ解釋上毫モ疑ヲ容レズ

又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲナス
裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ爾後爲換手形
ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第三節 引受

○本節ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第四節 擔保請求

○同上

第五節 支拂

支拂猶豫契約
ノ效力

○手形所持人ト振出人ノ間ノ支拂猶豫ノ契約ハ其當事者間ニ於ケル手形上ノ
權義關係ヲ變シテ民事上ノ權義關係タラシムル効果ヲ生ス 三十二年四月二十八日大
審院判決三十二年第四百
三十三號

商法第四百
十二條ノ手
形ヲ爲シテ
手形

○手形ノ支拂地ニ支拂人カ營業所及ヒ居所ヲ有セサル場合ニ於テ商法第四百
四十二條ノ手續ヲ爲サスシテ當然支拂請求ノ手續ヲ爲シタルモノト看做シ
タルハ不法ナリ 三十三年(才)第三百四十二號三十
三年九月十五日第一民事部判決

第六節 償還ノ請求

式償還請求ノ才

手形ノ償還請
求ニ付キ爲ス
通知人

償還請求ノ通
知方

償還請求權ノ
發生時期

償還請求ヲ爲
ス時期

○手形裏書人ニ對スル償還ノ要求ハ支拂ノ請求ト其場合異ナルヲ以テ拒證書
ノ作製ヲ要スル規定モナク從テ嚴格ナル手續ニ依ラサルモ現ニ本人又ハ本
人ノ住所ニ就キ要求ヲ爲シタルコトヲ認ムヘキ確證アレハ其効アルモノト
ス 二十六年四月二十一日大審院
判決二十五年第五百六十一號

○手形ノ償還請求ニ付キ爲ス處ノ通知ハ民事訴訟法ニ依リ任命セラレタル特
別代理人之ヲ爲スモ有効ナリ 二十七年五月二十八日大審
院判決同年第五百六十五號

○手形ノ償還請求ノ通知ハ拒證書作成通知後何時ニテモ爲スコトヲ得 二十九年五
月二十八日
大審院判決同年
第五百六十五號

○手形上ノ償還請求ハ所持人ニ在テハ拒證ヲ作リタル日ノ翌日裏書讓渡人ニ
在テハ通知書ヲ受取リタル日ノ翌日其請求及ヒ支拂拒證書作成ノ通知ヲ爲
スニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス 三十一年第四百三十號同
年十一月二十九日判決

○手形所持人カ裏書讓渡人ニ對シ償還請求ヲ爲スニハ支拂拒證書ヲ作リタル
日ノ翌日書面ヲ以テ其請求及ヒ拒證書作成ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス又拒證
書作成ノ義務免除ノ場合ニ於テハ拒證書ヲ作ルヘキ日ノ翌日書面ヲ以テ償
還請求ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス 三十一年四月二十八日大審院
判決三十年第四百三十三號

償還請求ノ條

商二百三十六

○手形所持人カ裏書讓渡人ニ對シテ償還請求ヲ爲サント欲セハ必ス満期日ニ支拂ノ爲メ之ヲ支拂人ニ呈示スルヲ要ス若シ其呈示ヲ爲サルトキハ原因ノ如何ヲ問ハス償還請求ノ權ヲ喪失スルコトハ舊商法ノ法意ナリ三十三年六月十四日判決三十四年七月五日第一民事部判決約束手形請求爲替訴訟ノ件

○凡ソ手形ハ例外ノ場合ヲ除クノ外ハ縱令契約者間ノ目的如何又ハ權義ノ起因如何ニ拘ラス專ラ手形面ニ記載セラレタル文詞ニ依リテ直接ニ其效力ヲ生セシムヘキモノトス從テ償還請求ノ通知モ亦手形上ニ記載セラレタル裏書讓渡人タル所持人ニ於テ舊商法第七百八十三條ノ規定ニ基キ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ有セサルモノトス

【參照】舊商法 第七百八十三條 拒證書作成ノ義務免除ニ因リテ拒證書作成ノ權利及ヒ償還請求權ハ消滅セス然レトモ此場合ニ於テ其免除ヲ爲シタル者ノ後者ニ在テハ其免除ヲ爲シタル者ニ對シテ贈本ヲ以テ爲替手形ノ送附ヲ爲スト同時ニ書面ニテ償還請求ノ通知ヲ爲スヲ以テ足レリトス

償還請求權
者ノ振出人ニ
與ヘタル支拂
與限

○手形權利者カ裏書人ニ對シ既ニ適法ニ償還請求權ヲ得タル上其後ニ至リ縱令振出人ニ對シ支拂猶豫ヲ與フルコトアリトスルモ之カ爲メ振出人ニ對シ

テハ格別裏書人ニ對シテ其既ニ得タル償還請求權ヲ失フヘキモノニ非ス
舊商法第七百八十六條ニ依リ償還ヲ請求シ得ヘキ利息金ハ付遲滯ノ手續ヲ要セス満期ノ翌日ヨリ起算シタル年百分ノ十ノ利息ヲ請求シ得ヘキモノトス

【參照】舊商法 第七百八十六條 償還請求ハ左ノ額ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得

- 第一 爲替金額及ヒ満期翌日ヨリ起算シタル年百分ノ十ノ利息
- 第二 拒證書ノ費用其他必要ナル立替金
- 第三 戻爲替ヲ振出シタルトキハ其費用

舊商法第七百
八十六條ニ依
リ償還ヲ請求
シ得ヘキ利息

○舊商法第七百八十六條ニ依リ償還ヲ請求シ得ヘキ利息ハ付遲滯ノ手續ヲ要セス満期ノ翌日ヨリ起算シタル年百分ノ十ノ利息ヲ請求シ得ヘキモノトス三十三年(オ)第二百六十六號三十三(ニ)第七百六十六號三十三(三)七月五日第一民事部判決約束手形金請求ノ件

【參照】同上

舊法ニ於ケル
拒證書作成ノ
免除

○舊商法ニ於ケル拒證書作成義務ノ免除ハ其作成ニ直接ノ關係ヲ有スル義務ノミヲ免除スルニ過キスシテ之ニ關係ヲ有セサル他ノ手續上ノ義務ヲモ免除スルモノニ非ス三十四年(オ)第二百八十三號同年十月三十一日第一民事部判決約束手形金請求ノ件

第四編 手形 償還ノ請求

民二百三十七

免除者ノ償還請求ノ手續

○拒證書作成ノ義務ヲ免除シタル者ノ後者カ免除者ニ對シ償還請求ヲ爲スニハ拒證書ヲ作成スル如キ業日ノ次日ニ償還請求ノ通知ヲ爲サ、ルヘカラス
(右同斷)

民二百三十八

償還請求ノ通知ハ之ヲ發スルハ足ル

○商法第四百八十七條ニハ「所持人カ前條ノ請求ヲナサント欲スル片ハ云々拒證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス」トアリテ要ハ所持人カ償還ヲナサシメント欲スルニ對シ拒證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルニアリ而シテ郵便ニ依ルト執達吏ニ依嘱シ若クハ雇人其他ノ者ヲ以テスルド同ハス償還義務者ニ對シ前掲ノ日マテニ償還ノ請求ヲ知ラシムル手續ヲ了シ即チ其請求ノ通知ヲ發スレハ足ルモノナリ
三十四年十一月二十一日第一民事部判決三十四年(オ)第三百六十二號 手形金請求ノ件

償還請求ノ通知ハ通常到達シ得ヘキ方法ヲ執レハ可ナリ

○償還請求ノ通知ヲ執達吏ニ依嘱シテナス場合ニ於テハ執達吏ハ敢テ民事訴訟法ニ規定シタル送達ノ手續ニ依ラサルヘカラサルモノニアラス要ハ償還義務者ニ通知ノ通常到達シ得ヘキ方法ヲ執レハ可ナリ(同上判決)

第七節 保證

第八節 參加

第一款 參加引受

第二款 參加支拂

○本節ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第九節 拒絶證書

拒絶作成ノ場所ニ付テハ明責任

○拒絶證書カ拒絶者ノ營業所又ハ住所以外ニ於テ作成セラレタルモノナルヤ否ヤヲ争フトキハ被拒絶者ニ於テ其場處ハ拒絶者ノ營業所又ハ住所ナルコトヲ證明セサルヘカラス
三十二年(オ)第五百二十八號三十四年一月二十九日第一民事部判決

執達吏ノ判斷ノ效力

○執達吏カ當該官署若クハ公署ニ問合セラ爲サシテ振出人ノ住所ナリト判斷シタル事項ハ裁判所ヲ羈束スル効力ナシ(右全斷)

支拂ノ場所ヲ記載シタル手形ノ拒絶證書作成ノ場所

○支拂ノ場所ヲ記載シタル手形ニツキテハ該場所ニ於テ其呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
三十二年(オ)第五百四十四號三十四年五月十四日第一民事部判決

第三章 約束手形

○約束手形振出人ハ直接ニ之ヲ受ケタル者トノ間ニ於テ「合法ノ原因ハ當然券面ニ包含スルモノナリト」ト云フ手形上ノ原則ハ之ヲ適用スルコトヲ要セス

振出人ト受者トノ間ニ於テハ原因ヲ要ス

第四編 手形 保證 參加 拒絶證書 約束手形

約束手形

民二百三十九

債權成立ノ原因ニ依テ權利義務ヲ定ムヘシ二十四年六月十七日大審院判決同年第七九四號 約束手形金請求ノ件

買賣代價ノ一部ニ換ヘ振出シタル約束手形

○現金ヲ以テ授受スヘキ買賣代價ノ一部ニ對シ授受シタル約束手形ノ支拂期日カ物品授受ノ期日以前ニ係リ受取人之ヲ他ハ流通セサル場合ニ在テハ法理上一概ニ現金ヲ授受セシト同視スルヲ得サルモノトス二十五年十月八日大審院判決同年第六十九號 電燈機械代金取戻ノ件

手形條例ノ規定

○手形條例第三十九條ハ本來爲替手形ノ場合ヲ規定シタルモノナリト雖モ其第四十五條ノ明文ニ據ルルハ約束手形ニモ之ヲ適用セサル可カラス爲替金ノ如キハ約束手形ノ性質ニ於テ適用ナキモノトスルモ約束手形ニシテ既ニ其第二十七條ニ從ヒ期限ニ請求シテ手形ノ効用ヲ保チタル場合ニ在テハ其第三十九條ニ依リ手形振出ノ日ヨリ起算シテ三ヶ年間要求ノ權アリトノ規定ヲ遵守スヘキモノトス二十七年九月二十五日大審院判決二十六年第五百二號 約束手形金請求ノ件

手形ノ重要ナラザル附記

○約束手形ノ但書ニ本件金額ハ某銀行拙者當坐勘定ヨリ支拂可申候也ト記載セル文言ハ手形所持人ニ一ノ便利ヲ與ヘタルニ過キサレハ商法ニ所謂重要

ナラサル附記ト見做スヘキモノトス二十八年二月十八日大審院判決二十八年第二百九號 約束手形請求ノ件

【參照】 舊商法 第七百七條 手形上ノ重要ナラサル附記ハ法律上ノ要件ニ適スル手形ノ文言ノ効力ヲ妨クルコト無ク又爲替上ノ義務ヲ生セシムルコトナシ

手形成立後別期日ヲ定メタルトキ

○約束手形成立ノ後別ニ契約ヲ以テ滿期日ヲ定メタルトキハ手形面ノ滿期日ハ外觀ノ爲メニノミ記入シタルモノトナリ其約束手形ハ商法第七百二條ノ規定ニ依リ其情ヲ知リタル者ニ對シテ手形ト看做スヘキモノニアラス三十年九月七日大審院判決同年第三百四十四號 約束手形請求ノ件

【參照】 舊商法 第七百二條 手形ノ要件ヲ外觀ノ爲メニノミ記入シタル手形ハ其情ヲ知リタル者ノ爲メニハ之ヲ手形ト看做サス

○約束手形ノ所持人カ其滿期日ニ當リ振出人ニ對シ支拂ノ猶豫即チ恩惠期日ヲ承諾スルハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノニ非サルニ依リ其支拂猶豫ノ契約ハ當事者間ニ有効ナリ三十一年四月二十八日大審院判決三十年第二百四十三號 約束手形請求ノ件

○約束手形ノ所持人ハ其振出人ニ對シテハ時効ノ經過セサル間ハ何時ニテモ其支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘシ三十一年十一月二十九日大審院判決同年第三百三十號 手形金償還請求ノ件

振出人ノ義務

振出人ニ與ヘタル恩惠期日ノ承諾

約束手形証券ノ無効

民二百四十二

裏書讓渡ノ方式違背

○約束手形ノ裏書カ無効タルトキハ其讓渡ノ効ナキニ止マリ其手形ハ依然効力ヲ保有シ未タ裏書ヲ爲サ、ル原狀ニ復スヘキモノトス
二十九年四月四日大審院判決二十九年第二十三號
東手形金請求等ノ件

裏書讓渡人ノ住所ノ記載ナキトキ

○約束手形ハ其裏書讓渡ノ方式ニ違背シタル爲メ手形タルノ効力ヲ失ハス(右同斷)

約束手形ニ付キ督促手續ニ依リテ支拂命令ヲ發シタル場合

○手形ニ裏書讓渡人ノ住所記載ナキトキハ其裏書讓渡人ト裏書讓受人トノ間ニ讓渡ノ効ナキニ止リ其瑕疵ハ手形ノ効力ニ影響ヲ及ホスモノニアラス
九年十二月三日大審院判決同年第二百廿六號
約束手形金請求ノ件

約束手形支拂滿期日ニ於テ拒絶書ノ作成及ヒ償還請求ノ通知ヲ發シタル以上ハ再度該手形ノ所持人ニ於テ振出人ニ對シ一時支拂ノ猶豫ヲ與フルモ之

○約束手形ニ付キ督促手續ニ依リテ支拂命令ヲ發シタル場合ニ於テハ其命令ノ送達ヲ遂ケタル時ニ於テ支拂ノ請求アリタルモノト認メ而シテ右命令記載ノ期間經過後仍ホ支拂ヲ爲サ、ル時ニ於テ支拂ノ停止アリタルモノト認ムヘキモノナリ
三十一年八月二十三日大審院判決同年第二十九號
破産宣告ニ對スル抗告ノ件

無記名手形ニシテ所持人ノ姓名ノ記載ナキトキ

○約束手形支拂滿期日ニ於テ拒絶書ノ作成及ヒ償還請求ノ通知ヲ發シタル以上ハ再度該手形ノ所持人ニ於テ振出人ニ對シ一時支拂ノ猶豫ヲ與フルモ之ヲ以テ手形上ノ權利義務ノ關係ヲシテ民事上ノ權利義務ノ關係ニ變更シタルモノト謂フヲ得ス
三十二年十二月七日判決同年第一三二號
約束手形請求爲替訴訟ノ件

被後見人ニ代リテ振出シタル手形ノ形式

○無記名式ノ約束手形ニシテ所持人ニ支拂フヘキ旨ノ記載ナキハ適式ノ手形ニ非ス
三十三年(オ)第五百十二號三十四年一月二十四日第一民事部判決

振出人ノ肩書ニテ振出地ト解スベシ

○後見人被後見人ニ代リテ約束手形ヲ振出ス場合ニハ民法ノ規定ニ由リ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
三十四年(オ)第二百三十八號同年六月八日第一民事部判決
約束手形請求ノ件

振出地ノ意義

○約束手形振出人ノ肩書ノ地ハ之ヲ手形ノ要件ナラサル住所地ナリト解釋セシヨリハ寧ロ其要件タル振出地ナリト解釋シテ手形ヲ有効ナラシムハ當然ナリ
三十四年(オ)第四百六十號同年十月二十四日第一民事部判決
約束手形金請求ノ件

手形記載要件ノ欠缺ハ振出人ノ總員ニ及フ

○數人同一ノ約束手形ヲ振出スニ其振出シタル手形ハ一行爲ニ過キスシテ各振出人ニ於テ各別箇ノ手形ヲ作成シタルモノト謂フヲ得ス唯タ其手形ニ依リ各自獨立ノ債務ヲ負擔スルノミ故ニ其手形ノ記載要件ニ欠缺アル場合ニ於テハ總振出人ニ對シ欠缺アルモノトス
三十四年十一月廿八日大審院判決同年(オ)第三百八十三號
手形金請求ノ件

特ニ振出地ナ
ル文字ヲ記載
スルヲ要セス

民 二百四十四

○手形ノ振出地ハ特ニ其旨ヲ手形ニ明記スルヲ要ストノ規定存セサレハ振
出地タルコトヲ得ヘキ地域ヲ記載シアリ特ニ振出地ナル旨ノ明記ナキハ
之ヲ振出地ナキ手形ト断定スヘキモノニアラス却テ振出地ノ記載アルモノ
ト判定スルヲ至當トス何トナレハ其地域ノ表示ハ手形ニ不必要ノ事項ヲ記
載シタルニ過キササルモノト解釋シ手形ヲ無効ナラシメンヨリハ寧ロ其成立
ニ必要ナル振出地ヲ掲ケタルモノト解釋シ其證書ヲ有効ナラシムルヲ穩當
トス三十四年十一月三十日第一民
事判決同年九月十四日第九十號
約束手形金請求ノ件

第四章 小切手

○本章特ニ見ルヘキ判例ナシ

第五編 海商

第一章 船舶及船舶所有者

沈没ノ場合ニ
於ケル船舶所
有者ノ責任

○船舶沈没ノ場合ニ於テ船舶所有者ノ責任ハ船舶ノミナラス其保險金ニ及ス

船舶所有者ノ
責任

ヘキコトハ舊商法施行前ニ於テモ是認シタル法理ナリ三十二年(即ち第四百七號三十
四年五月七日連合民事部判決)
○船舶所有者ハ他ニ法律ノ規定ナキ限りハ船長ノ行爲ニ付キテハ代理法ニ基
キ其責任ヲ負擔セサル可カラス二十六年四月二十八日大審院
判決二十五年第三百六十六號損害要償ノ件
自己ノ過夫ニ對スル責任ハ契約ヲ以テ免ル、コト能ハサルモノトス故ニ船
舶所有主カ船長即チ代理人ニ過失アルコトヲ認メナカラ他ノ契約ニ依リテ
其責任ヲ免ル、コトヲ得(右同斷)

第二章 船員

第一節 船長

第二節 海員

船長ノ權限

○船長ハ船主ノ委任ヲ受ケスシテ船主代理ノ名義ヲ用ヒ第三者ヲシテ船中ノ
需用品ヲ供給セシムルノ契約ヲ爲シタルハ本件ノ場合ニ於テハ越權ニ屬ス
二十八年二月二十六日大審院判
決同二十七年第三百四十五號運送貸前貸金等取戻ノ件

船長ノ試験規
則ノ援用

○船長ノ試験規則ハ船長ノ行爲ニ付船主ノ責任有無ヲ論スル場合ニ援引スル
コトヲ得ス

○明治八年第六十六號布告第二十六條ハ船長又ハ擔任者ニ其怠慢ヨリ生スル責任ヲ負ハシメタルモノニシテ船主ノ責任ヲ免脱シタルニアラス(右同斷)

【參照】明治八年第六十六號布告第二十六條 船長及ヒ擔任者ノ怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル時ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セシム可シ若シ其災厄人智ノ前知ス可カラズ人力ノ豫防ス可カラサルニ出ルコトヲ瞭然明證スル時ハ此限ニアラス

○船舶沈没ノ爲メ生シタル損害ニ對シ船主ニ於テ其船舶限リ賠償ノ責任ヲ負フヘキコトハ顯著ナル慣例ナリ(右同斷)

第三章 運送

第一節 物品運送

第一款 總則

第二款 船荷證券

荷主ニ對スル賠償責任

○積荷ノ喪失ニ付荷主ニ對スル賠償責任如何ノ問題ニ於テ明治廿五年法律第五號ヲ適用セントノ論據ハ其當ヲ得サルモノトス 二十八年二月十九日大審院判決 二十六年第五百四十一號 損害要

債ノ件

船荷證券ノ性質

○船荷證券ハ裏書ニ依リ自由ニ輾轉シ得ヘキ流通ノ性質ヲ有スルモノナレハ證券所持人ハ何時ニテモ其貨物ノ引渡ヲ求ムル權利ヲ有ス 三十年三月二十四日大審院判決 二十九年第五百二號 損害要債ノ件

船主カ船荷證券ト引換ニ渡スヘキコトヲ約シタル貨物ヲ其約ニ背キ他ニ交付シタルトキハ荷主ハ船荷證券ノ所持人ニ對シ未タ貨物ノ引渡ヲ爲サハル地位ニアルヲ以テ之レカ責任ヲ免カル、ヲ得ス從テ其貨物ノ換價格ハ荷主ノ損害トナリタルモノト看做スヘキモノトス(右同斷)

商法第六百十三條第二項ノ解釋

○船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ積荷カ其船舶ト共ニ不可抗力ニ因テ沈没シタルトキニ於テ商法第六百十三條第二項ニ所謂運送品ノ價格ヲ超ヘサル限度トハ滅失シタル積荷ノ價格ヲ控除シタルモノナラサルヘカラス 三十四年(オ)第八十五號同年七月九日第一民事部判決 運送賃請求ノ件

船荷證券ト作
成授受ノ時期

○船荷證券ハ積積前ニ於テ作成授受スルモ違法ニ非ス然レモ其作成授受ノ積後ニ於テシ其効力モ亦積積後ニ發生スルヲ以テ通例トス 三十三年(オ)第二百九十一號同年十二月十三日第一民事部判決 荷物損害賠償請求ノ件

船長カ船荷證
券ヲ發行シタ
ルトキ

○運送契約ニツキテハ船長ハ船舶所有者ノ代理人ニシテ船荷證券ヲ發行スル
コトモ亦其代理權限内ニ在ルモノトス 三十四年(才)第百六十六號同
年五月三十日第一民事部判決

民二百四十八

第四章 海損

海損ノ慣例ヲ
判定シタル原
判決

○原裁判カ海損ノ慣例ヲ認メテ船主ノ責任無限ナラサルコトヲ判定シタルハ
本院カ曩キニ與ヘタル判決責任ノ有限ナルコトハ條理上當然然ルモノニア
ラスラ蹂躪シタリト云フヲ得ス

第五章 保險

海上保險ノ性
質及ヒ其填補
ヲ要セサル損
害

○海上保險者ハ特約ヲ取結フニ非ザレハ航海ニ關スル不測ノ事故ニ因リテ生
スル一切ノ損害ヲ填補スルノ責任ヲ負擔スヘキモノトス 三十一年十二月八日大審
院判決同年第三百三十四號 保
險金請求ノ件
被保險物ノ性質瑕疵若クハ荷造ノ不完全ヨリ生シタル損害ノ如キハ航海ニ
關スル不測ノ事故ヨリ生シタル損害ニアラサルヲ以テ海上保險者ノ負擔ニ
屬スヘキモノニアラス(右同斷)

船舶ノ保險金

○船舶ヲ保險ニ附シタル場合ニ於テ其保險金ハ乘客若クハ荷主ニ對スル損害
ノ賠償ニ充テシムヘキモノトス 三十二年六月三十日
三十二年第四三四號 損害賠償請求ノ件

第六章 船舶債權者

○本章ハ判例ノ見ルヘキナシ

商 法 大 尾

第五編 海商 海損 保險 船舶債權者

民二百四十九

破産法

第三編 破産 (明治二十三年四月法律第三十二號)

第一章 破産宣告

破産事件ノ抗
告

○商法第九百七十八條第一項但書ハ破産ノ宣告アリタル場合ニ限り抗告ヲ許シタルモノニテ破産ノ宣告ヲ爲サ、ル場合ニマテ之ヲ許シタルニアラスニ

八年六月二十一日大審
院判決同年抗第十七號破産申請ノ決定再抗告ノ件

舊商法第九百
七十五條一項
ノ適用

○商法第九百七十五條第一項ハ破産者トシテ宣告セラレタル債務者カ其決定ニ對シ抗告ニ得ル規定ニシテ債權者カ申請ヲ却下セラレタル場合ニ適用ス

二十年十月二十五日大審
院判決同年抗第二十七號破産宣告ノ申請却下ニ對スル抗告ノ件

【參照】 舊商法 第九百七十八條 商ヲ爲スニ當リ支拂ヲ停止スル者ハ自己若クハ債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ裁判所ノ決定ヲ以テ破産者トシテ宣告セラ

ル、但此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○民事訴訟法第四百五十五條ノ規定ハ商法破産ニ關スル訴訟手續ニ準用ス

【参照】 民事訴訟法 第四百五十五條 抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル裁判ニ對シ其他此法律ニ於テ特ニ掲ケタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

破産宣告ノ申請要件

○支拂停止ノ事實アル以上ハ其支拂ヲ停止セラレタル債權者ハ他ノ債權者ト共同シテ破産宣告ノ申請ヲ爲スヲ得ルモノトス 三十二年八月二十三日大審院判決同年抗第二十九號 破産宣告ニ對スル抗告ノ件

破産事件ノ抗告

○破産宣告ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ許サス 三十年六月十四日判決同年抗告第四六號 破産宣告ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對スル抗告ノ件

支拂停止届出ノ義務

○支拂停止ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ者ハ支拂ヲ停止シタル商人ニ限ルモノトス 三十二年十月二十三日判決同年第七二七號 過怠破産ノ件

破産事件ノ抗告

○破産宣告ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ許スノ規定ナシ 三十二年十月三日判決同年第八六號 破産事件抗告ノ件

支拂停止ノ性質及其效果

○支拂停止ハ破産決定ニ依リ確定シタル事實ナリ○商人ニシテ支拂ヲ停止シタルトキハ破産ノ宣告ヲ受クヘキモノトス而シテ其商行爲ナルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス 三十二年十月二十日判決同年第九六號 過怠破産ノ件

支拂停止

○手形ハ單ニ満期日ニ支拂ヲ拒絕シタルノミヲ以テ支拂停止ト看做スヘキモノニ非ス○破産決定ノ申請ニ對シ債務者ハ債權者ニ對シテ有スル債權ト相殺センコトヲ求メタルカ爲メ支拂ヲ爲サ、リシモノニシテ支拂停止シタルモノニアラストノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得 三十二年十二月二十七日判決同年抗告第七三號 破産決定ニ對スル抗告ノ件

商法第九百七十八條第二項ノ意義

○商法第九百七十八條第二項ニ所謂此裁判中ニハ破産宣告ノ申立ヲ却下シタル裁判ナルト破産ヲ宣告シタル裁判ナルトヲ問ハス總テ之ニ包含スルモノトス 三十三年三月二十三日判決三十三年七月二十五號 破産宣告ノ申立却下ニ對スル抗告ノ件

第九百七十八條第二項末段ノ法意

○商法第九百七十八條第二項末段ノ規定ハ破産ノ宣告ナルト申立ノ却下ナルトヲ問ハス汎ク破産宣告ノ申立ニ關スル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ許スノ法意ナリ 三十三年四月十三日判決同年八月九號 破産申立抗告ノ件

【參照】

商法 第九百七十八條 商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

破産宣告ノ取

支拂停止ノ意

破産宣告ノ効

申請却下ニ對

同斷

○破産宣告ノアリタル後ニ至リ破産宣告申立ノ取下ヲ爲シタリトテ其既ニ爲シタル破産宣告ヲ取消スヘキモノニ非ス三十二年四月十六日決定破産宣告ノ件

○支拂停止トハ支拂ヲ停ムルノ意義ニシテ單ニ期日ニ支拂ヲ爲サ、リシ事實ノミニテハ未タ以テ支拂ヲ停止シタリト爲スヲ得ス卅三年(ケ)第二百四號同年十二月七日第二民事部判決破産宣告決定ニ對スル抗告ノ件

○破産ノ宣告ハ其宣告後ニ在リテ最初破産ノ申立ヲ爲シタル債權者カ其申立ノ取下ヲ爲シタリトモ他ノ債權者ニ對シテ影響ヲ生スルモノニアラス三十四年(ク)第二百一十號同年十二月二十三日第二民事部判決

○商法ニハ破産ノ決定ニ付テハ抗告ヲ爲スヲ得ヘキ規定アルモ其辯論中止ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ付テハ商法及ヒ商法施行條例中抗告ヲ許ス規定アルコトナシ三十四年(ク)第二百一十號同年十二月二十三日第二民事部判決破産宣告中止申請却下ニ對スル抗告ノ件

○破産裁判所ニ於テ破産事件ノ口頭辯論中ニ言渡シタル證據決定ニ對シテハ抗告スルヲ得ス三十四年(ク)第二百一十號同年十二月二十三日第二民事部判決破産事件證據調ノ決定ニ對スル抗告ノ件

第二章 破産ノ効力

舊商法第九十條ニ所謂從來負擔シタル債務トアル中ニハ民法第五百八十八條ノ如キ法律ノ擬制ヲ以テ消費貸借ト看做スヘキモノト雖トモ事實從來負擔セル債務ナル以上ハ總テ之ヲ包含スルモノトス三十三年(オ)第四百二十二號同年三月二十七日民事部判決

舊商法第九十條ノ適用

破産裁判所ノ審理

○舊法第九百九十條ノ規定ハ破産ノ場合ニ於ケル特別ノ制裁ニシテ支拂停止後又ハ支拂停止前三十日以内ニ爲シタル行爲ハ受益者カ他ノ債權者ヲ害スル事實ヲ知ルト否トヲ論セス法律上總テ之ヲ知レルモノト看做シ當然無効タルヘキモノト爲シタルナリ(右同斷)

○破産宣告ニ關スル事件ハ其性質非訴訟事件ナルカ故ニ破産裁判所ハ債務者カ支拂ヲ停止シタルヤ否ヤヲ審理スルニ止マリ其申請ノ基本タル債權ノ存否ヲ判斷スヘキモノニ非ス三十四年(ク)第二百八號同年四月十五日第二民事部判決

第三章 別除權

○本章ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第三編 破産 破産ノ効力 別除權

第四章 保全處分

○本章モ亦見ルヘキ判例ナシ

第五章 財團ノ管理及ヒ換價

舊商法第九十九條第二項ノ規定

○商法第九十九條第二項ニ「管財人ハ左ニ掲クル行為ニ付テハ破産主任官ノ認可ヲ受クヘシ第一訴訟ヲ爲スコト」ト記載アルノミニ付キ管財人カ最初訴ヲ提起スルニ當リ破産主任官ノ認可ヲ受クルヲ以テ足り上訴ヲ爲シ又ハ其對手方ト爲ル場合ニハ再ヒ其認可ヲ求ムルノ必要ナキモノトス三十三年(オ)第四百十八號同年十月廿九日第一民事部判決不法取立取戻並ニ損害要償ノ件

第六章 債權者

第一節 債權ノ届出及ヒ確定

第二節 特種ノ債權者

第三節 債權者集會

破産債權者ノ權利

○破産者ノ債權者カ債權ノ申出ヲ爲シタルニ對シ破産管財人ヨリ異議ヲ申立テタル場合ニ其申立ニハ訴訟印紙ノ貼用ヲ要セス三十二年十一月二十四日同年第一七三號債權異議ノ件

破産管財人ノ申立タル異議ニ關スル處置

○債權調査會ニ於テ破産管財人ヨリ申立タル異議ニ關シ破産裁判所カ其當否ヲ裁判スル如キハ商事非訴訟事件ニ屬ス○破産手續ニ付テハ債權ニ對スル異議ニ原因シテ其爭ノ判斷ヲ受ル場合ニ印紙ヲ貼用セシム可キ規定ナシ

第七章 協諧契約

第八章 配當

○此章ニ屬スル判例ノ見ルヘキモノナシ

第九章 有罪破産

詐欺行為アリト認めラレタルトキハ其公訴提起ノ時節

○破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニシテ詐欺ノ行為ナリト認めラレタルトキハ其宣告確定前ト雖モ公訴提起ノ權アルモノトス二十九年四月三十日大審院判決同年九三五號詐欺取財ノ件

第三編 破産 保全處分 財團ノ管理及ヒ換價 債權者 債權ノ届出及ヒ確定 特種ノ債權者 債權者集會 協諧契約 配當 有罪破産 民 二百五十七

騙取ノ目的ヲ達スル爲メ訴訟ヲ裁判所ニ提起シタル行爲ハ詐欺取財ノ實行ニ着手シタルモノトス

○騙取ノ目的ヲ達スル爲メ訴訟ヲ裁判所ニ提起シタル行爲ハ詐欺取財ノ實行ニ着手シタルモノトス 二十九年十二月一日大審院判決同年二四號私書偽造行使ノ件

○商法千五十一條五號ニ所謂義務ヲ履行セサルトキノ文字ニハ怠慢ニ依リ義務ヲ履行セサルモノヲモ包含ス 二十九年十二月十日大審院判決同年二七三號過怠破産ノ件

【參照】 商法 第五十一條第五號 破産者カ第三十二條第九百七十九條又ハ第三十三條第二項ニ規定シタル義務ヲ履行セサルトキ

有罪破産罪

○商法三十一條及三十二條ハ獨リ商事會社ニ對シ實施シタルモノナレハ前二條ニ該當スル帳簿ナルト否トヲ問ハズ債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ商業上必要ナル帳簿ヲ毀滅藏匿シタル者ハ當然有罪破産罪ヲ構成ス 二十九年六月九日大審院判決同年六四九號詐欺破産ノ件

【參照】 商法 第三十一條 各商人ハ其營業部類ノ慣例ニ從ヒ完全ナル商業帳簿ヲ備フル責アリ殊ニ帳簿ニ日々其取扱ヒタル取引他人トノ間ニ成立チタル自己ノ權利義務受取り又ハ引渡シタル商品支拂ノ又ハ受取りタル金額ヲ整齊且明瞭ニ記入シ又月々其家事業費用及ヒ商業費用ノ總額ヲ記入ス
小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トヲ問ハズ逐一之ヲ記入スルコトヲ要セス日々ノ算上總額ノミヲ記入ス

商法 第三十二條 各商人ハ開業ノ時及爾後毎年年初ノ三ヶ月内ニ又合資會社及ヒ株式會社ハ開業ノ時及ヒ每事業年度ノ終ニ於テ動産不動産ノ總目録及ヒ貸方借方ノ對照表ヲ作り特ニ設ケタル帳簿ニ記入シテ署名スル責アリ
財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ルニハ總テノ商品債權及ヒ其他總テノ財産ニ當時ノ相場又ハ市場假直ヲ附ス辨償ヲ得ルコトノ確ナラサル債權ニ付テハ其推知シ得ヘキ損失額ヲ控除シテ之ヲ記載シ又到底損失ニ歸ス可キ債權ハ全ク之ヲ記載セス

合名會社擔當社員退社ノ責任

○合名會社ノ業務擔當社員トナリ會社ハ既ニ其當時ニ於テ支拂停止ノ情況ニ陥リ履行スルコト能ハサル事情ヲ熟知シナカラ第三者ヲ誘惑シタル所爲アルトキハ其社員退社後ニ至リ破産ノ宣告ヲ受ケタルモ仍ホ詐欺破産ノ刑責ヲ負フモノトス 三十年二月二十五日大審院判決二十九年二八八號 詐欺破産ノ件

○約束手形ノ原由ハ貸借賣買等荷モ債務ヲ認メ之ヲ作成シタル上ハ純然タル約束手形ニシテ必スシモ賣買代金ニ限ラス然ルニ借用證書ニ代ヘ約束手形ヲ振出シ破産ノ宣告ヲ受ケタルヲ認メナカラ商法千五十一條第五並ニ明治二十三年法律第一號第二ヲ適用セス同法七百二條ニヨリ罪トナラストシタルハ失當ナリ 三十一年三月二十九日大審院判決同年三〇八號 過怠破産ノ件

破産宣告ヲ受ケタルコトヲ合認定シタル場

【參照】商法 第一千五十一條第五 破産者カ第三十二條第九百七十九條又ハ千三條 第二項ニ規定シタル義務ヲ履行セサルトキ

○會社ノ業務擔當社員ヲ詐欺破産ノ刑ニ處スルニ當リ商法千五十二條ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ 三十年五月十八日大審院判決同年四〇〇號 詐欺破産ノ件

○詐欺破産罪ヲ處斷スルニ該リ商法第五十條ヲ適用セサル判決ハ法律上ノ理由ヲ缺キタル不法アリ 三十三年一月十八日判決 三十二年第一二九六號 詐欺破産等ノ件

【參照】破産宣告ヲ受ケタル債務者ハ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス履行スル意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔シタルトキ又ハ債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ貸方財産ノ全部若クハ一部ヲ藏匿シ隠シ若クハ脱漏シ又ハ借方現額ヲ過度ニ掲ケ又ハ商業帳簿ヲ毀滅シ藏匿シ若クハ偽造變造シタルトキハ詐欺破産ノ刑ニ處ス(舊商法第五十條)

- 過怠破産ノ決定ニ依リ犯罪ノ當時商人タリシコト確定シタル以上ハ該決定ニ基キ商人ナリトシテ判決スルハ不法ニ非ス 三十三年八月三十一日判決 三十三年八月九號 過怠破産ノ件
- 過怠破産ノ決定ニ依リ犯罪ノ當時商人タリシコト確定シタル以上ハ該決定ニ基キ商人ナリトシテ判決スルハ不法ニ非ラス 三十三年八月九號 同年八月三十一日宣告 過怠破産ノ件
- 破産ノ宣告ヲ受ケタル債務者ニシテ支拂ヲ停止シタルヨリ五日內ニ其届出

犯罪ノ當時商人タルコトヲ認定シタル場合
支拂停止後五日內ニ届出ヲ爲サルトキ

過怠破産ノ決定

詐欺破産罪

ヲ爲サ、リシ事實アル以上ハ其有意ナリシト無意ナリシトヲ問ハズ懈怠ニ出タル場合ニ於テハ過怠破産ナリトス 三十四年第七五九號 同年五月三十一日宣告

第十章 破産ヨリ生スル身上ノ結果

第十一章 支拂猶豫

○本章ニ屬スヘキ判例ノ見ルヘキモノナシ

破産編 大尾

第三編 破産 破産ヨリ生スル身上結果 支拂猶豫

商法施行法

○商法施行條例第廿四條所定ノ即時抗告期間ノ起算點ハ口頭辯論ヲ經サル決定ニ付テハ裁判所ノ送達ヲ受ケタル翌日ヨリ又口頭辯論ヲ經タル決定ニ付テハ言渡ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス

【參照】 商法施行條例 第二十四條 商法及ヒ本條例ニ依リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ其期間ハ裁判所ノ送達ヲ受ケタル日ノ翌日又ハ裁判ノ言渡ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シテ七日トス

過料官渡シニ
對スル抗告

○商法施行法第五十三條ニ規定セル登記ヲ懈怠シタル爲メ過料ニ處セラレタル事件ニ對スル抗告ノ手續ハ民事訴訟法第四百五十三條ヲ準用スヘキモノトス
二十二年十二月二十五日
判決同年抗告第九七號 登記懈怠ノ件

【參照】 商法施行法 第五十三條 商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サザリシトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス蓋シテ商法ノ規定ニ依リ登記スベキ事項カ商法施行前ニ生シタル場合ニ於テハ舊商法ニ登記期間ノ定メナキトキニ限リ前項ノ規定ヲ準用ス○民事訴訟法 第四百五

商法施行法

民事訴訟法八部

十六條 抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲ス抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗管理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

商法施行法第三十八條第一項ノ規定

○商法施行法第三十八條第一項ノ規定ハ他ノ規定中ニ特別ノ明文ナキ限りハ商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ總テ舊商法ノ規定ヲ適用スヘキ法意ナリ三十四年(レ)第百一號同 法人登記失期ノ件
年八月六日休暇部決定

商法施行法 大尾

十六條 抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲ス抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

商法施行法第三十八條第一項ノ規定

○商法施行法第三十八條第一項ノ規定ハ他ノ規定中ニ特別ノ明文ナキ限りハ商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ總テ舊商法ノ規定ヲ適用スヘキ法意ナリ

三十四年(ク)第百一號同
年八月六日休暇部決定

法人登記失期ノ件

商法施行法 大尾

民事訴訟法之部

民事訴訟法

第一編 總則

第一章 裁判所

第一節 裁判所ノ事物ノ管轄

其訴旨ニシテ
所有權ニ基
スルニ外
ノ他ニ係
ルハ係争
ノ價額ヲ
見テ
得ヘカ
ラサル
モノニ
非ス

○地券名義書換ノ訴名ナレトモ其訴旨タル地所ノ所有權ニ基因スルニ外ナラ
サレハ其係争物タル價額ヲ見積リ得ヘカラサルモノニアラス依テ其價額
ヲ以テ裁判管轄ヲ定ムルハ當然ナリトス二十三年第五十號同年
十二月二十六日判決地券名義書換ノ件

○事物ノ管轄ニ就テハ民事訴訟法第七條ニ於テ地方裁判所ノ管轄ナリトノ判
決ニ對シテハ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ理由ヲ以テ不服ヲ申立ソルコトヲ
許サス控訴院ノ同一ナル判決ニ對シテモ亦然リ二十五年第五百三十九號
二十六年五月四日判決地籍確認ノ
件

○官吏ノ俸給ハ官職ニ附隨スルモノナルカ故ニ其未タ官吏ノ手ニ歸セス國庫

公法上ノ權利
裁判所ニ對
スル

行政裁判所ノ
權限ニ關スル
私權請求

財産權上ノ訴
訟ニ付テ其給
付ノ單純ナル
ト複雑ナル
ニ係ラスハ格
ナニシテ印紙
ナ貼用スヘシ
區域裁判所ノ事
物管轄ナリト
立ツルヲ得ス

水利土切ニ關
スル工事排除
ノ請求ハ管轄
裁判所ノ管轄
ニアラス

ニ對スル權利トシテ存在スル間ハ公法上ノ債權ニシテ私法上ノ債權ニ非ス
從テ其債權ノ存否ヲ判定スルモ亦公法ノ解釋適用ニ外ナラサルヲ以テ特別
ノ規定アルニアラサレハ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非ス 三十三年六月
十四日判決三
十三年(乙)
一六〇號 俸給金請求ノ件

○行政裁判所ハ土地官民有區分ニ關スル行政廳ノ處分ノ當否ヲ判斷スルニ止
リ民事上其所有權ノ所屬ヲ絶對ニ確定スルモノトス 三十二年十二月十一
日判決同年第一號 收益金制
限確認ノ件

○財産權上ノ訴訟ニ付テハ其給付ノ履行方ノ單純ナルト複雑ナルトヲ問ハス
總ヘテ訴訟物ノ價格ニ應シテ民事訴訟用印紙ヲ貼用スレハ足ルモノトス 三
十二年(甲)第二四號
三十二年(乙)第二四號 地所賣買取消賣渡約定履行請求ノ件

○第一審ニ於テ本案ノ裁判ヲ受ケタル以上ハ其事件カ區域裁判所ノ事物ノ管轄
ニ屬スヘキモノナリトノ理由ヲ以テ更ニ上訴スルコトヲ許サス 三十三年六月十六
日判決三十三年
七三號 貸金並賣買代金請求ノ件

○町村長カ其町村又ハ町村内ノ區ノ土地保護ニ關スル事業トシテ水利土功ニ
ツキ施設シタル工事ハ行政事務ノ執行ト推定スヘキモノトス從テ其工事排

第十八條ニ所
謂契約解除ノ
訴ノ定義

在監中ニ對ス
ル訴訟提起

伐採木材ノ運
搬ヲ差留メ及
ヒ其受クヘキ
損害ヲ防止セ
シトスル訴訟

借地願書ノ調
印ヲ請求スル
訴訟

○除ノ請求ハ行政訴訟ニ依ルヘキモノニシテ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモ
ノニ非ス 三十三年(甲)第三百二十五號
三十二年(乙)第二四號 水利妨害排除請求ノ件

○民事訴訟法第十八條ニ所謂契約解除ノ訴トハ單ニ契約ノ解除ヲ求ムル訴ノ
ミヲ謂フニ非スシテ契約ヲ解除シタル結果原狀ニ回復スルコトヲ求ムル訴
ヲモ包含スルモノトス 三十四年(甲)第七十三號
三十二年(乙)第一號 元資積立講掛金取戻請求ノ件

〔參照〕 契約ノ成立若シクハ不成立ノ確定又ハ其履行若クハ銷除、廢罷、解除又ハ其不
履行若クハ不十分ノ履行ニ關スル賠償ノ訴ハ其訴訟ニ係ル義務ヲ履行ス可キ地
ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得(民事訴訟法第十八條)

第二節 裁判所ノ土地ノ管轄

○在監中ノ者ニ對スル訴ハ其現在地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得 二十三年第八十一
號十二月十七日判
決 海產物鮑採業契約履行事ノ件

○伐採木材ノ運搬ヲ差留メ其運搬ニヨリ更ニ受クヘキ損害ヲ防止セントスル
訴ハ不動産上ノ裁判籍ニ提起スヘキモノトス 二十八年第二百四十一號
同年十一月十八日判決 山林樹木伐採
等差留メ請求ノ件

○官有地借地加名願書ニ調印ヲ請求スルハ行爲ノ履行ヲ求ムル人權ノ訴ニシ

○民事訴訟法第二十二條ニ所謂不動産上ノ訴ニアラス
同年十一月廿五日判例契約履行請求ノ件

〔參照〕民事訴訟法第二十二條第一項及第二項 不動産ニ付テハ其所在地ノ裁判所
ハ總テ不動産上ノ訴殊ニ本權並ニ占有ノ訴及ヒ分割並ニ經界ノ訴ヲ專ラ管轄ス
地役ニ就テノ訴ハ承役地所在地ノ裁判所專ラ之ヲ管轄ス

物探掘權ノ
性質及未タ
物ノ上ニ權利
ナキモノトセ
ハ之ニ關スル
訴訟提起

○特許ヲ得タル鑛物探掘權ハ單ニ其鑛物ヲ深掘シ得ルニ止マリ未タ探掘セサ
ル鑛物其物ノ上ニ權利ヲ有スルモノニアラス故ニ不動産上ノ物權ニアラス
從テ之レニ關スル訴訟カ被告人ノ普通裁判籍アル地ノ裁判所ニ於テ管轄ス
ヘキモノトス
二十九年第三百三十九號
同年十二月十八日判決
辨濟提供特許證書換及試掘廢棄届取下請求ノ
件

民訴十六條ノ
注意

○民事訴訟法第十六條ハ特別ノ裁判籍ヲ規定シタルニ止マリ猶豫期間ニ關ス
ル規定ニハ關係ナシ
三十三年、第五百九十八號三十
四年十月十九日第一民事部判決
土地使用料請求ノ件

第三節 管轄裁判所ノ指定

第四節 裁判所ノ管轄ニ付テノ合意

○本節ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第五節 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避

民事訴訟法ノ
所謂偏頗ノ意

○裁判官ノ命令指揮ニ過失アリトシ之ニ對シテ異議ヲ申立テ其判事自ラ之ヲ
判斷スルトキハ勢ヒ其行爲ヲ過失トハ認メサルヘク其結果ハ民事訴訟法ノ
所謂偏頗ノ裁判ニ歸着スルノ恐レアルカ故ニ之ヲ忌避スルヲ得ト論告スル
ハ甚ハタ其當ヲ得ス抑同法ノ「偏頗ノ忌避ハ判事ノ不公平ナル裁判ヲ爲スコ
トヲ疑フニ足ルヘキ事情アルトキ」トハ判事カ當事者ノ一方ニ親密ナルカ又
ハ怨アルカ其訴訟ノ勝敗ニヨリ利害ノ關係アル場合等ヲ指シタルモノナリ
二十七年抗第三號同
年一月十七日決定
山地入會爭論ノ件

所謂前審ノ意

○民事訴訟法第三十二條第四號ニ所謂判事カ不服ノ申立裁判ヲ前審又ハ云々
トアルハ不服ノ申立アル裁判ニ下級審ニ於テ關與シタルヲ云ヒ上告ニ因リ
破毀セラレタル事件ノ裁判ニ他ノ同級審ニ關與シタル場合ノ如キハ此中ニ
包含セサルモノトス
三十三年五月九日判決三
十二年(九)第一六五號
地所引揚請求ノ件

【參照】民事訴訟法 第三十二條 第四號ノ判事カ不服ノ申立アル裁判ヲ前審又ハ

仲裁ニ於テ爲スニ當リ判事又ハ仲裁人トシテ干與シタルトキ但此場合ニ於テ判
事ハ受命判事又ハ受託判事トシテハ職務ノ執行ヨリ除斥セラレルトコト無シ

第一編 總則 管轄裁判所ノ指定 裁判所ノ管轄ニ付テノ合意
裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避

口頭辯論ニ列席シタル判決ニ非サルニ非サルトハ決ニ及ホス効力

第三十二條ノ所謂一審ノ意

檢事ノ立會スヘキニ其立會ナキ場合

民訴四十二條第八號ノ意

○第一審ノ口頭辯論ニ列席シタル判事ト雖トモ其判決ニ干與シタルニ非サル限リハ第二審ニ於テ其職務ノ執行ヨリ除斥セラレヘキモノニ非ス
三十二年(オ) 第三十三年六月十二日判決
○入夫登録簿無効確認及取消請求ノ件
第三十二年(オ) 第三十四年(オ) 第四三三號同年十一月八日第二民事部判決
○民事訴訟法第三十二條第四號ニ所謂前審トハ下級審ヲ指シタルモノニシテ同一審級カ之ヲ包含セサルモノトス
三十四年(オ) 第四三三號同年十一月八日第二民事部判決 不當工事差止請求ノ件

第六節 檢事立會

○民事訴訟法第四十二條ノ場合ニ於テ檢事ノ立會ナキモ單ニ之レノミヲ以テ上告適法ノ理由ト爲スコトヲ得ス
二十四年(オ) 第二四五號 二十四年(オ) 第二四五號 後見人解任請求ノ件
○同例
十五年三月一日判決 貸金辨濟請求事件
○民事訴訟法第四十二條第八號ニ所謂證書ノ偽造若クハ變造ノ訴訟トハ同法第三百五十一條ニ限リ證書ノ眞否ヲ確定センコトノ申立ヲ爲シ中間判決ヲ爲スヘキ場合ニ適用スヘキモノニシテ單ニ變造ノ抗辯ヲ主張スル場合ニ該當セス

【參照】民事訴訟法 第三百五十一條 公正證書又ハ檢算ヲ經タル私署證書ヲ偽造

離婚訴訟ニ於テ檢事ノ立會

民訴四十三條ハ民法施行法ラレサル間ハ適用スルヲ得サル法條ナリ

丁年ニ達スレハ後見事務ハ當然終了シテ訴訟能力ヲ回復ス

若シクハ變造ナリト主張スルモノハ其證書ノ眞否ヲ確定セシコトノ申立ヲ爲スヘシ
此場合ニ於テハ裁判所ハ其證書ノ眞否ニ付キ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ
○離婚ノ訴訟ニ付キ檢事ノ立會ハ裁判所構成ノ要件ニ非ス
三十三年(オ) 第二五五號同年十一月六日第一民事部判決
離婚請求ノ件

第一章 當事者

第一節 訴訟能力

○民事訴訟法第四十三條ハ民法ノ施行セラレサル間ハ實施スルコトヲ得サル法條ニシテ現今ノ例規ニ於テハ後見人ナキ一般未丁年者ハ自ラ私權ヲ行使スルヲ禁セサルモノトス
二十五年(オ) 第六十四號 同年九月二十日判決 精算殘金請求ノ件
○未丁年者カ丁年ニ達スレハ後見ハ當然止ミ訴訟能力ヲ有スルモノナルヲ以テ假令起訴ノ當時後見人ヲ有シタルモ訴訟進行中丁年ニ達スレハ其後ノ訴訟行為ハ自カラ爲サレハ何等ノ効果ヲ生セシムヘキモノニ非ス
二十七年(オ) 第四百二十號 二十四年(オ) 第二四五號 同年十一月八日第二民事部判決 八年五月十日 約束手形金請求ノ件

第一編 總則 檢事立會 當事者 訴訟能力

訴訟能力有無ノ認定

幼者モ亦訴訟當事者ナリ

村長ノ管理セシムル村落財産ニ對スル訴訟當事者資格

訴訟代理資格ナキ者ノ代表者ト稱シテ眞ノ代表者ニ附從シタル場合

請求原因ノ判決確定後能力欠缺ヲ發見シタル場合

○未丁年者ニシテ後見人ナキモノニ付テハ裁判所ニ於テ調査ヲ爲シ普通智識アルモノト認ムルトキハ訴訟能力者トシテ其訴訟ヲ進行スルコトヲ得二十八年九月三十日判決 不法相續廢棄等ノ件

○幼者ハ訴訟當事者タル能力ヲ有スルヲ以テ之ヲ對手トシテ起訴スルハ不法ニアラス二十八年第五百十二號ニ 地所建物賣買登記引渡請求ノ件

○村長ノ管理セル村落ノ持地ニ對スル訴訟ヲ村長ニ係リ訴クヘク管理權ナキ村民ヲ對手ト爲スヘキモノニアラス二十九年六月十七日判決同年第四十號 物干場使用權侵害排除等ノ件

○訴訟上代表ノ資格ナキ者カ代表者ト稱シテ眞ノ代表者ニ附從シタル如キハ本案ノ曲直ニ關係ナク唯タ訴訟費用等私益ノ關係ニ止マルヲ以テ代理欠缺ノ場合ノ如ク裁判官ニ職權調査ノ義務ヲ負ハシムヘキモノニアラス二十九年十一月十三日判決 地所賣買約定履行再審ノ件

○請求ノ原因ニ就テノ判決確定後更ニ當事者ニ訴訟能力ナキコトヲ發見シタルトキハ裁判所ハ前ノ確定判決ニ羈束セラル、コトナク其訴ヲ却下スルコトヲ得二十九年第四百九十五號 費立替金數請求ノ件

法律上代表者格實ノ調査ヲ裁官ノ職權調査ニ屬ス

同斷

郡長ハ民事上非國ノ代表者ニ

未成年者ノ爲シタル訴訟行爲ヲ後見人カ追認シタル效

訴訟能力ノ調査

訴訟行爲ハ追認ノ効力

○法律上代表者タル資格ノ有無ニ關シ當事者双方ニ異議ナキ場合ト雖トモ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ調査セサルヘカラス二十九年第三百九十八號 共有地差違ノ件

○當事者ノ代表資格ノ欠缺ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ責任ヲ有スルモノトス三十年第二百八十三號 不當處分損害要償ノ件

○ニ國ヲシテ賠償ノ責任ヲ負ハシメントスル訴訟ヲ郡長ニ對シ提起シタルハ不當ナリ三十一年二月十六日判決 不當處分損害要償ノ件

○未丁年者カ第一審以來爲シ來レル訴訟行爲ヲ第二審ニ於テ後見人カ是認シ其訴訟ノ續行ヲ希望スル旨ノ意思ヲ表示シタル場合ハ第一審以來ノ總テノ訴訟行爲ハ有効ナリトス三十年第四百二十一號 地所建物動產賣買廢罷請求ノ件

○未丁年者カ訴訟能力ヲ有スルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニシテ裁判所カ職權上調査スヘキ事項ナリ故ニ其調査ヲ爲サスシテ反證ナキヲ以テ能力ナシト裁判セルハ不法ナリ三十年第四百三十一號 不當相續取消請求ノ件

○法律上代理人タル資格ナキ者ニ於テ提起シタル不合法ノ訴訟ト雖トモ其本人若シクハ正當ナル法律上代理人カ之ヲ追認シ其訴訟ヲ受繼スル以上ハ既

訴訟能力欠缺ノ抗辯ニ對スル本控訴ニ於テハ不法ノ裁判ヲ爲スルシタル場合ナリ

民事訴訟法第四十六條ノ適用

往ノ欠缺ハ之カ爲メ自カラ補正セラル、モノトス三十一年第二十三號三十二年二月二十二日判決 不法讓與取戻請求ノ件

○訴訟能力欠缺ノ妨訴抗辯ニ基キ訴ヲ却下シタル判決ニ對スル控訴ニ付テ第二審裁判所ハ唯其抗辯ノ當否ヲ裁判スヘキモノニシテ本案ノ裁判ヲ爲スハ不法ナリ三十三年四月二十六日判決 同年九月二十六日判決 不當相續取消請求ノ件

○民事訴訟法第四十六條ハ訴訟無能力者ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ特別代理人選任ノ申請ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルモノニシテ訴訟ノ進行中ニ當事者ノ一方カ訴訟無能力者ト爲リタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

【參照】民事訴訟法 第四十六條第一項 訴訟無能力者又ハ相續人ノ未定ノ遺産又ハ不分明ナル相續人ニ對シ訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ法律上代理人アラサルトキハ其事件ノ繫屬スヘキ裁判長ハ申立ニ因リ遲滯ノ爲ニ危害ノ恐アル場合ニ限り特別代理人ヲ任ス可シ

○寺院カ訴訟ヲ爲スニ當リ檀家總代ハ寺院ヲ代表スルノ權ナシ明治十四年內務省乙第三十三號達ハ寺院カ行政官廳ニ對シ願届等ヲ爲ス場合ノ規定ニ過キス三十三年(オ)第二百八十七號地所名義書換請求云々ノ件 同年十月一日第二民事部判決

寺院ハ訴訟上住職ニ依リテ代表セラル

町村長カ町村會ノ決議ニ因リ區ヲ代表シタル區會カ追認シタルトキ

町村長カ被上訴者ナルトキ又ハ町村會ノ決議ヲ要セ

社掌ノ當事者資格及ヒ信託資格ノ代表資

同一町村内ニ於ケル區ト區トノ訴訟ノ代表者

○寺院ハ訴訟上住職ニ依リ代表セラレヘキモノニシテ檀家總代ニハ代表ノ資格ナシ二十九年十一月十三日判決 同年第三百號 地所賣買約定履行再審ノ件

○町村長カ町村會ノ決議ニ因リ區ヲ代表シテ提起シタル訴訟ニ於テ區會カ其行爲ヲ追認シタルトキハ有効ニ資格ノ欠缺ヲ補正シタルモノナリトス三十三年(オ)第二百八十一號同年十一月二十八日第二民事部判決 所有權侵害排除請求ノ件

○町村長カ被上訴者トナリテ訴訟行爲ヲ爲スニハ特別授權ニ付キ町村會又ハ區會ノ決議ヲ要セサルモノトス三十二年(オ)第二百一十一號三十三年(オ)十二月二十八日第二民事部判決 所有權侵害排除請求ノ件

○社掌ハ社司ノ闕ケタル場合ニハ神社ヲ代表シ訴訟ノ對手トナルノ權アリ隨テ其訴訟行爲ハ訴訟審理中ニ任命セラレタル社司ニ對シテ効アリ三十三年(オ)十三年十月十日 第二民事部判決 假處分取消請求ノ件

○神徒總氏ハ神社ヲ代表スルノ權ナシ(右同斷)

○同一町村内ニアル區ト區トノ間ノ訴訟ニ付テハ各區會ノ決議ニ依リ同一町村長ノ兩區ヲ代表スルハ妨ケナキモ町村會ノ決議ニ依リ區ヲ代表スヘキモノニ非ス三十二年(オ)第四百三十三號三十三年(オ)十一月十九日第二民事部判決 秣場山入會權確認請求ノ件

訴訟能力有無ノ判斷

法定代理人タル資格ヲ以テ受ケタル上告ニ對スル上告

無審議ニ於ケル講元又ハ世話方ナルモノノ訴訟能力

正當ニ授權ナキ者ノ訴訟行為

○未丁年者カ訴訟能力ヲ有スルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニシテ裁判所カ職權上調査ス可キ事項ナリ故ニ其調査ヲ爲サスシテ反證ナキヲ以テ能力ナシト裁判セルハ不法ナリ三十二年六月二十八日判決三十四年第四百號不當相續取消請求ノ件

○當事者ノ法定代理人タル資格ヲ以テ受ケタル判決ニ對スル上告ハ其法定代理人之ヲ提起セサルヘカラス若シ其者ノ法定代理權消滅スルトキハ民事訴訟法第百八十五條ノ規定ニ依ルヘキモノトス三十三年(オ)第四百四十八號同年五月八日第二民事部判決

○無盡講又ハ頼母子講ニ於ケル講元又ハ世話方ナルモノハ唯其講元又ハ世話方トシテ自己ノ責任ヲ以テ其事務ヲ處理スルニ過キササルモノナルカ故ニ各講員トノ間ニ於ケル權利關係ニ就テ議會ノ代表者トシテ訴訟行為ヲ爲シ得ヘカラサルモ一個人ノ資格ニ於テハ之ヲ爲シ得ヘキモノトス三十三年(オ)第六百二十九號三十四年五月九日民事部判決

○正當ニ授權ナキ者ノ爲シタル訴訟行為ヲ認ムルト否トハ之ヲ認ムルモノノ權利ニ屬スルニ付キ第二審ノ訴訟行為ヲ認メ第一審ノ訴訟行為ヲ認メサルトキハ其意思ニ反シ第二審ノ行為ヲ認メタル故ヲ以テ第一審ノ行為ヲモ補正セラレタルモノト認ムルヲ得ス三十二年(オ)第四百六號三十四年五月二十九日第二民事部判決

妻ノ訴訟能力

會社解散ニ依リ代理權消滅スルモ相手方カ何等ノ申立ヲ爲サハルトキノ效力

郡長ノ代理資格

民事四十六條ノ適用

町村又ハ其部落タル區ノ訴訟能力及ヒ代表者ノ權義

○妻カ訴訟行為ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ得サルヘカラス三十三年(オ)第五百四十一號三十四年五月二十九日第二民事部判決
○會社ノ解散ニ由リ其會社ノ代理人ノ代理權ハ消滅スルモ訴訟代理人ヲ以テ爲シタル訴訟ニシテ相手方ヨリ何等ノ申立ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ訴訟手續ヲ停止スヘキ者ニアラス三十三年(オ)第五六八號三十四年一月二十二日宣告
○郡長ハ法規上當然縣知事ノ代理ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス從テ知事ノ代理トシテ私訴ヲ提起スル場合ニハ別ニ其代理委任ノ事實ヲ證明スヘキモノトアルヲ要ス三十四年五月二十八日民事部宣告同年五月二十八日民事部判決

○民事訴訟法第四十六條ハ不分明ナル相續人ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於ケル規定ナケレハ訴訟ノ繫屬中當事者ノ死亡スル者アリテ相續人ノ未定ナル場合ニ適用スルヲ得ス三十四年(オ)第七十一號三十四年十月四日第二民事部判決 特別代理人選任申請ノ件
○村長ハ區ノ代表者トシテ區有財産ニ關スル訴訟行為ヲ爲スニハ特別授權ニ關シ區ノ機關タル區會ノ議決ヲ經サルヘカラス三十四年(オ)第七七號同年十一月二十日第二民事部判決 石材採掘確認ノ件

○町村制ハ一定ノ場合ニ必ラス區會又ハ區總會ヲ設クヘキコトヲ規定シタルモノニシテ之ヲ設クルト否トヲ區ノ隨意ニ任セタルモノニ非ス(同上)

- 町村又ハ其一部落タル區ヲ訴訟行爲ヲ爲スニハ其原告タルト被告タルトヲ問ハス特別授權ニ付町村會又ハ區會ノ議決ヲ要セサルモノトス(同上)
- 町村又ハ區カ被告トナリタル場合ニハ其町村又ハ區ハ應訴ノ義務アリ故ニ其代理者タル町村長ニ町村會又ハ區會カ訴訟行爲ヲ爲ス可キ權限ヲ附與セサルモ町村長ハ當然被告タル地位ヲ免脱セラルヘキモノニ非ス(同上)
- 町村長ハ訴狀ノ送達ヲ受クルニ付テハ特別授權ヲ要セス(同上)
- 特別授權ニ欠缺アル町村長カ第一審ニ於テ敗訴判決ヲ受ケ其判決ニ對シ控訴シタルトキハ其控訴ハ適法ナリ(同上)

第二節 共同訴訟人

假令連署ノ責任アルモ其相手方一人ニ對シテ爲シタル行爲ヲ以テ他ノ相手方ニ及ホスコトヲ得ス
二十五年第二百三十一號(第一) 違約物差戻及
 二十六年二月三日判決

- 共同訴訟人中ノ或ル人ノミカ期日ヲ懈怠シタルトキハ其懈怠シタルモノハ懈怠セサルモノニ代理ヲ任シタルモノト看做ストノ規定ヲ期日ノ送達ヲ受ケサル共同訴訟人ニ適用スルコトヲ得ス
二十五年第五百一十一號 鋼鐵軌條賣買約定手
 同年六月十八日判決
- 訴訟物ニ付假令相手方ニ連署ノ責任アルモ其相手方一人ニ對シテ爲シタル行爲ヲ以テ他ノ相手方ニ及ホスコトヲ得ス
二十五年第二百三十一號(第一) 違約物差戻及
 二十六年二月三日判決

受ケタル共同訴訟人ハ共同訴訟人ニ對シテ
五十條三號ノ適用外ナリ

第一辯論期日ニ出頭セザリシ訴訟人ニ第二回期日ノ呼出ヲ發セザルニモ拘ハラス當日出頭セザリシ懈怠ヲ責メ他ノ出頭者ニ代理ヲ任シタルモノト看做シタルハ不法ノ裁判ナリ
二十五年第三百二十七號
 二十六年三月十八日判決

連署者ナリトシテ其缺席ノ責任ニ於テハ代理ト看做サス

共同訴訟中一人ニ代理委任スルニ欠缺アリタル場合ノ效果

損害要償ノ件

- 第一回口頭辯論ノ期日ニ出頭セザリシ訴訟人ニ第二回期日ノ呼出ヲ發セザルニモ拘ハラス當日出頭セザリシ懈怠ヲ責メ他ノ出頭者ニ代理ヲ任シタルモノト看做シタルハ不法ノ裁判ナリ
二十五年第三百二十七號
 二十六年三月十八日判決
- 連署者タルノ故ヲ以テ共同被告タルモ其權利關係カ合一ニ確定スヘキモノニ非ルトキハ該被告中第一審ノ口頭辯論ニ闕席シタルモノアルモ他ノ出席者ニ代理ヲ任シタルモノト看做サス故ニ闕席判決ニ基因セル故障申立ニ對スル判決ノ控訴ヲ受理スルモ違法ニアラス
二十五年第五百四號二十
 六年四月二十七日判決
- 共同訴訟ニシテ權利關係カ合一ニノミ確定ス可キ時ニ於テ法律上共同訴訟人中ノ或ル人カ期日ヲ懈怠セサル者ニ代理ヲ委任シタルモノト看做ス可キハ法律ノ規定スル所ナルヲ以テ共同訴訟中ノ一人ニ代理委任ヲ爲スコトニ於テ欠缺アルモ全ク訴ノ提起ナキ場合ト同一ニ論スルヲ得ス
二十六年第二百二十九號
 同年十月二十七日判決

決地所取戻ノ件

○民事訴訟法第四十八條ハ當事者ニ訴訟ノ併合ヲ許シ同法第二百十條ハ裁判所ニ訴訟ノ併合ヲ許シタル規定ニ係レリ此規定ニ基キ訴訟ヲ併合シタル結

第一編 總則 共同訴訟人

民事訴訟法第八條トノ關係

果ハ兩者同一ノ効力ニ歸ス便チ第一審裁判所カ右第二百十條ノ規定ニ依リ合併ヲ命シ審理ノ末一通ノ判決文ヲ以テ裁判ヲ言渡シタルハ固ヨリ相當ナリ其敗訴者カ之ニ對シ一通ノ控訴狀ヲ以テ控訴ヲ提起シタルモ亦適法ナリ然ルニ原院カ之ヲ同法第四百十九條ノ形式ニ從ハサル不適法ノ控訴トシテ排斥シタルハ法律ニ違背シタル失當ノ裁判ナリ二十七年第七十二號同 株券公賣不足金請求ノ件

〔參照〕 民事訴訟法第四十八條 左ノ場合ニ於テハ共同訴訟人トシテ數人カ共ニ訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ受ケルコトヲ得

第一 數人カ訴訟物ニ付キ權利共通若クハ義務共通ノ地位ニ立ツトキ

第二 同一ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ

第三 性質ニ於テ同種類ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ナル請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ

民事訴訟法 第二百十條 裁判所ハ同一ノ人又ハ別異ノ人ノ數箇ノ訴訟ニシテ其裁判所ニ繫屬スルモノノ辯論及ヒ裁判ヲ併合ス可キヲ命スルコトヲ得但其訴訟ノ目的物タル請求ヲ元來一個ノ訴ニ於テ主張シ得ヘキトキニ限ル

必要的共同訴訟判決ノ効力

金錢上ノ債務ハ連借ト連帶トトテ問ハス可分的ナリ
地方裁判所以上ニ於テハ共同訴訟人トシテ雖モ訴訟代理ヲ委任スルハ連帶債務ハ民事訴訟法第五〇條ノ適用外也
共同訴訟人ハ各自受ケタル損害ヲ併合又ハ區分シ得ヘシ
必要的共同訴訟ニ於テ一部ノ對席判決トシタル場合ニ於テ生シタル場合

- 普通ノ共同訴訟ニ付テハ上訴者ノ利害關係ヲ他ニ及ホサスト雖トモ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ共同訴訟ニ付テハ其受ケタル判決ノ効力ハ他ノ上訴セサル者ニ及フヘキモノトス二十八年第三百十號 賠償金請求ノ件
- 金錢上ノ債務ハ連借ト連帶トテ問ハス普通可分のモノニシテ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノニアラス二十八年第四百九十六號 貸金請求ノ件
- 地方裁判所以上ニ在テハ共同訴訟人タリト雖トモ之ニ訴訟代理ヲ委任スルコトヲ得ス二十八年第四百九十六號 貸金請求ノ件
- 連帶債務ハ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノニアラス二十九年第九號同 受負金請求ノ件
- 共同訴訟人ハ各自ノ受ケタル損害高ヲ合併又ハ區分シテ要償スルコトヲ得二十九年第八十五號 配水權確定并損害要償ノ件
- 權利義務カ合一ニ確定セサル共同訴訟ニ付テノ判決カ當事者ノ一部ニ對シ對席判決ト闕席判決トノ區別ヲ生シタルトキハ其一部ハ控訴シ一部ハ故障ヲ申立ツルコトヲ得

民事訴訟法第五十條第五項ハ同級審ニ於ケル訴訟手續ヲ規定シタルモノニ

シテ上級審ノ訴訟手續ヲ定メタルモノニアラス
二十九年第二百六十八號
同年十月二十四日判決 貸金請求ノ
件

【參照】 民事訴訟法 第五十條第五項 然レトモ懈怠シタル共同訴訟人ニハ其懈怠
セサリシ場合ニ於テ爲ス可キ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スコトヲ要ス其懈怠シタ
ル共同訴訟人ハ何時タリトモ其後ノ訴訟手續ニ再ヒ加ハルコトヲ得

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ訴訟ニ於テ其當事者中ノ一人若クハ數人
ニ關シテ訴訟關係消滅スルコトアルモ爲メニ同事件ニ於ケル他ノ當事者間
ノ訴訟關係ヲ消滅セシムルモノニアラス
二十九年第九十三號三
十年一月十二日判決 相續故障排除請求ノ
件

○權利關係ヲ合一ニノミ確定スヘキ事件ニ於テ共同訴訟人中ノ一人カ爲シタ
ル上訴ハ他ノ共同訴訟人ノ爲メ判決ノ確定ヲ妨クル効力ヲ生ス從テ他ノ共
同訴訟人ハ形式上上訴ヲ提起セサルニ拘ハラズ其訴訟ノ當事者タルヘキモ
ノナレハ裁判所カ之ニ對シ送達及ヒ呼出ヲ爲スハ當然ナリ
三十年第六十七號同
年九月二十七日判決 詐
害行爲廢罷等ノ件

○婦カ夫ニ對シ離婚請求ノ訴訟ヲ提起スルニ當リテハ明治六年第六十二號

必要的共同訴
訟ニ於テ或者
ニ訴訟關係消
滅シタル場合
ノ影響

必要的共同訴
訟ニ於テ一人
ノ爲シタル上
訴ノ効力

婦カ夫ニ對シ
離婚請求ヲ提

起シ親戚ニ於
テ共同原告ト
ルニテ參加シ
タル場合

布告施行以來其婦ノ父母又ハ其他ノ親戚ニ於テ共同原告トシテ訴訟ニ參加
スルノ慣例ノ行ハレタルニ依リ今日之ヲ不法若シクハ無効ト爲スノ理由ナ
シ
三十一年五月十九日判
決三十一年第六十四號 養子離別請求等ノ件

【參照】 明治六年 第六十二號布告 夫婦ノ際己々ヲ得サルノ事故アリテ其婦離
縁ヲ請フト雖トモ夫之ヲ背セス之レカ爲メ數年ノ久シキヲ經テ終ニ嫁期ヲ失ヒ
人民自由ノ權利ヲ妨害スル者不少候自今各機ノ事件於有之ハ婦ノ父兄弟或ハ親
戚ノ内附添直ニ裁判所ヘ訴出不苦候事

○婦ヨリ夫ニ對スル離婚及夫ノ實家ノ戸主ニ對スル復籍ノ請求ニシテ其原因
離婚ニ在ルトキハ民事訴訟法第四十八條第二號ノ所謂同一ナル事實上及法
律上ノ原因ニ基ク請求ナルヲ以テ被告兩名ヲ共同訴訟人ト爲セルハ違法ニ
アラズ
三十一年第十七號同
年九月二十二日判決 養子離別復籍請求ノ件

○總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定ス可キ場合
ト雖トモ共同訴訟人中ノ或ル者ニ於テ訴訟ヲ進行スル權利ヲ拋棄スルトキ
ハ其者ヲ除キ他ノ共同訴訟人ノミニシテ其訴訟ヲ進行スルコトヲ得隨テ共
同訴訟人ノ一名ノ資格ニ不法ノ點アリテ判決ノ一部ヲ破毀スルモ他ノ共同

必用的共同訴
訟ニ於テ或者
ノ權利拋棄

婦ヨリ夫ニ對
スル離婚及夫
ノ實家ノ戸主
ニ對スル復籍
請求

訴訟人ノ訴訟行為ニ影響ヲ及サス三十二年九月二十七日判決三十二年第四六六號 小黒川分水木設置請求ノ件

共同訴訟人ノ陳述ニ付キ他ノ者ニ於テ之ヲ争ハサル場合

○共同訴訟人ノ陳述ニ付他ノ共同訴訟人カ明ニ之ヲ争ハサルモ其陳述ヲ承認シタルモノト看做スヘキ法則ナシ三十二年三月六日判決三十二年第九二八六號 立米代金請求ノ件

共同被告人中其一人ニノミ係ル同一性質ノ請求

○民事訴訟法第四十八條ニ依リ共同訴訟ヲ許サレタル共同被告人中其一人ノミニ係ル同一性質ノ請求ハ之ヲ共同訴訟ニ併合スルコトヲ禁シタル規定ナキヲ以テ同法第九十一條ニ依リ之ヲ併同シ得ヘキモノトス三十三年七月五日判決同年(オ)第二〇四號 貸金請求ノ件

【參照】左ノ場合ニ於テハ共同訴訟人トシテ數人カ共ニ訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ受ケルコトヲ得

- 第一 數人カ訴訟物ニ付權利共通若シクハ義務共通ノ地位ニ立ツトキ
- 第二 同一ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ
- 第三 性質ニ於テ同種類ナル事實及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ナル請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ○同法第九十一條同一ノ被告ニ對スル原告ノ請求數個アル場合ニ於テ其各請求ニ付キ受訴裁判所カ管轄權ヲ有シ且ツ法律

ニ於テ同一種類ノ訴訟手續ヲ許ストキハ原告ハ其請求ヲ一箇ノ訴ニ併合スルコトヲ得但民法ノ規定ニ反スルトキハ此限ニアラス

共同被告中其一人ノミニ係ル同一請求ノ性質

○民事訴訟法第四十八條ニ依リ共同訴訟ヲ許サレタル共同被告中其一人ノミニ係ル同一性質ノ請求ハ之ヲ共同訴訟ニ併合スルコトヲ禁シタル規定ナキヲ以テ同法第九十一條ニ依リ之ヲ併合シ得ヘキモノトス三十三年(オ)第二〇四號三十二年七月五日第一民事部判決 貸金請求ノ件

必要的共同訴訟人中ノ一人ニ對シ不法ナルトキ

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ事件ニアリテハ其判決カ共同訴訟人ノ一人ニ對シ不法ナルトキト雖トモ其全部ヲ破毀スヘキモノトス三十三年(オ)第五百四十一號三十四年五月二十九日第二民事部判決

約束手形ノ支拂義務ト償還義務ト共同訴訟ヲ許ス

○約束手形ノ振出人ノ支拂義務及ヒ其裏書人ノ償還義務カ手形ヨリ生シタル債務ナル點ニ於テ民事訴訟法第四十八條第三號ニ謂フ同種類ナル事實及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ノ義務ナリトス三十四年(オ)第二百十四號同年十二月十四日第一民事部判決 約束手形金請求ノ件

【參照】左ノ場合ニ於テハ共同訴訟人トシテ數人カ共ニ訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ受ケルコトヲ得第三性質ニ於テ同種類ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ナル請求ノ件
第一編 總則 共同訴訟人 民 二百八十五

擔保又ハ賠償ノ責任ナキ第三者

從參加人ノ陳述ト被控訴人ノ陳述ト相抵觸スル場合

主參加請求ノ申立ナル以上ハ其主參加訴訟中至ル迄

辯論期日ニ從テ參加人ニ呼出シタル判決

從參加ノ性質

第三節 第三者ノ訴訟參加

○民事訴訟法第五十九條ノ所謂擔保又ハ賠償ノ責任ナキ第三者ハ訴訟ノ告知ヲ受ケ其訴訟ニ參加セサルモ尙其裁判ヲ不當ナリト主張スルコトヲ得百十七號二十六年三月二十三日判決 工事請負殘金請求ノ件

○從參加人ノ陳述カ主タル被控訴人ノ陳述ト相抵觸スルルハ主タル被控訴人ノ陳述ヲ以テ標準ト爲ス二十六年第二百二十二號同年六月十日判決 預券差戻地所家屋代殘金請求ノ件

○當事者ノ係争目的物件ニ對シ其所有權ヲ主張シ之カ名義切換ヲ請求スル主參加申立ナルトキハ本訴訟ノ辯論ハ民事訴訟法第五十二條第一項ニ依ルモ又ハ同法第二百一十一條ノ規定ニ依ルモ主參加訴訟ノ定結ニ至ル迄之ヲ中止スルヲ相當トス二十八年第四百三十三號同年七月十九日判決 訴訟中止決定抗告ノ件

○口頭辯論期日ニ從參加人ヲ呼出サスシテ爲シタル判決ハ不法ナリ二十八年第四百三十三號同年六月十日判決 用水權妨害排除ノ件

○從參加人ノ權利拘束ノ繼續中當事者ノ一方ヲ補助スル爲メ自ラ進ンテ其訴訟ニ附隨スルモノニシテ審級ノ如何ニ拘ハラス當然當事者タルヘキモノニ

アラヌ故ニ從參加人ニ對シ提起セル控訴ハ不適法ナリトス二十八年第四百三十三號二十九年四月八日判決 用水爭論ノ件

本訴訟ノ原告主參加人ノ要求場合同シタル

從參加ノ資格ハ審級ヲ異ニスルモ消滅セ

○本訴訟ノ原告カ主參加人ノ要求ニ贊同シタルト同時ニ原告ハ其從參加人ト爲リ主參加訴訟ハ自然消滅シテ主參加人ハ本訴訟ノ原告トナリ本訴訟ノ被告ハ其對手人トナル二十九年第三百三十四號同年十二月一日判決 養子相續取消並ニ相續認諾請求ノ件

○第一審ニ於テ從參加ノ申請アリタル者ニ對シ異議ナク判決ヲ受ケタル後之レヲ對手者ノ一人トシテ控訴ヲ提起シタルトキハ第二審ニ於テ更ニ從參加ノ申請ナキモ從參加人タル資格ヲ有スルモノトス二十九年第三百九十九號三十年五月十二日判決 磯漁場區域確定并ニ調印請求ノ件

第四節 訴訟代理人及輔佐人

訴訟代理人申立願辭ノ取消時期

民訴六十五條ノ委任ハ其見ルキトキハ其効力ヲ相手方ニ及

○訴訟代理人タル者ハ當該事件ノ顛末ヲ詳悉シ始メテ其任ニ當ルヘキモノナルカ故ニ若シ其吐露シタル事實中ニ相違ノ點アリト思考セハ時日ヲ移サス其理由ヲ具ヘテ取消ヲ乞ハサルヘカラス二十三年第一二二號三月二日判決 損害要償事件

○訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルニ非レハ和解又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得サルハ訴訟法第六十五條第二項ノ規定スル所ナリ然ラハ此ノ委任ヲ受ケタル

相手方ノ附帯
控訴ノ意思アル
トキハ特別委
任ヲ要セス

訴訟代理委任
ハ各審級ニ於
テ審査スヘキ
モノナリ

認諾ニ對シ特
別委任ヲ要ス
ル所以

證左ナキ已上ハ縦ヒ裁判所ヨリ下附シタル和解調書即公正ノ證書ナリト雖
モ其効力ヲ對手人ニ及ホスコトヲ得ス二十五年第五百四十五號二
十六年一月三十一日判決貸金催促ノ件

○控訴ヲ爲スノ委任ヲ爲シタル以上ハ相手方ノ附帯控訴ニ對シ反對ノ意思アル
ルコト自ラ明瞭ナルニ於テハ民事訴訟法第六十五條第一項ニ屬スヘキモノ
ニシテ敢テ特別ノ委任ヲ要セス二十七年第七十五號同
年五月二十八日判決地所明渡地料請求ノ件

・〔參照〕民事訴訟法第六十五條第一項 訴訟委任ハ反訴主參加故障假差押若クハ假
處分又ハ強制執行ニ依リ生スル訴訟行爲ヲ併セ訴訟ニ關スル總テノ訴訟行爲ヲ
爲シ及ヒ相手方ヨリ辨濟スル費用ノ領收ヲ爲ス權ヲ授與ス

○訴訟代理人ノ委任ハ各審級ニ於テ審査スヘキモノナルヲ以テ假令第一審ニ
於ケル訴訟代理委任ニ付欠缺アリタルトスルモ第二審ニ於テ何等ノ申立ナ
キ場合ニ在テハ職權上之ヲ調査スヘキ義務ヲ有セス二十七年第五十四號
同年九月十八日判決辨償金請
求ノ件

○民事訴訟法ニ於テ認諾ト稱スルモノハ請求ヲ認諾スルノ謂ニシテ即チ一方
ノ當事者カ對手方ノ請求ニ承服シ其爭訟ヲ止息スルニアリ而シテ爭訟ヲ止
息スル爲メノ認諾ト抗爭ヲ事トスル訴訟代理トハ其旨意氷炭相容レズ認諾

ヲ以テ訴訟代理ノ目的ヲ達スル必要若クハ直接ノ結果ト看做スコトヲ得サ
ルヨリ法律カ認諾ニ對シ特別委任ヲ必要トスル所以ナリ然ルニ當事者一方
ノ代理人カ原公廷ニ於ル申立ハ之レカ負擔ヲ認メタルノミニテ其請求ニ承
服セス却テ計算上對手者ヨリ受取ルヘキ部分アリト抗爭シタルモノナレハ
此所爲ハ民事訴訟法上之ヲ稱シテ自白ト云フヘクシテ認諾ト云フヘキモノ
ニアラス隨テ特別委任ノ必要ナキコトヲ知ルヘシ二十七年第三百十七號同
年十一月二十七日判決抵當地所
登記并無盡掛返滯米請求ノ件

○反訴取下ヲ承諾スル如キハ普通ノ訴訟委任中ニ包含ス二十八年第二百二十二
號同年九月十四日判決賣掛金
請求ノ件

○形式上ニ發露セサル訴訟當事者ハ裁判所之ヲ斟酌セス從テ其者ノ訴訟代理
ト訴訟委任トヲ調査スルヲ要セス二十八年第三百三十號
同年九月十九日判決石炭取戻損害要價ノ件

○民事訴訟法第六十五條第一項ノ普通委任ノ外同條第二項ノ特別權限ヲ委任
セラレタル代理人ハ訴訟ノ如何ナル審級ニ在ルト又上級ヨリ下級審ニ差戻
シ又ハ移送セラレタルトヲ論セス總テ其訴訟ノ完結ニ至ル迄テ訴訟行爲ヲ
爲シ得ルモノトス二十八年第八十八號
同年九月二十日判決和解取消ノ件

普通委任ト其
特別權限ヲ委
任セラレタル
代理人ノ權限
行爲

形式上發露セ
サル當事者

反訴取下ヲ承
諾スル如キハ
普通委任中ニ
包含ス

法律上代理人ノ資格ヲ證スル書面

○法律上代理人ノ資格ヲ證スル書面ノ如キハ裁判所ノ記録ニ備フヘキ法律ノ規定ナキヲ以テ一件記録中其書面ナキヲ以テ裁判所カ其資格ノ調査ヲ缺キタルコトヲ證スルニ足ラス二十八年第六十六號同 買附米引渡ニ關スル損害要償ノ件 年十月二十九日判決

民事原告人ノ代表者訴訟ノ範圍

○民事原告人ノ代表者ニ指定シタル上ハ其訴訟委任ノ範圍ハ上訴ニ及フ四四七號二十九 年一月二十日宣告 監守盜及委託金費消ノ件

訴訟代理人カ辯論期日ニ辭任届テ差出シタルトキ其委任者本人ニ對シ更ニ呼出狀ヲ發セス出頭シタル相手方ノ申立ニ依リ缺席判決ヲ爲シタルハ相當ナリ二十九第七號同 年九月十六日判決 立木賣買契約解除等ノ件

訴訟委任狀ニ對手者人員中ノ一人ヲ缺キタル場合ハ職權ヲ以テ調査スヘキ委任欠缺ト同視スヘキモノニアラス從テ異議ナク原審ヲ經過シタル上ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス二十九第三百八十號同 年十一月二十五日判決 村費立替金不當調査報告取消請求等ノ件

第一審ニ於テ不完全ナル委任狀ヲ追認シタルトキ

○第一審ノ訴訟委任狀ニ不完全ノ點アルモ第二審ニ至リ完全ナル委任狀ヲ提出シタルトキハ第一審ノ委任欠缺ハ之ヲ追認シタルモノト認メ得ヘキニ依リ上告ノ理由トナラス二十九第四百三十三號同 年三月一日判決 水利妨害ノ件

訴訟代理權消滅ノ効力

○訴訟代理委任ノ消滅ハ之ヲ相手方ニ通知スル迄其効ナシ故ニ本人ノ出廷ノミヲ以テ相手方ニ對シ委任ノ消滅アリト看做スヲ得ス二十九第八號同 年三月十三日決定 番水施行假處分異議申立等ノ件

證書訴訟ノ委任ハ普通訴訟ニ於テモ亦有效ナリ

○證書訴訟ヲ止メ通常訴訟手續キニ繫屬セシムルカ如キハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ規定セル訴訟行為ニアラサルヲ以テ同條第一項ノ範圍ニ入ルヘキモノトス故ニ證書訴訟ノ委任ハ該訴訟カ通常訴訟トシテ繫屬スル場合ニ於テモ亦有效ナリ三十二年第三百三十號 年三月十九日判決 貸金請求ノ件

【參照】民事訴訟法第六十五條第二項 訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルニ非レハ控訴若クハ上告ヲナシ得ず其委任人ヲ任シ和解ヲ爲シ訴訟物ヲ拋棄シ又ハ相手方ヨリ主張シタル請求ヲ認諾スル權ヲ有セス

死亡ニ因ル代理委任消滅ノ効力

○死亡ニ由ル代理委任ノ消滅ハ其消滅ヲ通知スル書面ヲ受訴裁判所ニ提出シ相手方ニ送達セシムル迄ハ其効ヲ生セサルモノトス三十二年第二百六十二號 年四月十四日判決 不當入會差拒請求ノ件

代理委任消滅ノ効力

○訴訟代理委任ノ消滅ハ之ヲ裁判所ニ届出テ其通知書ヲ相手方ニ送達セサルハ効力ヲ生セス隨テ其訴訟代理人ノ受ケタル判決ハ有効ナリ三十二年十月二十七日判決 三十二年三月九日判決

委任者ノ死亡ニ因ル委任消滅ノ通知

○ 地所買戻請求ノ件
○ 訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ委任者ノ死亡ニ依ル委任消滅ノ通知及訴訟手續ニ關スル規定ハ共ニ相手方ヲ保護スルノ趣旨ニ外ナラス從テ相手方カ承繼人ノ訴訟手續キヲ默認シテ其手續ヲ履行シタルトキハ委任ノ消滅及ヒ訴訟手續ノ受繼ハ其効力ヲ生スルモノトス
三十二年一月十三日判決 三十二年四月四日判決 三十二年四月四日判決 株式賣買證據金取戻請求ノ件

委任者ノ死亡ニ因ル消滅ノ通知

法律上代理權消滅ノ効力

訴訟代理ノ委任欠缺ノ追認

訴訟委任ノ範圍

○ 訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲サシムル場合ニ於テ委任者ノ死亡シタルトキハ其代理委任消滅ノ通知書ヲ受訴裁判所ニ差出シ之ヲ相手方ニ送達セサル間ハ中斷ノ効力ヲ生セサルモノトス
三十二年二月二十六日判決 三十二年四月九日判決 水利妨害排除請求ノ件
○ 訴訟代理人ヲ以テ爲ス訴訟ニ在テハ法律上代表者ノ代理權カ消滅スルモ委任消滅ノ通知アルニ非レハ訴訟手續キヲ中斷スヘキモノニ非ス
三十二年五月二十日判決 三十二年六月六日判決 三十二年八月八日判決 損害賠償請求ノ件
○ 訴訟代理ノ委任ニ欠缺アルモ後日本人カ之ヲ追認スレハ訴訟代理人ノ爲シタル訴訟行爲ハ有効ナリ
三十三年(オ)第二百三十八號三十三年十二月五日第二民事部判決 地所賣買登記取消請求ノ件
○ 相殺ヲ以テ抗辨方法ト爲スヘキ場合ニ於テハ特別ノ意思表示ヲ須タスシテ

其相殺ヲ爲ス行爲ハ當然訴訟委任中ニ包含スルモノトス
三十四年(オ)第三百七十八號三十四年十二月十四日第一民事部判決 貸金請求ノ件

第五節 訴訟費用

○ 被上告人カ原院ニ於テ附帶控訴ヲ爲スニ對シ原院カ其趣旨相立サル旨ヲ言渡シタル上ハ之ニ關スル幾部ノ訴訟費用ハ被上告人ニ於テ負擔セシメサルヘカラス
二十三年第二四五號一月十日判決 八幡社地收穫計算等ノ件
○ 甲者カ乙者ニ對シ貸金ノ辨濟ニ付不當ノ多額ヲ訴求スルヲ以テ乙者カ之ニ對シテ控訴スルニ及ンテ其金額ヲ減シタルトキ裁判所カ控附費用ヲ甲者ニ負擔セシムルモ不法ト云フヲ得ス
二十三年第二七九號二十三年四月二十三日判決 貸金催促ノ件
○ 上告ノ理由總テ相立サルトキ訴訟費用不服ノ申立ハ民事訴訟法第八十二條第一項ニ從ヒ採用スヘカラサルモノトス
二十六年第八號同 木材代金取戻ノ件 年四月二十日判決
○ 訴訟費用ハ必要ニシテ且ツ現ニ費シタルモノナルヲ要スルハ訴訟費用法ノ精神ナリ
二十八年抗第二號同 訴訟費用額確定申請ノ件 年二月十六日決定
○ 休暇部ノ審理ヲ申請シ爲メニ却下セラレタルハ必要ナラサル行爲ニ屬スルカ故ニ其對手者ニ其費用ヲ辨濟セシムヘキ限リニアラス

敗訴者カ費用
ヲ負擔スル理
由及ヒ其勝訴
者ノ費用ヲ求
ムル者ニ對シテ

訴訟ニ關スル
費用ノ負擔

能力職權調查
ノ費用

訴訟代理人ノ
出張シタルト
共ニ本人出張
シタル費用ノ
請求

辯護士ニ支拂
タル報酬ハ訴
訟費用ニ非ス

○凡ソ敗訴者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルハ其訴訟行為ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムルニ外ナラス左レハ勝訴者カ賠償ヲ求ムル所ノ費用ハ現實訴訟ノ爲メニ費シタルモノナルヤ否ヤノ事實ヲ審究スルハ其費用額ヲ定ムルニ於テ最緊要ノ事ナリトス二十八年抗第五號同年四月十六日決定訴訟費用額確定申請ノ件

○私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ從フヘキモノニアラス二十九年抗第五號同年三月五日決定上訴訴訟費用確定決定ノ件

○訴訟能力ノ有無ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事柄ニ屬スルニ依リ事實訴訟能力ナキコトニ決スル以上ハ當事者ノ一方カ之ニ關スル抗辯ヲ提出セラル時期ノ如何ニ拘ハラス其敗訴ノ費用ヲ總テ敗訴者ニ負擔セシムルハ相當ナリ二十九年第四百九十五號同年十二月十日判決堰費立替金數請求ノ件

○訴訟代理人カ出廷シタルトキハ其本人自ラ出廷スルト否トハ隨意ノ行為ニシテ必要行為ニアラス故ニ本人出頭ノ費用ハ訴訟費用中ニ計算スヘキモノニアラス三十年抗第八號同年三月十三日判決香水施行假處分異議申立等ノ件

○辯護士ニ支拂タル報酬ニシテ訴訟費用ノ言渡中ニ包含セサルモノハ損害賠償

民訴七十四條
ノ適用

償トシテ相手方ニ對シテ要求スルヲ得ス三十二年十月七日判決同年一三三號損害要償請求ノ件

○民事訴訟法第七十四條ノ規定ハ被告カ直ニ原告ノ請求ヲ認諾シタル場合ニ限り適要スヘキモノトス三十三年四月十四日判決三十三年第七六號幼兒引取并養育請求ノ件

【參照】民事訴訟法 第七十四條 被告直チニ請求ヲ認諾シ且其作為ニ因リ訴ヲ起スニ至ラシメタルニ非サルトキハ訴訟費用ハ原告ノ勝訴ト爲リタルニ拘ラス其負擔ニ歸ス

假住所ノ意義
及ヒ本住所
ノ往復シタル
費用

○假住所ナルモノハ本住所ニ非サルヲ以テ開廷ノ節實際本住所ヨリ往復シタル事實アルトキハ其費用ヲ請求シ得ヘキハ當然ナリ三十三年六月十八日決定三十三年(ケ)第四十二號訴訟費用額確定ノ件

第六節 保證

○本節ハ判例ノ見ルヘキモノナシ

第七節 訴訟上ノ救助

○訴訟上救助申請ノ決定ヲ爲スニ付テハ必ス理由ヲ付セサルヘカラストスル一定ノ法條ナキニヨリ原裁判所カ其決定ヲナスニ當リ何等理由ヲ説明セザリシトテ之カ爲メ必スシモ不法トスルヲ得ス二十七年抗第四十一號同年十一月五日判決訴訟上救助申請

第一編 總則 保證 訴訟上ノ救助

訴訟救助決定
付セサル理由
ナリ

訴訟救助許可
ノ場合

救助申請ハ訴
訟提起ト同時
ニ之ヲ爲ス

救助申請ノ許
容セラレサル
場合及ヒ之ト
共ニ提出セル
無印紙ノ訴狀
ノ效力

救助許否ノ決
定ニ理由ヲ付
セサル場合

ノ件

○訴訟上救助ハ其目的トスル權利ノ伸張ニ見込ナキトキハ之ヲ付與スヘキモ
ノニアラス 二十九年申請第一號
同年一月十一日判決 損害要償ノ件

○訴訟費用救助ノ申請ハ訴訟ノ提起ト同時ニ爲スヘキモノトス 二十九年申請第九號
同年六月十八日判決 離縁復籍廢嫡請求ノ件

○訴訟救助ノ申請ニシテ許容セラレサルトキハ之ト共ニ提出セル無印紙ノ訴
訟書類ハ無効ナルカ故ニ民事訴訟用印紙法第十一條ノ注意ヲ爲スヲ要セス
其出類ヲ却下スヘキモノトス 三十年抗第九號
同年三月十六日判決 貸金請求ノ件

【参照】民事訴訟用印紙法 第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此

法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其効ナキモノトス(以下略ス)

○訴訟上ノ救助ノ申請ヲ許否スル決定ニ理由ヲ存セサルモ違法ニアラス 三十一
年抗第一
號
七月七日判決 訴訟上救助申請ニ對スル抗告ノ件

第三章 訴訟手續

第一節 口頭辯論及準備書面

不知ノ陳述ヲ
採用シ且ツ理
由ヲ付セサル
判決

申立ノ不定ナ
ル請求

明カニ争ハサ
ル事實

辯論調書ニ記
載スル事項
ナル事項

口頭辯論調書
ノ効力

○不知ノ答述ヲ採用シ且ツ判決ノ要點ニ理由ヲ附セサル裁判ハ破毀ノ原因ア
ルモノトス 二十四年第二四十六號
二十五年一月十九日判決 衆議院議員當選無効ノ件

○數名ヲ被告ト爲シ彼ニアラサレハ之否ラサレハ全牀ニ係リ請求スト云フカ
如キハ不定ノ請求ナリ 二十七年第四百七十六號二
十六年三月三十一日判決 回漕委託米請求ノ件

○明カニ争ハサル所ノ事實ハ自白シタルモノト看做スコトハ法律ノ命スル所
ナルヲ以テ明カニ争フタルノ事實ヲ表示セサル限リハ上告ノ理由トナラズ
二十五年第四百四十九號
二十六年四月八日判決 借用金辨濟請求ノ件

○當事者ノ辯論カ民事訴訟法第三百十條ニ規定セル調書ニ記載シテ明確ニス
ヘキ事項ニ非ルトキハ其辯論カ調書ニ記載ナケレハトテ之ニ據テ判決ヲ下
スモ當事者ノ申立テサルモノト爲スヲ得ス 二十六年第八十一號
同年五月三十日判決 預金取戻ノ件

○口頭辯論調書ハ一ノ證書タルニ過キササルヲ以テ裁判長ノ名下ニ捺印ナケレ
ハトテ爲メニ其裁判ヲ不法視スルヲ得ス然レモ若シ口頭辯論調書ヲ以テス
ルニ非レハ證明スルコトヲ得サル事項例ヘハ自白認諾拋棄及ヒ和解ニ基キ
判決ヲ爲シタル場合ノ如キニ在テハ其判決ノ基因タル事項ヲ證スル證據ヲ

缺クニ至ルヘキヲ以テ從テ其判決ノ不法タルニ至ルコトアルヘキモ單ニ裁判長ノ捺印ヲ缺クカ故ニ原判決不法ナリトノ論告ハ未タ以テ破毀ノ理由ト爲スニ足ラス 二十七年第五十四號 同年九月十八日判決 辨償金請求ノ件

民訴四十八條ト同第百二十條トノ關係

○民事訴訟法第四十八條ハ當事者ニ訴訟ノ併合ヲ許シ同法第百二十條ハ裁判所ニ訴訟ノ併合ヲ許シタル規定ニ係レリ此規定ニ基キ訴訟ヲ併合シタル結果ハ兩者同一ノ效力ニ歸ス便チ第一審裁判所カ右第百二十條ノ規定ニ依リ併合ヲ命シ審理ノ末一通ノ判決文ヲ以テ裁判ヲ言渡シタルハ固ヨリ相當ナリ其敗訴者カ之ニ對シ一通ノ控訴狀ヲ以テ控訴ヲ提起シタルモ亦適法ナリ然ルニ原院カ之ヲ同法第四百十九條ノ形式ニ從ハサル不適法ノ控訴トシテ排斥シタルハ法律ニ違背シタル失當ノ裁判ナリ 二十七年第七十二號同 年十二月二十九日判決 株券公賣不足金請求ノ件

【參照】民事訴訟法 第四十八條 左ノ場合ニ於テハ共同訴訟人トシテ數人カ共ニ

訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ受ルコトヲ得

第一 數人カ訴訟ニ付キ權利共通若クハ義務共通ノ地位ニ立ツコト

第二 同一ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基キ請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物ト

ルトキ

第三 性質ニ於テ同種類ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基キ同種類ナル請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ

民事訴訟法 第百二十條 裁判所ハ同一ノ人又ハ別異ノ人ノ數個ノ訴訟ニシテ其裁判所ニ繫屬スルモノ、辯論及ヒ裁判ヲ併合スヘキヲ命スルコトヲ得但其訴訟ノ目的物タル請求ヲ元來一個ノ訴ニ於テ主張シ得ヘキトキニ限ル

辯論調書ヲ讀カセ又ハ閱覽セシムメサル場合其調書ノ効力

○民事訴訟法第三百三十一條ノ規定ニ於テ特ニ調書ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシムヘキモノヲ讀聞カセス又ハ閱覽セシムサル場合其關係人ヨリ異議ノ申立アルトキト雖モ其部分ニ限り證據力ヲ失フコトアルヘキノミニシテ之レカ爲メ調書全部ノ無効ヲ惹起スヘキ筋ナシ故ニ調書ハ之ヲ讀聞カセサルモ又之ヲ示サ、ルモ無効タルヘキモノニ非ス 二十七年第三百五十五號 同年十二月十一日判決 立替請求ノ件

○調書ニ添付スヘキ書面ニ基キテ演述シタル事項ニ悉ク之ヲ調書ニ記載スルヲ要セサルモノナルカ故ニ調書ニ各自割合ノ記載ナキヲ以テ一定ノ申立ナシトノ論告ハ上告ノ理由ナキモノトス 二十七年第五百十二號 二十八年二月十二日判決 報酬金請求ノ件

○第一審裁判所ニ於ケル判事ノ定數調書ノ署名捺印等ノ手續キニ違背シタル

判事ノ定數其他辯論調書ノ

不備ハ職權
審事ヲ非ス

民 三
コトアラハ之カ不法ヲ主張スルモノニ於テ其申立ヲナサ、ルヘカラス第二
審裁判所カ職權ヲ以テ是等ノ審査ヲ爲スハキモノニアラス 二十八年第三十一號同預
金請求ノ件 年三月二十八日判決

口頭辯論調書
ノ記載方

○口頭辯論調書ハ明確ニスヘキ諸件ヲ除ク外細大漏サス筆記スヘキモノニ非
ス故ニ之ヲ記載セラレサルノミヲ以テ原院カ其陳述セサル事項ヲ判文ニ掲
載シタリト云フヲ得ス 二十八年第二百八號
同七月四日判決 損害賠償ノ件

準備書面及ヒ
判決ニ原告外
何人記載シタ
ル場合ノ効力

○準備書面及判決ニ原告何某外幾名ト記載シタル場合ニ於テ其幾名ノ何人ナ
ルヤハ訴狀添付ノ委任狀ニ總躰ノ原告氏名住所等存スルヲ以テ訴狀ニ之レ
カ表示ヲ掲ケタルモノト看做スコトヲ得可シ 二十八年第八十三號
同七月八日判決 天龍川疏水障害
物取拂請求ノ件

訴訟當事者ノ
形式

○訴訟當事者ノ表示ハ形式上最モ之ヲ明確ニセサルヘカラス 二十八年第三百五號石
炭取戻損害要償ノ件 同九月十九日判決

民訴一三〇條
ノ所謂要領ノ
意義

○民事訴訟法第三百十條中ニ所謂要領ノ中ニハ一定ノ申立ヲ包含スト雖モ其
申立ヲ書面ニ基キ爲シタル事ノ記載ヲ命スルモノニアラス 二十八年判百八十九
號同十月八日判決 地
所抵當講預ケ金請求ノ件

調書ノ讀聞及
ヒ釋覽

○口頭辯論調書ニ於テ明確ニスルノ必要ナキ事項ハ當事者ニ讀聞セス又閱覽
セシムルヲ要セス

○口頭辯論調書中自白其他調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項記載ナキトキハ
當事者ニ之ヲ讀聞カセル等ノ手續ヲ爲スヲ要セス從テ其手續ノ有無ヲ記載
スルノ要ナシ 二十八年第三百二十九號
同十一月九日判決 材木代金請求ノ件

○一定ノ申立ハ辯論調書ニ記載シテ明確ナラシムルノ規定ナシ故ニ書面ノ提
出アル上ハ口頭ニテモ尙ホ之ヲ申立タルモノト爲サ、ルヲ得ス 二十八年第二百四
號同十一月十八
日判決 假差押解除ノ件

辯論調書ニ明
確ニスヘキ諸
件記載ナキト

○口頭辯論調書中自白認諾其他調書ニ記載シテ明確ニスヘキ諸件記載ナキト
キハ之ヲ關係人ニ讀聞セタル手續ヲ記セサルモ判決ノ當否ニ影響ヲ及ホス
ヘキモノニアラス 二十八年第三百七十九號
同十二月七日判決 藝妓積立金取戻ノ件

○口頭辯論ノ再開ヲ命シ新期日ヲ指定シテ當事者ニ呼出狀ヲ送達シタル以上
ハ假令再開ヲ命シタル理由消滅シテ再開ノ必要ナキニ至ルト雖モ仍ホ當事
者ヲシテ口頭辯論ヲナサシメタル後ニ非レハ判決ヲナスヲ得ス 二十八年第三百三
號同十一月
二十一日判決 契約確認損害賠償ノ件

辯論ノ再開ヲ
命シタル以上
其理由消滅シ
タル場合

檢證調書ニ於
捺印ナキ
場合ノ効果

○檢證調書ニ判事ノ捺印ナキモ之ヲ無効ト爲ス規定ナキヲ以テ現ニ判事カ實
地ニ臨ミ調製シタルモノナルコト明確ナル以上ハ檢證調書トシテ公正ノ効
力ヲ有ス二十八年第四百三十七號二
十九年一月二十七日判決 通水爭論ノ件

民事百十二條
ノ法意

○民事訴訟法第百十二條ハ總テ裁判長ニ注意ヲ訓示シタル法條ナレハ之ニ準
據セサルコトアルモ判決ノ瑕疵トナラス二十九年第二十七號同地
所抵當事件
年三月二十三日判決

【參照】民事訴訟法 第百十二條 裁判長ハ職權上調査スヘキ點ニ關シ相手方ヨリ
起サトル疑ノ存スルトキハ其疑ニ付キ注意ヲ爲スコトヲ得裁判長ハ問ヲ發シテ
不明瞭ナル申立ヲ釋明シ主張シタル事實ノ不充分ナル證明ヲ補充シ證據方法ヲ
申立テ其他事件ノ關係ヲ定ムルニ必要ナル陳述ヲ爲サシムヘシ以下略

對手者ノ反對
又ハ相異ノ點
ニ抗辯ヲ爲サ
リシトキ

○對手者ノ陳述ニ反對若クハ相異ノ點アルニモ拘ハラズ抗辯セザルトキハ民
事訴訟法第百十一條第二項ニヨリ其事實ヲ爭ハサルモノト見做スヘキモノ
トス二十九年第二十八號同
年三月二十八日判決 轉付ノ債權請求ノ件

【參照】民事訴訟法 第百十一條第二項 明カニ爭ハサル事實ハ原告若クハ被告ノ
他ノ陳述ヨリ之ヲ爭ハントスル意思カ顯レザルトキハ自白シタルモノト看做ス

辯論調書ノ捺
印カ翌日後ニ

○口頭辯論調書ハ裁判長及書記ノ署名捺印ヲ數日ノ後ニ爲スモ其調書タルノ

爲シタトキ其
調書ノ効力
所謂最終ノ口
頭辯論

効力ヲ失ハス二十九年第三十一號
同年四月十一日判決 敷地料米請求ノ件

○口頭辯論中最終ノ辯論ハ民事訴訟法第百三十二條ニ所謂判決ノ基本タル
口頭辯論ナリトス二十九年第七十八號
同年四月十三日判決 賣買取結并ニ登記請求ノ件

【參照】民事訴訟法 第百三十二條 判決ハ其基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判
事ニ限リ之ヲ爲ス

○口頭辯論調書ニ於ケル裁判長ノ署名ハ書記ノ署名ト同時ニ爲スヲ要セス從
テ署名ノ日時裁判長差支アルトキハ他ノ判事之ニ代リテ署名スルモ可ナリ
二十八年第五百三十六
二十九年六月十六日判決 支拂計算并ニ剩餘金請求ノ件

証書ノ調査及
ヒ認否

○証書ノ調査及ヒ認否ハ口頭辯論調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニアラス
二十九年第七十一
號同年十月五日判決 地所受戻請求ノ件

辯論調書ノ讀
兩ケ

○口頭辯論調書ハ民事訴訟法第百三十條第一號乃至第四號ニ關スル部分ノ外
必シモ當事者ニ讀聞ケ又ハ閱覽セシムルヲ要セス二十九年二百三十三
號同年十月六日判決 不當請求排
除ノ件

【參照】民事訴訟法 第百三十條 辯論ノ進行ニ付テハ其要領ノミヲ調書ニ記載ス

調書ニ記載シテ明確ニスヘキ諸件ハ左ノ如シ

- 第一 自白認諾、拋棄及ヒ和解
 - 第二 明確ニスヘキ規定アル申立及ヒ陳述
 - 第三 證人及ヒ鑑定人ノ供述但其供述ハ以前應カサルモノナルトキ又ハ以前ノ供述ニ異ナルトキニ限ル
 - 第四 檢證ノ結果
- 以下畧ス

財産上ノ請求
ト相續シタル
場合

○養嗣子カ相續人ノ資格ヲ以テ財産上ノ訴ヲ提起シタル場合ニ於テ他ニ其相續權ノ有無ニ付キ訴訟カ繫屬シアルトキハ裁判所ハ民事訴訟法第二百一十一條ニヨリ右相續權ノ有無ニ關スル訴訟ノ完結ニ至ル迄財産上ノ訴ノ辯論ヲ中止スルヲ得ヘキモノトス

二十九抗第二十七號
同年十一月二日判決 地所登記請求抗告ノ件

【參照】民事訴訟法 第二百一十一條 裁判所ハ訴訟ノ全部又ハ一分ノ裁判カ他ノ繫屬スル訴訟ニ於テ定サルヘキ權利關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ルトキハ他ノ訴訟ノ完結ニ至ル迄中止スヘシ

○口頭辯論各期日ニ作成セル數個ノ辯論調書ニ通シ單ニ一回ノミ裁判長裁判所書記ニ於テ署名捺印スルモ其調書ヲ無効ナリト云フヲ得ス

二十九第三百九十三號
同年十一月十日

數回ノ辯論調書ヲ一併シテ署名捺印シタル場合

民事訴訟法第五條六號ノ所謂捺印ノ意義

判決軍役夫請負收益金請求ノ件

○民事訴訟法第五條第六條ニ所謂捺印ニハ必スシモ實印ヲ用ユルノ規定ナキニヨリ署名者ノ印章ナル上ハ其如何ナルモノヲ使用スルモ訴狀ノ効ニ影響ヲ及ホスコトナシ

二十九第三百三十九號
同年十二月一日判決 貸金請求ノ件

【參照】民事訴訟法 第五條第六號 準備書面ニハ左ノ諸件ヲ掲クヘシ
第六 原告者クハ被告人又ハ訴訟代理人ノ署名捺印

○口頭辯論期日ノ呼出狀ヲ送達セサル違法アルモ當事者双方カ期日ニ出頭シ辯論ヲ爲シタルトキハ其手續違背ハ裁判ニ影響ヲ及ホサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

○訴狀ニ請求ノ一定ノ原因ト一定ノ申立トヲ併記スルモ互ニ之ヲ識別シ得ヘキトキハ民事訴訟法第九十條第二項ノ要件ヲ具備スルモノトス

二十九第四百三十三號
三

十年三月 水利妨害ノ件

【參照】民事訴訟法 第九十條第二項 此訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 當事者及裁判所ノ表示
 - 第二 起シタル請求ノ一定ノ目的物及其請求ノ一定ノ原因
- 第一編 總則 口頭辯論及準備書面

訴狀ニ一定ノ原因ト一定ノ申立トヲ併記シタル場合ノ効力

辯論期日ニ呼出狀ヲ送達セサル違法アルモ當事者双方カ期日ニ出頭シ辯論ヲ爲シタル場合

第三 一定ノ申立

裁判上ノ自白

○裁判上ノ自白ハ口頭辯論ノ經過中ニ發生シタルモノニ限り單ニ準備書面中ニ存在スル自白ノ如キハ裁判外ノモノニ屬ス廿九年第三百四十三號 三十年三月廿一日判決小作契約不成立 確認請求ノ件

調書ニ記載シテ明確ナラシムルハキ事項ヲ關係人ニ讀聞ケサル場合

○調書ニ記載シテ明確ニスヘキ證人ノ供述ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシムルノ手續キテ缺クモ之レカ爲メ口頭辯論調書ハ全然無効トナルヘキモノニアラス廿九年第四百二十二號 三十年四月十三日判決地代金取戻并損害要償ノ件

辯論調書記載方ノ欠

○裁判所書記カ數回ノ口頭辯論調書ヲ一貫シ裁判言渡ノ日ニ於テ作成シ毎回作成セサルモ調書ハ無効トナラス

判事變更後ニ當事者カ第一回辯論ノ申立ハ存セサル場合ノ効力

○口頭辯論調書ノ記載方ノ欠缺ハ其欠缺事項ニ限り證明ノ效力ヲ失フマテニシテ調書其モノ、無効ヲ惹起スルモノニアラス廿九年第五百二十六號 三十年十一月十四日判決損害要償ノ件

判事變更後ニ當事者カ第一回辯論ノ申立ハ存セサル場合ノ効力

○第二回ノ口頭辯論ニ際シ判事ニ變更アリ其變更後當事者カ更ニ第一回調書ニ記載セル如キ申立ヲ爲シタル事蹟存セサルトキハ第一回辯論ノ際爲シタル申立ハ裁判所ニ於テ認メラルヘキ道理ナシ廿一年第四百九十六號 廿一年三月廿七日判決地所所有權回復

裁判言渡ノ調書ニ記載方

等ノ件

○裁判ノ言渡ハ調書ニ於テ明確ニ爲スヘキモノナリト雖モ單ニ之ヲ言渡シタルトノコトヲ記載スレハ足レリ裁判ノ結果迄モ記載スルヲ要スルモノニアラス三十年第五百六號三十一年三月十六日判決惡水下水敷確認請求ノ件

調書中一方ノ缺席及他ノ出席ヲ明確ナラシムル場合

○口頭辯論ノ期日當事者ノ一方缺席シ他ノ一方カ出廷シタルトキ調書中其出廷シタル者カ何等ノ申立ヲ爲シタル事蹟ナキトキハ口頭辯論ハ開始セラレサルモノト見ルノ外ナシ故ニ其開始ナキニ拘ハラズ職權調査ノ結果ニ依リ直ニ言渡シタル判決ハ違法ナリ三十年第二百二十二號三十一年三月十八日判決不正賣買地所登記取消并ニ取戻請求ノ件

辯論調書記載方

○口頭辯論調書ハ民事訴訟法第三百三十條第一號乃至第四號ノ事項ヲ掲ケサル場合ニ於テハ必スシモ之ヲ當事者ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシムルヲ要セス廿九年第七十二號同 廿九年五月廿七日判決公正證書ニ依リ締結シタル契約無効ニ對スル主參加ノ件

辯論調書中當事者ノ一方カ其爲シタル申立ニ取消スル旨記載アルトキ調書自白ノ効力

○適法ニ調製セラレタル認廷調書中假令當事者ノ一方カ一旦爲シタル申立及陳述等ヲ取消ス旨記載アルモ之カ爲メ調書自白ヲ無効ニ歸セシムルコトナシ三十一年第九十一號 同年六月三日判決不動產取戻請求ノ件

辯論調書中
合議ノ決定ヲ
記載スル旨
記載ナキ
場合

調書中書記
廷ノ記載ナキ
署名捺印
ル場合

一定ノ申立
訴ノ原因ト
ハサル場合

合議ヲ爲シ
ル旨ノ記載
ナキ場合

書記方辯論
列席シタル
ノ記載ナキ
場合

○口頭モ論調書中證據調ノ決定ニ付キ裁判所カ合議ヲ以テ爲シタル旨ノ記載
ナキモ合議裁判所ノ決定ハ固ヨリ合議ヲ以テ爲スヘキモノナレハ反對ノ事
跡ノ存セサル上ハ合議ニ因リテ爲シタルモノト認ムヘキモノナリ 三十二年第二
百二十八號簡
年十一月十
二日判決

○口頭辯論調書ニ書記ノ出廷シタルコトノ明記ナキモ其調書ヲ作製シタル書
記ノ署名捺印アル以上ハ當然出廷シタルモノト認ムルヲ得ヘシ 三十二年第三百四
十一號三十二年一
月三十日判決

○一定ノ申立ト訴ノ原因ト相副ハサル場合ハ所謂不明瞭ナル申立ナルヲ以テ
裁判所ハ當事者ヲシテ之ヲ釋明セシムルノ任務アリトス 三十二年第三百四十一號
三十二年三月十八日判決 融

○口頭辯論調書ニハ合議裁判所ノ評議ノ頓末ヲ記載スヘキモノニ非サルカ故
ニ特ニ合議ヲ爲シタル旨ノ記載ナキモ之ヲ以テ裁判長カ單獨ニテ裁判ヲ爲
シタルモノト論斷スルヲ得ス 三十二年第四百七十一號
三十二年四月十九日判決

○口頭辯論調書ノ末尾ニ裁判所書記ノ署名捺印アルモ其辯論ニ列席シタル旨
ノ記載ナキトキハ必要ノ方式ヲ遵守セサル不法アルモノトス 三十二年第六號同年
四月二十九日判決

被上告人カ期
日缺席シタル
場合ノ裁判

貸金請求ノ件

○被上告人カ口頭辯論期日ニ闕席シタル場合ニ於テ民事訴訟法第四百四十四
條第二百四十八條ノ規定ニ從ヒ被上告人ハ上告人ノ事實上ノ口頭供述ヲ自
白シタルモノト看做シ裁判シタルトキハ其裁判ハ闕席判決ナルモ否ラサル
場合ハ對席判決ト看做スヘキモノトス 三十二年第五十三號
同年五月十五日判決 請求ニ關スル異議ノ
件

判決ノ基礎

○裁判官ハ口頭演述ニ基キ親シク聽取リタル事實及爭點ヲ問題トシテ之ニ對
シ判決ヲ與フヘキモノトス而シテ其事實ニシテ判決理由中掲載シタル以上
ハ口頭辯論調書ニ記載ナキノ故ヲ以テ必スシモ法廷ニ顯ハレサル事實ニ據
リ判斷ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス 三十二年第二十三號
同年五月十七日判決 賣買無效確認等ノ件

○最終ノ辯論ハ判決ノ基本タル口頭辯論ナリ 三十二年十月三日判決
同年第一二四號 地料金請求ノ件

○口頭辯論ノ際ニ至リ始メテ原債權者ノ相續人トナリタルモ其相續開始前ニ
自ラ債權者ナリトシテ提起シタル訴訟ノ欠缺ヲ補正シテ當初ヨリ有効ニ提
起セラレタル訴訟ト認ムルヲ得ヘキ規定ナシ 三十二年十月十一日
判決同年第二一號 地所買受請求ノ
件

判決ノ基本
辯論ノ際ニ至
リテ初メテ原
債權者ノ相續
人ナリトシテ
欠缺ノ補正ヲ
爲シタル場合